

添付資料

目 次

添付資料－ 1 大飯発電所 第 3 号機 第 2 0 保全サイクル 保全計画

添付資料－ 2 大飯発電所 3 号機 設計の経年化評価（地震事象）

添付資料－1 大飯発電所 第3号機 第20保全サイクル 保全計画

「1.3 構築物、系統及び機器」に示された発電用原子炉施設に係る点検の実施状況等に関して、「大飯発電所 第3号機 第20保全サイクル 保全計画」をもとに、点検及び試験の項目、点検頻度等を示す。

目 次

1. 施設管理実施計画の始期（定期事業者検査の開始する日をいう。）及び期間・・・ 1
2. 発電用原子炉施設の工事の方法及び時期・・・ 1
3. 発電用原子炉施設の点検、検査等の方法、実施頻度及び時期・・・ 2
4. 発電用原子炉施設の工事及び点検等を実施する際に行う保安の確保のための措置・・・ 2

別紙：点検計画（第20保全サイクル）

別図：定期事業者検査時の安全管理の計画

別表：長期施設管理方針実施状況総括表

1. 施設管理実施計画の始期（定期事業者検査の開始する日をいう。）及び期間

本保全計画の適用期間は、第20回定期事業者検査開始日から第21回定期事業者検査開始日の前日までの期間（第20回定期事業者検査終了日以降13ヶ月までの間(※)）とし、以降、この期間を第20保全サイクルという。

ただし、この期間内に第21回定期事業者検査を開始した場合には、その前日までの期間とする。

※:第20回定期事業者検査終了日以降13ヶ月までの間を『実運転期間』という。

2. 発電用原子炉施設の工事の方法及び時期

(1) 工事の計画

a. 火災感知器設置工事：設計及び工事計画認可申請

○ 工事概要

新火災防護基準バックフィット対応として、火災区域に対し、異なる種類の火災感知器を消防法に準じた箇所に設置する。

○ 予定時期

2019年2月～2024年5月

b. 電線管耐火隔壁他設置工事：設計及び工事計画認可申請

○ 工事概要

火災防護対象ケーブルの系統分離対策を実施する。

○ 予定時期

2023年6月～2024年3月

c. 高感度型主蒸気管モニタ他取替工事：設計及び工事計画認可申請

○ 工事概要

放射線管理施設プロセスモニタリング設備のうち高感度型主蒸気管モニタについて、製造メーカーによる修理及び修繕対応が終了したことから、新たな高感度型主蒸気管モニタへの改造を実施する。

○ 予定時期

第20回定期事業者検査期間中

d. 加圧器安全弁取替工事：設計及び工事計画届出

○ 工事概要

安全弁（3V-RC-055）について、定期的な分解手入れにより弁座シート部の手入れ代が減少したことから、予防保全の観点より当該安全弁一式の取替えを実施する。

○ 予定時期

第20回定期事業者検査期間中

e. A直流電源装置盤取替工事

○ 工事概要

充電器および変圧器が経年劣化傾向にあるため、予防保全の観点からA充電器(変圧器、ドロップ盤含む)の取替えを実施する。

○ 予定時期

第20回定期事業者検査期間中

f. 2次系配管取替工事

○ 工事概要

減肉対策として、2次系配管を耐食性に優れた材料へ取替えを実施する。

○ 予定時期

第20回定期事業者検査期間中

3. 発電用原子炉施設の点検、検査等の方法、実施頻度及び時期

(1) 点検計画

定期事業者検査中及びプラント運転中の点検について、あらかじめ保全方式を設定し、点検の方法並びにそれらの実施頻度及び時期を定めた点検計画を「大飯発電所 保修業務所則(平成15大原保所則 第1号)」に基づき策定した「保全指針」に従い策定した。また、土木建築に関する設備の点検計画については、「大飯発電所 土木建築業務所則(平成19大原土所則 第1号)」に従い策定した。

点検計画のうち、定期事業者検査対象機器等に係る主要な点検の計画に基づく点検計画を別紙に記載する。

附帯設備も含めた各機器の詳細な点検計画は、「保全指針」等に規定している。

点検計画を策定又は変更するにあたっては、保全活動から得られた情報等から、保全の有効性を評価し、保全が有効に機能していることを確認するとともに、継続的な改善につなげている。なお、保全の有効性評価は、以下の情報を適切に組み合わせて行った。

- ・ 保全活動管理指標の監視結果
- ・ 保全データの推移及び経年劣化の長期的な傾向監視の実績
- ・ トラブルなど運転経験
- ・ 安全性向上評価
- ・ 他プラントのトラブル及び経年劣化傾向に係るデータ
- ・ リスク情報、科学的知見

4. 発電用原子炉施設の工事及び点検等を実施する際に行う保安の確保のための措置

定期事業者検査に伴う停止時における保安規定の運転上の制限を遵守するための計画

は、別図のとおりである。※

また、定期事業者検査以外の安全上重要な保守点検活動並びに留意事項等については、特になし。

※特定重大事故等対処施設に関する事項については添付書類七にて記載する。

別紙

点 検 計 画
(第 2 0 保 全 サ イ ク ル)

点検計画の記載について

1. 点検計画については以下の方針に従い記載している。

(1) 記載している設備について

点検計画には発電所設備の主要機器として、以下設備を対象に記載している。

①核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の14に規定する技術基準が適用される設備

a. 定期事業者検査の対象となる設備

b. 実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則別表第2において、設計及び工事の計画に記載が要求されている設備

なお、設計及び工事の計画において仕様が記載されていない設備については、日常の管理の中で健全性が確認でき、かつ、取替が可能な下記のものについて除外する。

(a) 防保護具、現地操作時に用いる工具類

(b) 一般消耗品（電池類他）

(c) 一般産業品（可搬型照明、電話・ファクシミリ他）

②保全の重要度が高い設備

保全重要度が高い設備とは、以下の設備を指す。

a. 安全機能の重要度が高い設備

b. 供給信頼性重要度が高い設備

c. リスク重要度が高い設備

なお、アクシデントマネジメント（AM）対応設備であることにより、保全の重要度を「高」とした設備については、点検計画において「AM（対応するアクシデントマネジメント名）機器」として明示している。

(2) 記載している点検について

点検計画には上記設備の主要な点検として、以下を記載している。

- ・ 定期事業者検査に係る点検
- ・ 定期事業者検査の都度性能維持のための措置を伴う点検
- ・ 定期事業者検査に係る点検の実施頻度より短い実施頻度で行う性能維持のための措置を伴う点検
- ・ 記載対象設備において、上記に該当する点検が無い設備については主要な点検

上記以外の点検（主要機器の上記条件以外の点検や附帯設備^{*1}の点検等）については、「大飯発電所 保守業務所則（平成15大原保所則 第1号）」に基づき策定した

「保全指針」及び「大飯発電所 土木建築業務所則（平成19大原土所則 第1号）」に定めている。

※1：附帯設備の例

〔潤滑油、潤滑水、シール水、冷却設備、電源、制御回路、オリフィス〕
レジューサ、フローグラス 等

（3）保全の重要度について

「グレード分け通達（平成18原品証通達第2号）」等の考え方に従い、「高」又は「低」のいずれかで表記している。

なお、重要度「高」及び定期事業者検査対象の設備については、保全方式として予防保全（時間基準保全、状態基準保全）を選定し、事後保全は選定していない。

（4）保全方式について

保全方式について以下のとおり記載している。

- ・ 時間基準保全を採用しているもの：点検頻度
- ・ 状態基準保全を採用しているもの：CBM
- ・ 事後保全を採用しているもの：BM

（5）点検頻度について

次の整理により「F」：保全サイクル、「M」：月、「Y」：年で表記している。

- ・ 性能維持のための措置を伴う点検及びそれに伴い実施する点検については、「M」又は「Y」により表記している。なお、記載した頻度のうち「M」は、運転期間（総合負荷性能検査～解列）に対応した値を示している。
また、複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目については、その点検頻度の最短及び最長のものを記載している。
- ・ 供用期間中検査のように年度管理するものについては、「Y」により表記している。
- ・ 機器の分解点検時期に合わせて実施する機能・性能試験については、「B」により表記している。また、その他、性能維持のための措置を伴わない点検のうち、分解・開放点検等の性能維持のための措置を伴う点検と合わせて実施するものについても「B」^{※2}と表記している。なお、回転機器（ポンプ、ファン等）等、本体と駆動部で構成される機器は、一方が分解点検を実施した場合においても、その後の機能・性能試験で本体と駆動部の機能・性能を確認する。
- ・ これ以外で性能維持のための措置を伴わない点検については、「F」^{※2}により

表記している。また、性能維持のための措置を伴わない点検であっても、当該点検が、プラント運転期間中の発電用原子炉施設の保安の確保に支障がなく、年度管理するものについては、「Y」により表記している。

- ・このほか肉厚管理指針に従い管理する肉厚測定は、検査箇所ごとの管理となるため、本表では“肉厚管理指針による”と表記している。
- ・機能・性能試験の結果等を踏まえて適宜実施する点検については、「X」により表記している。

※2：「B」、「F」により表記しているものは、基本的に性能維持のための措置を予定していない点検であり、劣化進展がごく軽微なため、分解・開放点検や定期事業者検査停止時期に合わせた実施管理が適しているものを対象にしている。

(6) 点検時期について

- ・時間基準保全の点検については、“定期事業者検査起動後”、“プラント運転中”の表現により、備考欄に実施時期を記載している。なお、これらの記載のないものについては、定期事業者検査停止中に実施することとしている。
- ・プラント停止（定期事業者検査）に先立ち、プラント運転中に実施する定期的な点検を「先行実施」とし、その対象設備は備考欄に明記し、区別する。

(7) 状態監視方法の記載について

- ・保全方式として状態基準保全を用いる機器については、経年劣化事象等による劣化の有無・劣化の傾向を監視する方法（状態監視技術、定例試験、巡視点検等）及びその頻度を備考欄に記載している。
- ・保全方式として時間基準保全を採用している機器については、保全をより充実する観点で採用している状態監視技術について方法・頻度を備考欄に記載している。
- ・状態監視技術のうち振動診断の頻度については、年度におけるデータ採取回数を「M」表示となるよう平均し記載している。

なお、第20保全サイクル中に点検を計画するものについては、「点検計画」に「○」※³を記載している。

また、「点検計画」には、当該点検の前回実績（実施時期）※⁴も記載している。

※3：複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目については、本保全サイクルの中に一つでも点検の計画があれば「○」としている。

※4：複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目にあつては、最新実績を記載している。

目次※

機器又は系統名	ページ
原子炉本体	1/52
[炉心]	
[原子炉容器]	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	1/52
[燃料取扱設備]	
[使用済燃料貯蔵設備]	
[使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備]	
[燃料取替用水設備]	
原子炉冷却系統施設	4/52
[一次冷却材の循環設備]	
[主蒸気・主給水設備]	
[余熱除去設備]	
[非常用炉心冷却設備]	
[化学体積制御設備]	
[原子炉補機冷却設備]	
[原子炉補機冷却海水設備]	
[原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置]	
[蒸気タービンの附属設備]	
計測制御系統施設	20/52
[制御材]	
[制御棒駆動装置]	
[ほう酸注入機能を有する設備]	
[工学的安全施設等の作動信号]	
[制御用空気設備]	
[その他設備]	
放射性廃棄物の廃棄施設	23/52
[気体、液体又は固体廃棄物処理設備]	
[気体、液体又は固体廃棄物貯蔵設備]	
[原子炉格納容器本体外の廃棄物貯蔵設備又は廃棄物処理設備からの液体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置又は自動警報装置]	
放射線管理施設	27/52
[放射線管理用計測装置]	
[換気設備]	
[生体遮蔽装置]	
[その他設備]	

機器又は系統名	ページ
原子炉格納施設	35/52
[原子炉格納容器]	
[圧力低減設備その他の安全設備]	
原子力設備	41/52
[その他設備]	
原子力設備・タービン設備	41/52
[その他設備]	
蒸気タービン	42/52
[車室、円板、隔板、噴口、翼、車軸]	
[調速装置及び非常調速装置並びに調速装置で制御される主要弁]	
[復水器]	
[蒸気タービンに附属する熱交換器]	
[蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備]	
[蒸気タービンに附属する管等]	
[その他設備]	
その他発電用原子炉の附属施設	47/52
[非常用発電装置]	
[その他の電源装置]	
[常用電源設備]	
[補助ボイラー]	
[火災防護設備]	
[浸水防護施設]	
[補機駆動用燃料設備]	
[非常用取水設備]	
土木建築設備	52/52
プラント総合	52/52
全般機器	52/52

- 別表－１：クラス１機器供用期間中検査１０年計画
 別表－２：クラス２機器供用期間中検査１０年計画
 別表－３：クラス３機器供用期間中検査１０年計画
 別表－４：クラス１機器N i 合金使用部位特別検査１０年計画
 別表－５：クラス２管（原子炉格納容器内）特別検査１０年計画
 別表－６：原子炉格納容器供用期間中検査１０年計画
 別表－７：重大事故等クラス１機器供用期間中検査１０年計画
 別表－８：重大事故等クラス２機器供用期間中検査１０年計画
 別表－９：重大事故等クラス３機器供用期間中検査１０年計画
 別表－１０：クラス１配管特別検査４年計画

※特定重大事故等対処施設に関する事項については添付書類七に記載する。

1. 点検計画

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術 ※: 炉心設計による		
原子炉本体 〔炉心〕	照射済燃料集合体	※ 1式	高	1F	○	19回	燃料集合体外観検査	※: 炉心設計による		
	照射済燃料集合体 (取出燃料)	※ 1式	高	1F	○	19回		※: 炉心設計による		
	燃料集合体	193体	高	1F	○	19回	燃料集合体炉内配置検査			
	内挿物 ・制御棒クラススタ ・バーナブルポイズン ・シンブルアラグアセンブリ ・2次中性子源	※ 1式	1. 外観点検 (炉内配置)	高	1F	○	19回	燃料集合体炉内配置検査	※: 炉心設計による	
		原子炉本体のうち炉心	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	原子炉停止余裕検査	定期事業者検査起動後	
			2. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	炉物理検査		
	原子炉本体 〔原子炉容器〕	原子炉容器	1. 開放点検	高	13M	○	19回			
			1. 外観点検	高	3F	—	19回	構造健全性検査		
		核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取扱設備〕	116箇所	1. 機能・性能試験 (リフティング・フレーム)	高	1F	○	19回	燃料取扱装置機能検査	
				2. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	燃料取扱設備検査 (動作・イン ターロック試験等)	
3. 簡易点検 (潤滑油給油)				高	26M	○	18回			
燃料取替クレーン		1台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	燃料取扱装置機能検査		
			2. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	燃料取扱設備検査 (動作・イン ターロック試験等)		
			3. 簡易点検 (潤滑油給油)	高	26M	○	18回			
使用済燃料ピットクレーン		1台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	燃料取扱装置機能検査	先行実施	
			2. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	燃料取扱設備検査 (動作・イン ターロック試験等)		
	3. 簡易点検 (潤滑油給油)		高	26M	○	18回				
新燃料エレベータ	1台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	燃料取扱設備検査	先行実施		
		2. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	燃料取扱設備検査 (動作・イン ターロック試験等)			
		3. 簡易点検 (潤滑油給油)	高	26M	○	18回				
補助建屋クレーン	1台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	燃料取扱設備検査	先行実施		
		2. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	燃料取扱設備検査 (動作・イン ターロック試験等)			
		3. 簡易点検 (点検手入れ)	低	1Y	○	19回	燃料取扱設備検査 (動作・イン ターロック試験等)	年次点検 プラットフォーム運転中又は定期事業 者検査停止 中 先行実施		
新燃料取扱工具	1台	1. 外観点検	低	1F	○	燃料取扱設備検査 (動作・イン ターロック試験等)				

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取扱設備〕	使用済燃料取扱工具	1. 外観点検	低	1F	○	19回	燃料取扱設備検査 (動作・インテークテスト等)	先行実施	
	燃料仮置ラック	1. 外観点検	高	1F	○	19回	燃料取扱設備検査 (動作・インテークテスト等)		
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取扱設備〕 その他機器	1. 分解点検他	高	13M~156M	○	19回		有効性評価 No.1の反映	
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵設備〕	使用済燃料ビット温度	1. 特性試験	高	13M~26M	○	19回	計測制御系監視機能検査	有効性評価 No.24の反映
		使用済燃料ビット水位	1. 特性試験	高	13M	○	19回	計測制御系監視機能検査	
		可搬式使用済燃料ビット水位	1. 特性試験	高	13M	○	19回	計測制御系監視機能検査	16回施設定検時に設置
		使用済燃料ビット温度 (AM用)	1. 特性試験	高	13M	○	19回	フロント状態監視機能検査	16回施設定検時に設置
		使用済燃料ビット水位 (AM用)	1. 特性試験	高	13M	○	19回	フロント状態監視機能検査	16回施設定検時に設置
		使用済燃料ビット監視カメラ	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	可搬型重大事故等対処設備機能検査	16回施設定検時に設置
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕	使用済燃料ビット浄化冷却設備	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機等含む)	高	1F	○	19回	使用済燃料ビット関係設備機能検査	(振動診断: 1 2M) 先行実施
A 使用済燃料ビットポンプ・電動機		1. 分解点検 (ポンプ)	高	91M	—	19回			
		2. 分解点検 (電動機)		78M	○	16回			
		3. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	—	19回			
B 使用済燃料ビットポンプ・電動機		1. 分解点検 (ポンプ)	高	91M	○	15回		(振動診断: 1 2M) 先行実施	
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	18回			
		3. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	18回			
送水車		3台	1. 機能・性能試験 (ポンプ)	高	15M	○	19回	可搬型重大事故等対処設備機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置 先行実施
			2. 外観点検		1Y	○	19回		
大容量ポンプ (放水用)		3台	1. 機能・性能試験	高	15M	○	19回	可搬型重大事故等対処設備機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置 X*: 10%詳細点検の結果により適宜実施 先行実施
	2. 分解点検			X*	—	—			
	3. 漏えい試験			195M	—	9回			
送水車	3台	1. 開放点検	高	130M	—	17回		先行実施	
		1. 開放点検	高	130M	—	16回		先行実施	
		1. 開放点検	高	195M	—	9回		1次系熱交換器検査 先行実施	
		2. 非破壊試験		195M	—	9回			
		3. 漏えい試験		195M	—	9回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)		
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕	B 使用済燃料ピット冷却器	1. 開放点検	高	195M	—	16回	1 次系熱交換器検査	先行実施		
		2. 非破壊試験		195M	—	16回	1 次系熱交換器検査			
		3. 漏えい試験		195M	—	16回				
	C 使用済燃料ピット冷却器	1. 開放点検	高	130M	—	17回		先行実施		
		2. 漏えい試験		130M	—	17回				
		1. 機能・性能試験		B	○	19回				
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 その他の弁	1式	1. 機能・性能試験	高・低	104M～195M	○	19回	1 次系弁検査	一部先行実施 有効性評価 No.2の反映	
			2. 分解点検		130M～195M	○	19回			
			3. 簡易点検 (グラウンドバッキン取替)		78M	—	16回			
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水ポンプ・電動機〕	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 その他機器	1. 分解点検他	高・低	78M	—	16回			
			1. 機能・性能試験		B*	○	16回	1 次系ポンプ機能検査		B*: ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (振動診断: 1 2 M)
			2. 分解点検 (ポンプ)		130M	○	12回			
3. 分解点検 (電動機)		52M	○	16回						
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水ポンプ・電動機〕		1式	4. 簡易点検 (潤滑油入替)	高	26M	○	18回			
			1. 機能・性能試験		B*	○	18回	1 次系ポンプ機能検査		
			2. 分解点検 (ポンプ)		130M	—	18回			
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水設備〕 その他の弁		1式	3. 分解点検 (電動機)	高・低	52M	○	16回		一部先行実施 有効性評価 No.3の反映	
			4. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	18回			
			1. 機能・性能試験		B	○	18回	1 次系弁検査		
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水設備〕 その他機器		1式	2. 分解点検	高	130M～195M	○	18回		有効性評価 No.3の反映	
			3. 簡易点検 (グラウンドバッキン取替)		130M～195M	—	18回			
	1. 分解点検他		130M		—	16回				

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備]	A 蒸気発生器	伝熱管 3,382本 1次側	高	26M	○	18回	蒸気発生器伝熱管体積検査	
		2次側	高	13M	○	19回		
		1. 開放点検	高	13M	○	19回		
		2. 簡易点検 (スラッジランシング)		13M	○	19回		
		3. スケール回収 (稠密層厚さ計測、ス ケール摩耗試験)		26M	—	19回		
		マンホール	高	13M	○	19回		
	B 蒸気発生器	伝熱管 3,382本	高	26M	—	19回	蒸気発生器伝熱管体積検査	
		1次側	高	13M	○	19回		
		2次側	高	13M	○	19回		
		1. 開放点検		13M	○	19回		
		2. 簡易点検 (スラッジランシング)		26M	—	19回		
		3. スケール回収 (稠密層厚さ計測、ス ケール摩耗試験)		13M	○	19回		
C 蒸気発生器	マンホール	高	13M	○	19回			
	伝熱管 3,382本	高	26M	○	18回	蒸気発生器伝熱管体積検査		
	1次側	高	13M	○	19回			
	2次側	高	13M	○	19回			
	1. 開放点検		13M	○	19回			
	2. 簡易点検 (スラッジランシング)		26M	—	19回			
	3. スケール回収 (稠密層厚さ計測、ス ケール摩耗試験)		13M	○	19回			
	マンホール	高	13M	○	19回			
	D 蒸気発生器	伝熱管 3,382本	高	26M	—	19回	蒸気発生器伝熱管体積検査	
		1次側	高	13M	○	19回		
		2次側	高	13M	○	19回		
		1. 開放点検		13M	○	19回		
2. 簡易点検 (スラッジランシング)			26M	—	19回			
3. スケール回収 (稠密層厚さ計測、ス ケール摩耗試験)			13M	○	19回			
加圧器	マンホール	高	13M	○	19回			
	1. 開放点検 (ガスケット取替他)	高	13M	○	19回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備]	加圧器安全弁	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	加圧器安全弁機能検査	
		2. 漏えい試験		B	○	19回	加圧器安全弁漏えい検査	
		3. 分解点検		13M	○	19回	加圧器安全弁分解検査	
	加圧器逃がし弁	1. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	1F	○	19回	加圧器逃がし弁機能検査	
		2. 漏えい試験		1F	○	19回	加圧器逃がし弁漏えい検査	
		3. 分解点検		26M	○	18回	加圧器逃がし弁分解検査	
	加圧器逃がし弁駆動部	1. 分解点検	高	26M	○	18回		
		2. 簡易点検 (特性点検)		13M	○	19回		
		3. 分解点検		1F	○	19回	加圧器逃がし弁機能検査	
	加圧器逃がし弁	1. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	1F	○	19回	加圧器逃がし弁機能検査	
		2. 漏えい試験		1F	○	19回	加圧器逃がし弁漏えい検査	
		3. 分解点検		26M	—	19回	加圧器逃がし弁分解検査	
	加圧器逃がし弁駆動部	1. 分解点検	高	26M	—	19回		
		2. 簡易点検 (特性点検)		13M	○	19回		
		3. 分解点検		1F	○	19回	加圧器逃がし弁元弁機能検査	
	加圧器逃がし弁前弁	1. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	130M	—	13回		
		1. 分解点検		130M	—	14回		
		2. 簡易点検 (特性点検)		78M	—	18回		
	加圧器逃がし弁前弁駆動部	1. 分解点検	高	13M~78M	○	19回		
		2. 簡易点検 (特性点検)		1F	○	19回	1次冷却材ポンプ機能検査	
3. 分解点検 (ポンプ)		130M		—	17回			
A 1次冷却材ポンプ・電動機	3V-RC-055 3V-RC-056 3V-RC-057	3. 分解点検 (メカニカルシール) (ポンプ)	高	13M	○	19回	1次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査	一部先行実施
		4. 分解点検 (フライホイール) (電動機)		104M	—	15回		
		5. 分解点検 (軸受分解) (電動機)		52M	—	19回		
	3PCV-452A	6. 分解点検 (全分解) (電動機)	高	104M	—	15回		
		7. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)		26M	—	19回		
	2個							
	3V-RC-054A 3V-RC-054B							

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術 一部定期事業者検査起動後
原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備]	B 1 次冷却材ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1 次冷却材ポンプ機能検査	()内は適用する設備診断技術 一部定期事業者検査起動後
		2. 分解点検 (ボンプ)		130M	—	18回		
		3. 分解点検 (メカニカルシール) (ボンプ)		13M	○	19回	1 次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査	
		4. 分解点検 (フライホイール) (電動機)		104M	—	16回		
		5. 分解点検 (軸受分解) (電動機)		52M	○	16回		
		6. 分解点検 (金分解) (電動機)		104M	—	16回		
		7. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)		26M	○	18回		
	C 1 次冷却材ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1 次冷却材ポンプ機能検査	()内は適用する設備診断技術 一部定期事業者検査起動後
		2. 分解点検 (ボンプ)		130M	—	19回		
		3. 分解点検 (メカニカルシール) (ボンプ)		13M	○	19回	1 次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査	
		4. 分解点検 (フライホイール) (電動機)		104M	—	17回		
		5. 分解点検 (軸受分解) (電動機)		52M	—	17回		
		6. 分解点検 (金分解) (電動機)		104M	—	17回		
		7. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)		26M	—	19回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術 一部定期事業者検査起動後
原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備]	D 1 次冷却材ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	IF	○	19回	1 次冷却材ポンプ機能検査	一部定期事業者検査起動後
		2. 分解点検 (ポンプ)		130M	—	16回		
		3. 分解点検 (メカニカルシール)		13M	○	19回	1 次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査	
		4. 分解点検 (フライホイール)		104M	—	18回		
		5. 分解点検 (軸受分解)		52M	—	18回		
		6. 分解点検 (金分解)		104M	—	18回		
		7. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	18回		
原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備] その他の弁	1式	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	1 次系弁検査	
		2. 分解点検		52M~130M	○	19回		
		3. 分解点検		78M~195M	○	19回	1 次系弁検査	
		4. 簡易点検 (グランドバッキング取替)		39M~195M	○	19回		
原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備] その他の弁駆動部	1式	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	1 次系弁検査	一部BMあり 有効性評価 №.4の反映 有効性評価 №.4の反映
		2. 分解点検		26M~65M	○	19回		
		3. 簡易点検 (特性点検)		13M~65M	○	19回		
原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備] その他機器	1式	1. 分解点検他	高	13M~104M	○	19回		
		2. 分解点検他		13M~65M	○	19回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 [主蒸気・主給水設備]	主蒸気安全弁	20個 1. 機能・性能試験 2. 漏えい試験 3. 分解点検	高	IF	○	19回	主蒸気安全弁機能検査	
	B, D系 3V-MS-526B 3V-MS-527B 3V-MS-528B 3V-MS-529B 3V-MS-530B 3V-MS-526D 3V-MS-527D 3V-MS-528D 3V-MS-529D 3V-MS-530D	1. 漏えい試験 2. 分解点検	高	B	—	19回	主蒸気安全弁漏えい検査	
	A, C系 3V-MS-526A 3V-MS-527A 3V-MS-528A 3V-MS-529A 3V-MS-530A 3V-MS-526C 3V-MS-527C 3V-MS-528C 3V-MS-529C 3V-MS-530C	1. 漏えい試験 2. 分解点検	高	B	○	18回	主蒸気安全弁漏えい検査	
	4個	1. 機能・性能試験 (駆動部含む) 2. 分解点検	高	IF	○	19回	主蒸気逃がし弁機能検査 最終ヒートシンク熱輸送設備動作検査 主蒸気逃がし弁漏えい検査	最終ヒートシンク熱輸送設備動作検査は、16回施設定検から設定
	3PCV-3610 3PCV-3620 3PCV-3630 3PCV-3640	1. 漏えい試験 2. 分解点検	高	B	○	19回	主蒸気逃がし弁機能検査	
	主蒸気逃がし弁駆動部	1. 分解点検 2. 簡易点検 (特性点検)	高	52M 13M	○ ○	19回 19回		
	主蒸気隔離弁	4個 1. 機能・性能試験 (駆動部含む) 2. 分解点検	高	IF	○	19回	主蒸気隔離弁機能検査	
	3V-MS-533A	1. 分解点検	高	39M	○	17回	2次系弁検査	
	3V-MS-533B	1. 分解点検	高	39M	—	18回	2次系弁検査	
	3V-MS-533C	1. 分解点検	高	39M	—	19回	2次系弁検査	
	3V-MS-533D	1. 分解点検	高	39M	—	18回	2次系弁検査	
	主蒸気隔離弁駆動部	1. 分解点検 2. 簡易点検 (特性点検)	高	39M 13M	○ ○	19回 19回		
	タービンバイパス弁	15個 1. 機能・性能試験 (駆動部含む) 2. 分解点検	高	1F	○	19回	タービンバイパス弁機能検査	
	タービンバイパス弁駆動部	1. 分解点検 2. 簡易点検 (特性点検)	高	26M 52M	○ ○	19回 19回		
		1. 分解点検 2. 簡易点検 (特性点検)	高	13M	○	19回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回の実施時期 (定検回次)	検査名	備考 (() 内は適用する 設備診断技術)	
原子炉冷却系統施設 [主蒸気・主給水設備]	原子炉冷却系統施設 [主蒸気・主給水設備] 1式 その他の弁	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	17回	2次系弁検査		
		2. 分解点検		26M~130M	○	19回	2次系弁検査		
		3. 簡易点検 (グランドバッキング取替)		52M~130M	○	19回			
		1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	2次系弁検査		
		2. 分解点検		26M~182M	○	19回			
		3. 簡易点検 (特性能点検)		13M~182M	○	19回			
原子炉冷却系統施設 [主蒸気・主給水設備] その他の機器	原子炉冷却系統施設 [主蒸気・主給水設備] 1式	1. 分解点検他	高	13M~104M	○	19回			
		2. 分解点検他	低	13M~104M	○	19回			
		1. 機能・性能試験	高	B*	—	—	19回		1次系ポンプ機能検査
		2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	—	19回		非常用炉心冷却系ポンプ分解 査 その他原子炉注水系ポンプ分解 検査
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	—	16回		
原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備]	A余熱除去ポンプ・電動機	4. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ))		26M	—	—	19回		
		5. 簡易点検 (潤滑油入替 (電動機))		26M	○	—	18回		
		1. 機能・性能試験	高	B*	—	—	15回	1次系ポンプ機能検査	
		2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	—	15回	非常用炉心冷却系ポンプ分解 査 その他原子炉注水系ポンプ分解 検査	
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	—	14回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ))		26M	○	—	18回		
		5. 簡易点検 (潤滑油入替 (電動機))		26M	—	—	19回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)	
原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備]	低圧注入系主要弁	3V-RH-050A	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設設定検から	
		3V-RH-050B	高	130M	—	14回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
		3V-RH-050C	高	130M	—	17回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
		3V-RH-050D	高	130M	—	17回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査		
		3V-RH-051A	高	130M	○	12回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査		
	3V-RH-051B	高	130M	—	13回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査			
	A 余熱除去冷却器		1. 開放点検	高	130M	—	18回	1次系熱交換器検査	
			2. 非破壊試験		130M	—	18回	1次系熱交換器検査	
			3. 漏えい試験		130M	—	18回		
	B 余熱除去冷却器		1. 開放点検	高	130M	—	19回	1次系熱交換器検査	
2. 非破壊試験				130M	—	19回	1次系熱交換器検査		
3. 漏えい試験				130M	—	19回			
原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備] その他の弁	1式	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	1次系弁検査 1次系安全弁検査 1次系弁検査	一部BMあり 有効性評価 No.5の反映 有効性評価 No.5の反映	
		2. 分解点検	高	52M~130M	○	19回			
		3. 分解点検	低	130M~195M	○	19回			
		4. 簡易点検 (グラウンドバックスン取替)	高・低	65M~195M	○	19回			
原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備] その他の弁駆動部	1式	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	18回	1次系弁検査		
		2. 分解点検		52M~182M	○	18回			
		3. 簡易点検 (特性点検)		13M~182M	○	19回			
原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備] その他機器	1式	1. 分解点検他	高	19M~130M	○	19回			
		2. 分解点検他	低	65M~130M	—	17回			
その他AM(代替再循環) 機器	1式	1. 分解点検他	高	130M~182M	○	19回	1次系弁検査		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	高圧及び低圧注入系 (余熱除去設備 (低圧注入機能) を含む) その他原子炉注水系	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、弁、弁駆動部等含む)	高	1F	○	19回	非常用炉心冷却系機能検査	[対象設備] ・A,B低圧注入系 ・A,B高圧注入系 ・B高圧注入系 (電動機海水冷却) ・A,B,C充てん系 ・B充てん系 (電動機自己冷却) 16回施設定検から設定
		1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	その他原子炉注水系機能検査	
	A 高圧注入ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	130M	—	12回	非常用炉心冷却系ポンプ分解検査 その他原子炉注水系ポンプ分解検査	(振動診断: 1F) その他原子炉注水系ポンプ分解検査は、16回施設定検から設定
			2. 分解点検 (電動機)	高	91M	—	19回	
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取替) (ポンプ)	高	130M	—	12回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)	高	26M	○	18回		
	B 高圧注入ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	130M	—	13回	非常用炉心冷却系ポンプ分解検査 その他原子炉注水系ポンプ分解検査	(振動診断: 1F) その他原子炉注水系ポンプ分解検査は、16回施設定検から設定
			2. 分解点検 (電動機)	高	91M	—	19回	
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取替) (ポンプ)	高	130M	—	13回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)	高	26M	—	19回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)	
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	恒設代替低圧注水系	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機含む) 2. 分解点検 (ポンプ)	高	1F	○	19回	その他原子炉注水系機能検査 原子炉格納容器安全系機能検査	16回施設定検時に設置	
	恒設代替低圧注水系・電動機	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 (ポンプ)	高	1F	○	19回	その他原子炉注水系ポンプ分解検査 原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査	16回施設定検時に設置	
	可搬式代替低圧注水系・電動機	3. 分解点検 (電動機)	高	130M	—	—	—	その他原子炉注水系ポンプ分解検査 原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査	
		1. 機能・性能試験	高	15M	○	19回	19回	可搬型重大事故等対処設備機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置 先行実施
		2. 機能・性能試験	高	10F	○	—	—	可搬型重大事故等対処設備機能検査	10F分解点検に合わせて実施
		3. 分解点検 (ポンプ)	高	10F	○	—	—	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置	
	高圧注水系主要弁	4. 分解点検 (電動機)	高	130M	—	—	—	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置	
		1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
		1. 分解点検	高	130M	—	—	15回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
		1. 分解点検	高	130M	—	—	15回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	高圧注水系主要弁	1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
		1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
		1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
		1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	高圧注水系主要弁	1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から
		1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から
		1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から
		1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から
	高圧注水系主要弁	1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から
		1. 分解点検	高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から
1. 分解点検		高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から	
1. 分解点検		高	260M	—	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から	
高圧注水系主要弁	1. 分解点検	高	260M	○	—	—	非常用炉心冷却系主要弁分解検査		
	1. 分解点検	高	260M	○	—	—	非常用炉心冷却系主要弁分解検査		
	1. 分解点検	高	260M	○	—	6回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査		
	1. 分解点検	高	260M	○	—	6回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	蓄圧注入系 蓄圧注入系主要弁	1. 機能・性能試験 (弁、弁駆動部を含む)	高	1F	○	19回	非常用炉心冷却系機能検査 その他原子炉注水系機能検査	その他原子炉注水系機能検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	13回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	14回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	15回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	18回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	18回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	17回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 (○内は適用する設備診断技術)	
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	蓄圧注入系主要弁駆動部 A.蓄圧タンク B.蓄圧タンク C.蓄圧タンク D.蓄圧タンク 燃料取替水ピット A、B格納容器再循環サンプ A、B格納容器再循環サンプスクリュー	1. 分解点検	高	182M	—	16回			
		2. 簡易点検 (特許点検)		13M~182M	○	19回			
		1. 開放点検	高	130M	—	14回			
		1. 開放点検	高	130M	—	16回			
		1. 開放点検	高	130M	—	16回			
		1. 開放点検	高	130M	—	18回			
		1. 外観点検	高	1F	○	19回			
		1. 外観点検	高	1F	○	19回			
		1. 外観点検	高	1F	○	19回		15回施設定検時に設置	
		2. 外観点検		10Y	—	18回		原子炉格納容器再循環サンプスクリュー検査	
		1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回		1次系弁検査 1次系安全弁検査	
		2. 分解点検	高	78M~260M	○	19回		1次系弁検査	
		3. 分解点検	低	78M~260M	○	19回		1次系逆止弁検査	
		4. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替)	高・低	78M~130M	○	19回			
		原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] その他の弁駆動部 原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] その他の弁駆動部 原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] その他の機器 充てんポンプ A.充てんポンプ・電動機	1式 1式 3台	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	18回	1次系弁検査
2. 分解点検				65M~182M	○	18回			
3. 簡易点検 (特許点検)				13M~182M	○	19回			
1. 分解点検他	高			13M~91M	○	19回			
2. 分解点検他	低			13M~130M	○	19回			
1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機等含む)	高			1F	○	19回		充てんポンプ冷却材補給系機能検査	
1. 分解点検 (ポンプ)	高			78M	—	18回		その他原子炉注水系ポンプ分解検査 その他原子炉注水系ポンプ分解検査 化学体積制御系充てんポンプ分解検査	(振動診断: 12M) その他原子炉注水系ポンプ分解検査は、16回施設定検から設定
2. 分解点検 (電動機)				130M	—	16回			
3. 簡易点検 (メカニカルシール取替)				26M	○	18回			
4. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ))				26M	○	18回			
5. 簡易点検 (潤滑油入替 (電動機))				13M	○	19回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 〔化学体積制御設備〕	B 充てんポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	78M	—	17回	その他原子炉注水系ポンプ分解検査 化学体積制御系充てんポンプ分解検査	() 内は適用する設備診断技術) (振動診断: 1 2 M) その他原子炉注水系ポンプ分解検査は、16回施設設定検から設定
		2. 分解点検 (電動機)		130M	—	16回		
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取替) (ポンプ)		26M	—	19回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	19回		
		5. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)		13M	○	19回		
	C 充てんポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	65M	—	19回	その他原子炉注水系ポンプ分解検査	その他原子炉注水系ポンプ分解検査は、16回施設設定検から設定 (電動機 振動診断: 1 F)
		2. 分解点検 (電動機)		CBM	—	13回		
		3. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	18回		
		1. 分解点検		130M	—	16回		
	その他原子炉注水系主要弁	1. 分解点検	高	130M	—	12回	その他原子炉注水系主要弁分解検査 1 次系弁検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 1 次系弁検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 1 次系弁検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 1 次系弁検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設設定検から設定 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、17回施設設定検から設定 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、18回施設設定検から設定 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、19回施設設定検から設定
		1. 分解点検		130M	—	12回		
		1. 分解点検		130M	—	12回		
		1. 分解点検		130M	—	15回		
	体積制御タンク 冷却材フィルタ A 冷却材脱塩塔入口フィルタ B 冷却材脱塩塔入口フィルタ A 封水注入フィルタ B 封水注入フィルタ 非再生冷却器 封水冷却器	1. 開放点検	高	130M	○	10回	1 次系弁検査 1 次系弁検査	先行実施 先行実施
		1. 開放点検		130M	—	19回		
		1. 開放点検		130M	—	15回		
		1. 開放点検		130M	—	14回		
		1. 開放点検		130M	—	17回		
		1. 開放点検		130M	—	16回		
		1. 開放点検		130M	—	19回		
2. 非破壊試験		130M		—	19回			
3. 漏えい試験		130M		—	19回			
1. 開放点検		130M		○	12回			
2. 非破壊試験		130M		○	12回			
3. 漏えい試験		130M		○	12回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
原子炉冷却系統施設 〔化学体積制御設備〕	余剰抽出水冷却器	1. 開放点検	高	130M	—	18回			
		2. 非破壊試験		130M	—	18回			
		3. 漏えい試験		130M	—	18回			
	原子炉冷却系統施設〔化学体積制御設備〕 その他の弁	1式	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	1次系弁検査 1次系安全弁検査	
			2. 分解点検	高	13M~260M	○	19回	1次系弁検査	
			3. 分解点検	低	78M~260M	○	19回	1次系逆止弁検査 1次系弁検査	一部BMあり
			4. 簡易点検 (グラウンドバックスン取替)	高・低	65M~195M	○	19回	1次系逆止弁検査	有効性評価 No.6の反映
	原子炉冷却系統施設〔化学体積制御設備〕 その他の弁駆動部	1式	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	1次系弁検査	
			2. 分解点検		52M~182M	○	19回		
			3. 簡易点検 (特性点検)		13M~182M	○	19回		
			1. 分解点検他	高	13M~130M	○	19回		
	原子炉補機冷却系 (冷却水系)		2. 分解点検他	低	13M~130M	○	19回		一部BMあり
		1. 機能・性能試験 (弁、弁駆動部等含む)	高	1F	○	19回	原子炉補機冷却系機能検査		
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却設備〕	A 原子炉補機冷却水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	○	17回	1次系ポンプ機能検査	B*: ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (振動診断: 1 2 M)	
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	○	17回			
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	15回			
		4. 簡易点検 (潤滑油入替 ポンプ)		26M	○	19回			
		5. 簡易点検 (潤滑油入替 電動機)		52M	—	18回			
	B 原子炉補機冷却水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	○	16回	1次系ポンプ機能検査	B*: ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (振動診断: 1 2 M)	
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	○	16回			
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	16回			
		4. 簡易点検 (潤滑油入替 ポンプ)		26M	○	18回			
		5. 簡易点検 (潤滑油入替 電動機)		52M	—	17回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術 B*:ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (振動診断: 1 2 M)			
原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却設備]	C 原子炉補機冷却水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	—	19回	1 次系ポンプ機能検査	B*:ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (振動診断: 1 2 M)			
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	19回					
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	14回					
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	19回					
		5. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)		52M	—	17回					
	D 原子炉補機冷却水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	—	18回	1 次系ポンプ機能検査	B*:ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (振動診断: 1 2 M)			
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	18回					
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	16回					
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	18回					
		5. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)		52M	—	17回					
	大容量ポンプ	1. 機能・性能試験	高	15M	○	19回	可搬型重大事故等対処設備機能検査	プラント運転中又は定期事業者 検査停止中 16回施設定検時に設置 先行実施 X*: 10%詳細点検の結果により 適宜実施			
		2. 分解点検		X*	—	—					
		格納容器水素ガス試料冷却器用可搬型冷却水ポンプ		1. 機能・性能試験	高	1F			○	19回	可搬型重大事故等対処設備機能検査
				1. 開放点検		130M			—	18回	
				1. 分解点検		130M			—	18回	
	原子炉補機冷却水サージタンク	1. 開放点検	高	13M	○	19回	1 次系真空破壊弁検査	先行実施			
		1. 分解点検		13M	○	19回					
		2. 非破壊試験		13M	○	19回					
	A 原子炉補機冷却水冷却器	1. 開放点検	高	13M	○	19回	1 次系熱交換器検査				
		2. 非破壊試験		13M	○	19回					
3. 漏えい試験		13M		○	19回						
B 原子炉補機冷却水冷却器	1. 開放点検	高	26M	—	19回	1 次系熱交換器検査	有効性評価 No.7の反映				
	2. 非破壊試験		26M	—	19回						
	3. 漏えい試験		26M	—	19回			有効性評価 No.7の反映			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保安方式又は傾度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)	
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却設備〕	原子炉冷却系統施設〔原子炉補機冷却設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	1次系弁検査		
		2. 分解点検		130M	○	19回	1次系安全弁検査		
		3. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替)		130M～195M	○	19回	1次系弁検査		
		1. 機能・性能試験		B	○	17回	1次系弁検査		
	原子炉冷却系統施設〔原子炉補機冷却設備〕 その他の弁駆動部	2. 分解点検	高・低	65M～182M	○	19回			
		3. 簡易点検 (特性点検)		13M～182M	○	19回			
		1. 分解点検他		13M～130M	○	19回			
		2. 分解点検他		13M～65M	○	19回			
	原子炉冷却系統施設〔原子炉補機冷却設備〕 その他機器 対流冷却機器	1. 分解点検他	高	195M	○	19回			有効性評価 No.8の反映
		1. 機能・性能試験 (弁 弁駆動部等含む)		高	1F	○	19回		原子炉補機冷却系機能検査
		1. 機能・性能試験			B*	—	19回		2次系ポンプ機能検査
		2. 分解点検 (ポンプ)			52M	—	19回		2次系ポンプ分解検査
3. 分解点検 (電動機)	104M	—	16回						
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕	A 海水ポンプ・電動機	4. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替) (ポンプ)	高	13M	○	19回			
		1. 機能・性能試験		B*	○	18回	2次系ポンプ機能検査		
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	○	18回	2次系ポンプ分解検査		
		3. 分解点検 (電動機)		104M	—	16回			
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕	B 海水ポンプ・電動機	4. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替) (ポンプ)	高	13M	○	19回			
		1. 機能・性能試験		B*	—	17回	2次系ポンプ機能検査		
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	17回	2次系ポンプ分解検査		
		3. 分解点検 (電動機)		104M	—	17回			
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕	C 海水ポンプ・電動機	4. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替) (ポンプ)	高	13M	○	19回			
		1. 機能・性能試験		B*	—	17回	2次系ポンプ機能検査		
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	17回	2次系ポンプ分解検査		
		3. 分解点検 (電動機)		104M	—	17回			
		4. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替) (ポンプ)		13M	○	19回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却水設備〕	原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却海水設備] その他の弁 原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却海水設備] その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	2次系弁検査	
		2. 分解点検		13M~65M	○	19回		
		1. 機能・性能試験	高	B	—	17回	2次系弁検査	
		2. 分解点検		78M	—	17回		
3. 簡易点検 (特性点検)	13M	○		19回				
原子炉冷却系統施設 〔原子炉格納容器内の一次冷却材の 漏えいを監視する装置〕	原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却海水設備] その他機器	1. 分解点検他	高	13M~104M	○	19回		
		2. 分解点検他		13M~52M	○	19回		
		1. 特性試験	低	13M~26M	○	19回	格納容器サンプ水位上昇率測定 装置及び格納容器内凝縮液量測定 装置漏えい検出器機能検査	
		2. 機能・性能試験		2F	—	19回	格納容器サンプ水位上昇率測定 装置及び格納容器内凝縮液量測定 装置漏えい検出器機能検査	
原子炉冷却系統施設 〔蒸気タービンの附属設備〕	炉内計装用シンブル配管室ドレンピット 漏えい検出装置	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	補助給水系機能検査	
		2. 機能・性能試験		1F	○	19回		
		1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、原動 機、弁、弁駆動部等含 む)	高	1F	○	19回	補助給水系機能検査	
		1. 分解点検 (ポンプ)		130M	—	18回	補助給水系ポンプ分解検査	
		2. 分解点検 (電動機)		130M	—	16回		
		3. 簡易点検 (潤滑油入替他) (ポンプ)		26M	○	18回		
	4. 簡易点検 (潤滑油入替他) (電動機)	26M		○	18回			
	1. 分解点検 (ポンプ)	130M		—	19回	補助給水系ポンプ分解検査		
	A 電動補助給水ポンプ・電動機		2. 分解点検 (電動機)	高	130M	—	16回	
			3. 簡易点検 (潤滑油入替他) (ポンプ)		26M	○	18回	
			4. 簡易点検 (潤滑油入替他) (電動機)		26M	○	18回	
			1. 分解点検 (ポンプ)		130M	—	19回	補助給水系ポンプ分解検査
2. 分解点検 (電動機)			130M		—	18回		
3. 簡易点検 (潤滑油入替他) (ポンプ)			26M		—	19回		
B 電動補助給水ポンプ・電動機		4. 簡易点検 (潤滑油入替他) (電動機)	高	26M	○	18回		
		1. 機能・性能試験 (タービン)		B	—	16回	2次系ポンプ機能検査	
		2. 分解点検		52M	—	19回	補助給水系ポンプ分解検査	
		3. 簡易点検 (ストレーナ清掃)		26M	—	19回		
		2. 分解点検		52M	—	19回	補助給水系ポンプ分解検査	
		3. 簡易点検 (ストレーナ清掃)		26M	—	19回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
原子炉冷却系統施設 [蒸気タービンの附属設備]	3 復水ピット	1. 外観点検	高	1F	○	19回			
	原子炉冷却系統施設 [蒸気タービンの附属設備] その他の弁	1. 機能・性能試験	高	B	○	19回	2次系弁検査		
		2. 分解点検		78M~260M	○	19回	2次系弁検査		
		3. 簡易点検 (グラランドパッキン取替)		130M	○	19回			
	原子炉冷却系統施設 [蒸気タービンの附属設備] その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験	高	B	○	19回	2次系弁検査		
		2. 分解点検		78M~182M	○	19回			
		3. 簡易点検 (特性点検)		13M~182M	○	19回			
	原子炉冷却系統施設 [蒸気タービンの附属設備] その他機器	1. 分解点検他	高	13M~130M	○	19回			
		1. 外観点検	高	1F	○	19回	制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による	
		1. 外観点検	高	1F	○	19回	制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による	
	計測制御系統施設 [制御棒駆動装置]	A 制御棒駆動装置MGセット	1. 外観点検	高	1F	○	19回	制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による
			1. 外観点検	高	1F	○	19回	制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による
1. 外観点検			高	1F	○	19回	制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による	
B 制御棒駆動装置MGセット		1. 外観点検	高	1F	○	19回	制御棒駆動系機能検査		
		2. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	制御棒クラスタ動作検査		
		1. 分解点検	高	52M	○	16回		(振動診断：1・2M)	
計測制御系統施設 [制御棒駆動装置] その他機器		1. 分解点検	高	13M	○	19回			
		2. 簡易点検 (潤滑油入替 (発電機))	高	52M	—	19回			
		1. 分解点検	高	13M	○	19回			
計測制御系統施設 [ほう酸ポンプ・電動機]		A ほう酸ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	—	18回	ほう酸ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 (振動診断：1F)
			2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	16回	ほう酸ポンプ分解検査	
			3. 分解点検 (電動機)		52M	—	18回		
	B ほう酸ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	—	17回	ほう酸ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 (振動診断：1F)	
		2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	17回	ほう酸ポンプ分解検査		
		3. 分解点検 (電動機)		52M	—	17回			
			4. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ))		26M	○	18回		
			1. 機能・性能試験	高	B*	—	17回	ほう酸ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機
			2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	17回	ほう酸ポンプ分解検査	
			3. 分解点検 (電動機)		52M	—	17回		
			4. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ))		26M	—	19回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術	
計測制御系統施設 [ほう酸注入機能を有する設備]	3 4 A 1 次系補給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	1 次系ポンプ機能検査	B*: ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (振動診断: 1 2 M) 先行実施	
		2. 分解点検 (ポンプ)		195M	—	15回			
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	14回			
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	19回			
	3 4 B 1 次系補給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	1 次系ポンプ機能検査	B*: ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (振動診断: 1 2 M) 先行実施	
		2. 分解点検 (ポンプ)		195M	—	15回			
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	14回			
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	18回			
	A ほう酸タンク	A ほう酸タンク真空逃がし弁	1. 開放点検	高	130M	—	17回	1 次系真空破膜弁検査	先行実施
			1. 分解点検		130M	—	14回		
		B ほう酸タンク	1. 開放点検	高	130M	—	16回	1 次系真空破膜弁検査	先行実施
			1. 分解点検		130M	—	16回		
		3 4 A 1 次系純水タンク	1. 開放点検	高	130M	—	13回	1 次系真空破膜弁検査	先行実施
			1. 分解点検		130M	—	13回		
		3 4 A 1 次系純水タンクバキュームリリーフ弁	1. 開放点検	高	130M	—	13回	1 次系真空破膜弁検査	先行実施
			1. 分解点検		130M	—	13回		
3 4 A 1 次系純水タンクアトモス弁		1. 開放点検	高	130M	—	13回	1 次系真空破膜弁検査	先行実施	
		1. 分解点検		130M	—	13回			
3 4 B 1 次系純水タンク		1. 開放点検	高	130M	—	19回	1 次系真空破膜弁検査	先行実施	
		1. 分解点検		130M	—	19回			
3 4 B 1 次系純水タンクバキュームリリーフ弁	1. 開放点検	高	130M	—	19回	1 次系真空破膜弁検査	先行実施		
	1. 分解点検		130M	—	19回				
3 4 B 1 次系純水タンクアトモス弁	1. 開放点検	高	130M	—	19回	1 次系真空破膜弁検査	先行実施		
	1. 分解点検		130M	—	19回				
計測制御系統施設 [工学的安全施設等の(作動信号)]	ほう酸フィルタ	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	重大事故時安全停止回路機能検査	16回施設定検時に設置	
		2. 分解点検		130M	○	19回			
	計測制御系統施設 [ほう酸注入機能を有する設備] その他の弁	1. 特性試験	高	13M	○	19回	重大事故時安全停止回路機能検査	重大事故時安全停止回路機能検査	
		2. 機能・性能試験		1F	○	19回			
	A T W S 緩和設備	1. 機能・性能試験	高	13M	○	19回	重大事故時安全停止回路機能検査	重大事故時安全停止回路機能検査	
		2. 分解点検		1F	○	19回			
	制御用空気圧縮機	1. 機能・性能試験 (空気圧縮機、電動機等(含む))	高	26M	○	19回	制御用空気圧縮系機能検査	有効性評価 No.23の反映 (電動機 振動診断: 1 2 M)	
		2. 分解点検 (圧縮機)		78M	—	17回			
	A 制御用空気圧縮機・電動機	1. 機能・性能試験	高	13M	○	—	—	—	
		2. 分解点検 (電動機)		13M	○	—			
B 制御用空気圧縮機・電動機	1. 機能・性能試験	高	26M	—	19回	—	—		
	2. 分解点検 (圧縮機)		78M	—	18回				
計測制御系統施設 [制御用空気設備]	1. 機能・性能試験	高	13M	○	—	—	—		
	2. 分解点検 (電動機)		13M	○	—				

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の重要度	保方式又は頻度	今回の実施計画	前回の実施時期（定換回次）	検査名	備考 （○内は適用する設備診断技術）
計測制御系統施設 〔制御用空気設備〕	代替制御用空気供給設備	1式	高	1F	○	19回		16回施設定検時に設置
	計測制御系統施設〔制御用空気設備〕 その他の弁	1式	高・低	B	○	19回	1次系弁検査	
				13M～195M	○	19回	1次系弁検査	
				130M～195M	○	19回		有効性評価 No.10の反映
	計測制御系統施設〔制御用空気設備〕 その他の弁駆動部	1式	高	B	○	19回	1次系弁検査	
				13M～182M	○	19回		
				13M～182M	○	19回		
	計測制御系統施設〔制御用空気設備〕 その他機器	1式	高	13M～78M	○	19回		有効性評価 No.11の反映
				13M～26M	○	19回		
				1F	○	19回	安全保護系機能検査	
計測制御系統施設 〔その他設備〕	・原子炉保護系ロジック回路 ・安全防護系ロジック回路 ・バキュームシグナル回路 原子炉トリップ、工学的安全施設の始動、原子炉格納容器隔離等を行うためのすべての伝送器、設定器及び保護継電器 ・1次冷却材等計測装置 保護継電器 伝送器 設定器 ・核計測装置 設定器 重要な指示計器 ・1次冷却材等計測装置 指示計 ・核計測装置 指示計	28回路 25回路 6回路 6個 76個 117個 20個 31個 8個	高 高・低	13M～26M	○	19回	安全保護系設定値確認検査	有効性評価 No.27の反映
	事故時監視計器 ・圧力監視計器 ・水位監視計器 ・流量監視計器 ・温度監視計器	2個 16個 8個 10個	高	13M～26M	○	19回	プラント状態監視設備機能検査	有効性評価 No.28の反映
	事故時試料採取設備 格納容器雰囲気ガス試料採取設備	1台	高	1F	○	19回	プラント状態監視設備機能検査	
	・制御棒制御系 ・加圧器水位制御系 ・加圧器圧力制御系 ・蒸気発生器水位制御系	1式	高	1F	○	19回	計測制御系機能検査	一部定期事業者検査起動後
	1次系及び2次系計測制御装置	1式	高・低	13M～26M	○	19回	計測制御系監視機能検査	
	炉外核計測装置 ・中性子源領域検出器 ・中間領域検出器 ・出力領域検出器	2個 2個 8個	高	13M	○	19回	核計装設備検査	一部定期事業者検査起動後
	炉内核計測装置 駆動装置	4台	高	1F	○	19回	核計装設備検査	
				13M	○	19回		
				13M	○	19回		
	制御棒位置指示装置		高	13M	○	19回	制御棒位置指示装置設定値検査	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)	
計測制御系統施設 [その他設備]	炉内計装用シンブルチューブ	58本	高	78M	—	18回	炉内計装用シンブルチューブ 種検査		
	総合インテック ・原子炉トリップ信号 (タービン、発電機トリップ) ・タービントリップ信号 (原子炉、発電機トリップ) ・発電機トリップ信号 (原子炉、タービントリップ)	1式	高	1F	○	19回	総合インテック検査		
	中央制御室外の原子炉の停止制御回路	24回路	高	1F	○	19回	原子炉の停止制御回路健全性確 認検査		
	恒設代替低圧注水積算流量	1個	高	13M	○	19回	プラント状態監視設備機能検査	16回施設定検時に設置	
	原子炉水位	1個	高	13M	○	19回	プラント状態監視設備機能検査	16回施設定検時に設置	
	AM用格納容器圧力	1個	高	13M	○	18回	プラント状態監視設備機能検査	プラント状態監視設備機能検査は、17回施設定検から実施	
	可搬型格納容器水素ガス濃度	2個	高	26M	—	19回			
	原子炉補機冷却水サージタンク加圧ライ ン圧力	2個	高	13M	○	19回	計測制御系監視機能検査	16回施設定検時に設置	
	格納容器スプレイ積算流量	1個	高	13M	○	19回	プラント状態監視設備機能検査	16回施設定検時に設置	
	原子炉格納容器水位	1対	高	1F	○	19回	プラント状態監視設備機能検査	16回施設定検時に設置	
	原子炉下部キャビライ水位	1対	高	1F	○	19回	プラント状態監視設備機能検査	16回施設定検時に設置	
	アニユラス水素濃度	2個	高	13M	○	19回	プラント状態監視設備機能検査	16回施設定検時に設置	
	可搬型格納容器水素ガス試料圧縮装置 その他の弁	2台	高	1F	○	19回	可搬型重大事故等対処設備機能 検査	16回施設定検時に設置	
	計測制御系統施設 [その他設備]	1式	高・低	B	○	17回	1次系安全弁検査		
	放射性廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物処理設 備]	ガス圧縮装置	2台	低	78M~195M	○	19回	1次系弁検査 1次系逆止弁検査	一部BMあり 有効性評価 No.12の反映
		計測制御系統施設 [その他設備]	1式	高	65M~195M	○	19回		有効性評価 No.12の反映
		計測制御系統施設 [その他設備]	1式	高	13M~52M	○	19回		
		計測制御系統施設 [その他設備]	1式	低	13M~78M	○	19回		一部BMあり
		ガス圧縮装置	2台	低	1F	○	19回	気体廃棄物処理系機能検査	先行実施
		ガスサージタンク入口弁	4個	高	13M~130M	○	19回		(振動診断: 1 2 M) 先行実施
除塵装置・活性炭式希ガスホールドアップ装置		1基	低	CBM	—	13回			
				1F	○	19回	気体廃棄物処理系機能検査	先行実施	
				130M	—	18回			
				1F	○	19回	気体廃棄物処理系機能検査	先行実施	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)		
放射線廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	ほう酸回収装置	2基	低	1F	○	19回	液体廃棄物処理系機能検査	先行実施		
		2基		13M~195M	○	19回				
		2基		1F	○	19回			液体廃棄物処理系機能検査	先行実施
		2基		13M~195M	○	19回				
	膜分離活性汚泥処理装置	1基	1. 機能・性能試験 2. 分解点検他	低	1F	○	19回	液体廃棄物処理系機能検査	先行実施	
		1基	1. 機能・性能試験 2. 分解点検他		13M~130M	○	19回			
	3 4 A 除湿塔冷却送風機・電動機		1. 機能・性能試験 2. 分解点検 (送風機)	低	B*	—	17回	気体廃棄物処理系設備検査	B*: 送風機または電動機 の分解点検にあわせて実施 先行実施	
			3. 分解点検 (電動機)		260M	—	13回			
			3. 分解点検 (電動機)		52M	—	17回			
	3 4 B 除湿塔冷却送風機・電動機		1. 機能・性能試験 2. 分解点検 (送風機)	低	B*	—	17回	気体廃棄物処理系設備検査	B*: 送風機または電動機 の分解点検にあわせて実施 先行実施	
			3. 分解点検 (電動機)		260M	—	13回			
			3. 分解点検 (電動機)		52M	—	17回			
	3 4 C 除湿塔冷却送風機・電動機		1. 機能・性能試験 2. 分解点検 (送風機)	低	B*	—	17回	気体廃棄物処理系設備検査	B*: 送風機または電動機 の分解点検にあわせて実施 先行実施	
			3. 分解点検 (電動機)		260M	—	13回			
			3. 分解点検 (電動機)		52M	—	17回			
	A 格納容器冷却材ドレンポンプ・電動機		1. 機能・性能試験 2. 分解点検 (ポンプ)	低	B*	—	19回	液体廃棄物処理系設備検査	B*: ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施	
			3. 分解点検 (電動機)		26M	—	19回			
			4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		52M	—	18回			
			4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	19回			
	B 格納容器冷却材ドレンポンプ・電動機		1. 機能・性能試験 2. 分解点検 (ポンプ)	低	B*	○	18回	液体廃棄物処理系設備検査	B*: ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施	
3. 分解点検 (電動機)			26M		○	18回				
4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)			52M		—	17回				
4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)			26M		○	18回				

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
放射線廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	3 4 A 廃液蒸留水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	16回	液体廃棄物処理系設備検査	B* : ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (ポンプ 振動診断 : 1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		195M	—	16回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	18回		
	3 4 B 廃液蒸留水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B* : ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (ポンプ 振動診断 : 1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	15回		
		3. 分解点検 (電動機)		195M	—	15回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	18回		
	3 4 A 廃液給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	16回	液体廃棄物処理系設備検査	B* : ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (ポンプ 振動診断 : 1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		195M	—	16回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	19回		
	3 4 B 廃液給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B* : ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (ポンプ 振動診断 : 1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	15回		
		3. 分解点検 (電動機)		195M	—	15回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	18回		
A 格納容器サンプポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	18回	液体廃棄物処理系設備検査	B* : ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 水中ポンプ	
	2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	18回			
	3. 分解点検 (電動機)		78M	—	18回			
B 格納容器サンプポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B* : ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 水中ポンプ	
	2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	19回			
	3. 分解点検 (電動機)		78M	—	19回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
放射線廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	3 4 A ほう酸回収装置給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機 の分 解点検にあわせて実施 (振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	15回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	15回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	18回		
	3 4 B ほう酸回収装置給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	16回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機 の分 解点検にあわせて実施 (振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	16回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	19回		
	A 原子炉周辺建屋サンプポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機 の分 解点検にあわせて実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		195M	—	15回		
		3. 分解点検 (電動機)		156M	—	14回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	19回		
	B 原子炉周辺建屋サンプポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	16回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機 の分 解点検にあわせて実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		195M	—	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		156M	—	14回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	18回		
3 4 A 洗浄排水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	16回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機 の分 解点検にあわせて実施 (ポンプ 振動診断：1 2 M) 先行実施	
	2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	16回			
	3. 分解点検 (電動機)		195M	—	16回			
	4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	18回			
3 4 B 洗浄排水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機 の分 解点検にあわせて実施 (ポンプ 振動診断：1 2 M) 先行実施	
	2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	14回			
	3. 分解点検 (電動機)		195M	—	15回			
	4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	19回			
3 4 強酸ドレンポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機 の分 解点検にあわせて実施	
	2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	19回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	液体廃棄物貯蔵設備及び処理設備の漏えいに係る警報機能	1式	低	13M	○	19回	液体廃棄物貯蔵設備・処理設備の警報機能検査	先行実施	
	液体状態の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置機能 (最終の流入サンプリング)	1式	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	液体廃棄物貯蔵設備・処理設備の警報機能検査	先行実施
		1台	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	液体状態の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置機能検査 (最終の流入サンプリング)	先行実施
	雑固体焼却設備	1台	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	固体廃棄物処理系統却炉機能検査	先行実施
		1式	2. 分解点検他	低	13M~130M	○	19回		
	乾燥造粒装置	1式	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	乾燥造粒装置・セメントガラス固化装置機能検査	先行実施
		1式	2. 分解点検他	低	13M~156M	○	19回		
	放射性廃棄物の廃棄施設〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 その他の弁	1式	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	乾燥造粒装置・セメントガラス固化装置機能検査	先行実施
			2. 分解点検他	低	13M~195M	○	19回		
		1式	1. 機能・性能試験	低	B	○	19回	1次系安全弁検査	先行実施
2. 分解点検			高	130M~195M	○	19回	1次系逆止弁検査	有効性評価 No.13の反映	
放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物貯蔵設備〕	放射性廃棄物の廃棄施設〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 その他の弁駆動部	3. 分解点検	低	65M~195M	○	19回	1次系弁検査	一部BMあり	
		4. 簡易点検 (グラウンドバックスイン替)	低	130M~195M	○	19回	1次系逆止弁検査	有効性評価 No.14の反映	
		1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回		有効性評価 No.15の反映	
		2. 分解点検	高・低	65M~130M	○	19回		一部先行実施	
	放射性廃棄物の廃棄施設〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	3. 簡易点検 (特性点検)	低	13M~130M	○	19回			
		1. 分解点検他	低	13M~130M	○	19回		一部先行実施	
	蒸気発生器保管庫	1. 外観点検	低	1F	○	19回			
		1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回			
	放射性廃棄物の廃棄施設 〔原子炉格納容器本体外の廃棄物貯蔵設備又は廃棄物処理設備からの液体状態の放射性廃棄物の漏えいの検出装置又は自動警報装置〕	固体廃棄物貯蔵庫	1. 特性試験	低	13M	○	19回		
			2. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	液体状態の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置機能検査	先行実施
A格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ)		1. 特性試験	高	13M	○	19回	エリアモニタ機能検査		
		1. 特性試験	高	13M	○	19回	エリアモニタ機能検査		
B格納容器内高レンジエリアモニタ (低レンジ)	1. 特性試験	高	13M	○	19回	エリアモニタ機能検査			
	1. 特性試験	高	13M	○	19回	エリアモニタ機能検査			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 (() 内は適用する設備診断技術)
放射線管理施設 〔放射線管理用計測装置〕	A 排気筒ガスモニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	B 排気筒ガスモニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	廃棄物処理設備排水モニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	格納容器じんあいモニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	格納容器ガスモニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	復水器空気抽出器ガスモニタ	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	建屋内漏えい検知ガスモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	蒸気発生器ブロウダウン水モニタ	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	原子炉補機冷却水モニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	補助蒸気復水モニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	タービン建屋床ドレン集水モニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	A 高感度型主蒸気管モニタ	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	B 高感度型主蒸気管モニタ	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	C 高感度型主蒸気管モニタ	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	D 高感度型主蒸気管モニタ	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	冷却材連続モニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	ほう酸蒸留水モニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	廃棄物処理設備排ガスモニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	雑固体焼却炉排ガスモニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	排気筒高レンジガスモニタ (低レン)	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	排気筒高レンジガスモニタ (高レン)	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
2. 特性試験		13M		○	19回	放射線監視装置機能検査		
A 主蒸気管モニタ	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施	
	2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査		
B 主蒸気管モニタ	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施	
	2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査		
C 主蒸気管モニタ	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施	
	2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査		
D 主蒸気管モニタ	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施	
	2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査		
放水口水モニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施	
	2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査		
中央制御室エアモニタ	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施	
	2. 特性試験		13M	○	19回	放射線監視装置機能検査		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回数)	検査名	備考 ()内は適用する設備(診断技術)
放射線管理施設 [放射線管理用計測装置]	納射容器エアロック区域エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	放射化学室エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	A 充てんポンプ室エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	B 充てんポンプ室エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	C 充てんポンプ室エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	使用済燃料ピット区域エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	試料採取室エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	炉内計装区域エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	ドラム詰室エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	1次系補機操作室エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	雑固体固化処理エリアモニタ	1. 特性試験	低	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	
	緊急時対策所外可搬型エリアモニタ	1. 特性試験	低	1Y	○	19回	放射線監視装置機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設設定検時に設置
	緊急時対策所内可搬型エリアモニタ	1. 特性試験	高	1Y	○	19回	放射線監視装置機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設設定検時に設置
	可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ	1. 特性試験	高	13M	○	19回	放射線監視装置機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設設定検時に設置
	モニタリングステーション	1. 特性試験	低	13M	○	19回	野外モニタ機能検査	一部先行実施
	モニタリングポスト	1. 特性試験	低	13M	○	19回	野外モニタ機能検査	一部先行実施
	可搬式モニタリングポスト	1. 特性試験	高	1Y	○	19回	放射線監視装置機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設設定検時に設置
移動式モニタリング設備	1. 特性試験	低	13M	○	19回	野外モニタ機能検査		
放射線管理施設 [放射線管理用計測装置] その他機器	1. 分解点検他 2. 分解点検他	高	13M	○	19回			
放射線管理施設 [換気設備]	中央制御室非常用循環系	1. 機能・性能試験 (ファン、電動機、ダンパ、駆動部等含む)	高	1F	○	19回	中央制御室非常用循環系機能検査	
	A 中央制御室非常用循環ファン・電動機	1. 分解点検 (ファン) 2. 分解点検 (電動機)	高	91M	—	18回		(振動診断: 1F)
	B 中央制御室非常用循環ファン・電動機	1. 分解点検 (ファン) 2. 分解点検 (電動機)	高	78M	—	18回		
	中央制御室非常用循環ファンユニット	1. 機能・性能試験 (よう素ファン) 2. 開放点検 (ファン) 3. 機能・性能試験 (差圧確認) 4. 開放点検 5. 微粒子ファン取替	高	91M	○	17回	中央制御室非常用循環系ファン性能検査	(振動診断: 1F)
				78M	—	17回		
				1F	○	19回	中央制御室非常用循環系ファン性能検査	一部先行実施
				X*	○	18回		X*: 機能・性能試験結果により適宜実施
				1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	
				260M	—	17回		
				X*	—	—		X*: ファン差圧により適時実施

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
放射線管理施設 [換気設備]	A 格納容器排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	1 次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		B	—	8回	電動機分解時に分解点検を実施	先行実施
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	2回	電動機 振動診断: 1 2M)	先行実施
		1. 機能・性能試験		1F	○	19回	1 次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		B	—	7回	電動機分解時に分解点検を実施	先行実施
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	1回	電動機 振動診断: 1 2M)	先行実施
		1. 機能・性能試験		1F	○	19回	1 次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	18回		先行実施
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	18回		先行実施
	A 格納容器排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 1 2M)
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	17回		
	A 格納容器再循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 1 2M)
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	16回		
	B 格納容器再循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1 次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	14回		
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	19回		
	C 格納容器再循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1 次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	17回		
	D 格納容器再循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1 次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	13回		
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	18回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
放射線管理施設 [換気設備]	A 格納容器空室空气净化ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	() 内は適用する設備診断技術)	
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	13回			
		3. 分解点検 (電動機)		65M	—	18回			
		B 格納容器空室空气净化ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回		1次系換気空調設備検査
			2. 分解点検 (ファン)		130M	—	17回		
			3. 分解点検 (電動機)		65M	—	17回		
		A 中央制御室循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回		1次系換気空調設備検査
			2. 分解点検 (ファン)		78M	—	17回		
			3. 分解点検 (電動機)		78M	—	17回		
	B 中央制御室循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査		
		2. 分解点検 (ファン)		78M	—	16回			
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	16回			
	A 中央制御室空調ファン・電動機		1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	(ファン 振動診断: 1.2M) (電動機 振動診断: 1.2M)
			2. 分解点検 (ファン)		91M	—	18回		
			3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	18回		
			1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回		
			2. 分解点検 (ファン)		91M	—	17回		
			3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	17回		
	B 中央制御室空調ファン・電動機		1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	
			2. 分解点検 (ファン)		91M	—	17回		
			3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	17回		
	3 4 A 放射線管理室給気ファン・電動機		1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	(振動診断: 1.2M) 先行実施
			2. 分解点検 (ファン)		130M	—	17回		
			3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	17回		
1. 機能・性能試験			低	1F	○	19回			
2. 分解点検 (ファン)				130M	—	17回			
3. 分解点検 (電動機)				CBM	—	17回			
3 4 B 放射線管理室給気ファン・電動機		1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	(振動診断: 1.2M) 先行実施	
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	18回			
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	18回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回数)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)						
放射線管理施設 [換気設備]	3 4 A放射線管理室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	()内は適用する (振動診断：1 2M) 先行実施						
		2. 分解点検 (ファン)		130M	○	12回								
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	○	12回								
		1. 機能・性能試験		低	1F	○			19回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2M) 先行実施			
		2. 分解点検 (ファン)			130M	—			19回					
		3. 分解点検 (電動機)			CBM	—			19回					
		1. 機能・性能試験			高	1F			○			19回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)				130M			—			12回		
		3. 分解点検 (電動機)				CBM			—			8回		
	1. 機能・性能試験	高	1F			○	19回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2M) 先行実施					
	2. 分解点検 (ファン)		130M			○	11回							
	3. 分解点検 (電動機)		CBM			○	4回							
	1. 機能・性能試験		高	1F		○	19回			1次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2M) 先行実施			
	2. 分解点検 (ファン)			130M		—	13回							
	3. 分解点検 (電動機)			CBM		—	13回							
	1. 機能・性能試験			高	1F	○	19回					1次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2M) 先行実施	
	2. 分解点検 (ファン)				130M	—	18回							
	3. 分解点検 (電動機)				CBM	—	18回							
	1. 機能・性能試験	高			1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2M) 先行実施					
	2. 分解点検 (ファン)				130M	—	17回							
	3. 分解点検 (電動機)				CBM	—	17回							
	1. 機能・性能試験		高		1F	○	19回			1次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2M) 先行実施			
	2. 分解点検 (ファン)				130M	—	19回							
	3. 分解点検 (電動機)				CBM	—	19回							
1. 機能・性能試験	低			1F	○	19回	1次系換気空調設備検査					先行実施		
2. 分解点検 (ファン)				104M	—	19回								
3. 分解点検 (電動機)				104M	—	19回								

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は傾度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備技術(技術)
放射線管理施設 [換気設備]	3 4 ホットワーク室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	先行実施 電動機分解時に分解点検を実施
		2. 分解点検 (ファン)		B	—	14回		
		3. 分解点検 (電動機)		156M	—	14回		
		4. 電動機取替 (電動機)		X*	—	18回		
	A 安全補機室冷却ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	(電動機 振動診断: 1F)
		2. 分解点検 (ファン)		104M	—	18回		
		3. 分解点検 (電動機)		104M	—	18回		
		4. 電動機取替 (電動機)		X*	—	18回	X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施	
	B 安全補機室冷却ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	(電動機 振動診断: 1F)
		2. 分解点検 (ファン)		104M	—	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		104M	—	17回		
		4. 電動機取替 (電動機)		X*	—	19回	X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施	
	A ほう酸ポンプ室空調ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 (ファン)		78M	—	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	17回		
		4. 電動機取替 (電動機)		X*	—	19回	X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施	
	B ほう酸ポンプ室空調ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 (ファン)		78M	—	18回		
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	18回		
		4. 電動機取替 (電動機)		X*	—	19回	X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施	
緊急時対策所非常用空気浄化ファン	2台	1. 機能・性能試験	高	1Y	○	19回	可搬型換気空調設備検査	18回定期事業者検査時に設置 先行実施
	2台	1. 機能・性能試験 (よう素フィルタ性能検査)		1Y	○	19回	可搬型換気空調設備検査	
A 格納容器排気フィルタユニット	2台	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	8回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施	
B 格納容器排気フィルタユニット	2台	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施	
格納容器空気浄化フィルタユニット	2台	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施	
3 4 出入管理室排気フィルタユニット	2台	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
放射線管理施設 [換気設備]	A 補助建屋排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	高	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		52M	—	19回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施
	B 補助建屋排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	高	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		52M	—	19回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施
	3 4 ベイラ排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施
	3 4 ホット 工作室排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施
	3 4 試験採取室排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	低	1F	○	19回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施
	A 格納容器給気ユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	低	1F	○	19回		
		2. 開放点検		52M	○	16回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施
	B 格納容器給気ユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	低	1F	○	19回		
		2. 開放点検		52M	○	16回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施
	A 中央制御室空調ユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	高	1F	○	19回		
		2. 開放点検		52M	○	16回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施
B 中央制御室空調ユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	高	1F	○	19回			
	2. 開放点検		52M	○	16回			
	3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施	
3 4 放射線管理室給気ユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	高	1F	○	19回			
	2. 開放点検		52M	○	16回			
	3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施	
A 補助建屋給気ユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	高	1F	○	19回			
	2. 開放点検		52M	○	16回			
	3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施	
B 補助建屋給気ユニット	1. 機能・性能試験 (差圧確認)	高	1F	○	19回			
	2. 開放点検		52M	○	16回			
	3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	—	X*: フィルタ差圧により適時実施	
A 安全補機室冷却ユニット	1. 開放点検	高	52M	○	16回			
	2. 開放点検		52M	○	16回			
	3. 開放点検		52M	○	16回			
B 安全補機室冷却ユニット	1. 開放点検	高	52M	○	16回			
	2. 開放点検		52M	○	16回			
	3. 開放点検		52M	○	16回			
A 格納容器冷却ユニット	1. 開放点検	高	52M	○	16回			
	2. 開放点検		52M	○	16回			
	3. 開放点検		52M	○	16回			
B 格納容器冷却ユニット	1. 開放点検	高	52M	○	16回			
	2. 開放点検		52M	○	16回			
	3. 開放点検		52M	○	16回			

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は傾度	今回の実施計画	前回実施時期（定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する設備診断技術 一部先行実施
放射線管理施設 〔換気設備〕	自動ダンパ	1. 機能・性能試験 (駆動部を含む) 2. 分解点検	高・低	1F 65M	○	19回	1次系換気空調設備検査	一部先行実施
	自動ダンパ駆動部	1. 分解点検 2. 簡易点検 (特性能試験)	高・低	52M～156M 13M～65M	○	19回		一部先行実施
	放射線管理施設〔換気設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (グラブドパッキン取替)	高・低	B 130M～195M 130M～195M	○	19回	1次系安全弁検査 1次系弁検査	一部先行実施 有効性評価 No.16の反映 有効性評価 No.16の反映
放射線管理施設 〔生体遮蔽装置〕	放射線管理施設〔換気設備〕 その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (特性能試験)	高・低	B 52M～182M 13M～182M	○	19回	1次系弁検査	一部先行実施
	放射線管理施設〔換気設備〕 その他の機器	1. 分解点検 2. 分解点検 3. 簡易点検 (潤滑油入替)	高 低 高・低	13M～130M 13M～104M 13M	○	19回		一部先行実施
	中央制御室	1. 漏えい試験	高	6Y	○	16回	中央制御室の居住性確認検査	16回施設設定検から実施 先行実施
放射線管理施設 〔その他設備〕	緊急時対策所	1. 機能・性能試験	高	1Y	○	19回	緊急時対策所の居住性確認検査	18回定期事業者検査時に設置 先行実施
	可搬型気象観測装置	1. 特性能試験	高	1Y	○	19回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設設定検時に設置 先行実施
	気象観測装置	1. 特性能試験	低	1Y	○	19回	計測制御系監視機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 先行実施
原子炉格納施設 〔原子炉格納容器〕	原子炉格納容器	1. 漏えい率試験	高	3F	—	19回	原子炉格納容器全体漏えい率検査	10年に1回は設計圧力にて実施 (16回定検において設計圧力により実施)
	プレストレストコンクリート格納容器	1. 機能・性能試験 2. 外観点検	高	5Y	—	18回	プレストレストコンクリート格納容器供用期間中検査	
			高	5Y	—	18回	プレストレストコンクリート格納容器供用期間中検査	
	エアロック	1. 漏えい率試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (潤滑油補給他)	高	2/3F	○	18回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
			高	52M	—	19回		
			高	26M	—	19回		
	機器搬入口	1. 漏えい率試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (潤滑油補給他)	高	2/3F	○	18回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
			高	52M	—	18回		
			高	26M	○	18回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
		1. 開放点検 3. 非破壊試験	高	13M	○	19回	原子炉格納容器供用期間中検査	
			高	10Y	—	15回	原子炉格納容器供用期間中検査	
			高		—			原子炉格納容器供用期間中検査 IS1プログラムによる。〔別表-6〕

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
原子炉格納施設 〔原子炉格納容器〕	配管貫通部 (貫通配管閉止フランジ部)	1. 漏えい率試験	高	2/3F	○	18回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	電線貫通部	2. 開放点検		開放の程度	○	19回		
	原子炉格納容器隔離弁	1. 漏えい率試験	高	2/3F	○	17回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 漏えい率試験	高	2/3F	○	18回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	原子炉格納容器隔離 (T・V信号及びT+UV信号)により隔離される弁	1. 機能・性能試験 (駆動部等含む)	高	1F	○	19回	原子炉格納容器隔離弁機能検査	
	原子炉格納容器隔離 (P・V信号)により隔離される弁	1. 機能・性能試験 (駆動部等含む)	高	1F	○	19回	原子炉格納容器隔離弁機能検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	52M	—	19回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	52M	○	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	52M	—	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	13M	○	19回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	104M	—	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	104M	—	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	104M	—	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	130M	—	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	130M	—	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	130M	—	19回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	130M	—	19回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	130M	—	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	130M	—	12回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁	1. 分解点検	高	130M	—	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
原子炉格納施設 〔原子炉格納容器〕	原子炉格納容器隔離弁	3V-CC-342	高	130M	—	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		3V-CC-365	高	130M	—	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		3V-CC-401	高	130M	—	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		3V-CC-403	高	130M	○	10回	原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		3V-CC-427	高	130M	—	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		3V-CC-429	高	130M	—	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		3V-IA-508A	高	130M	—	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査		
		3V-IA-508B	高	130M	—	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査		
	原子炉格納容器隔離弁駆動部	1式	1. 分解点検	高	52M～182M	○	19回		
			2. 簡易点検 (特性点検)		13M～182M	○	19回		
	原子炉格納施設〔原子炉格納容器〕 その他の弁	1式	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	1次系弁検査 1次系安全弁検査	
			2. 分解点検	高・低	78M～260M	○	19回	1次系弁検査	
			3. 分解点検	高	26/39M*	○	18回		
			4. 簡易点検 (グラウンドバッキング 群)	高・低	52M～195M	○	19回		
	原子炉格納施設〔原子炉格納容器〕 その他の弁駆動部	1式	1. 機能・性能試験	高	B	○	19回	1次系弁検査	
			2. 分解点検		65M～182M	○	19回		
3. 簡易点検 (特性点検)				13M～182M	○	19回			
原子炉格納施設〔原子炉格納容器〕 その他の機器	1式	1. 分解点検他	高	13M～104M	○	19回			
		2. 分解点検他	低	13M～52M	○	19回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備]	原子炉格納容器スプレイ系	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、弁、弁駆動部等含む)	高	1F	○	19回	原子炉格納容器安全系機能検査	[対象設備] ・A格納容器スプレイポンプによる代替炉心注入系16回施設設定検から設定	
		2. 機能・性能試験		1F	○	19回	その他原子炉注水系機能検査		
	A格納容器スプレイポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	130M	—	—	12回	その他原子炉注水系ポンプ分解検査 原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査	12回は、格納容器スプレイ系ポンプ分解検査として実施 その他原子炉注水系ポンプ分解検査は、16回施設設定検から設定
		2. 分解点検 (電動機)	130M	—	—	16回			
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取替) (ポンプ)	130M	—	—	12回			
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)	26M	○	—	18回			
		5. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)	26M	○	—	18回			
	B格納容器スプレイポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	130M	—	—	11回	原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査	(振動診断：1F) 11回は、格納容器スプレイ系ポンプ分解検査として実施
		2. 分解点検 (電動機)	130M	—	—	17回			
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取替) (ポンプ)	130M	—	—	11回			
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)	26M	—	—	19回			
		5. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)	26M	—	—	19回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備]	A格納容器スプレイ冷却器	1. 開放点検	高	130M	—	18回	1次系熱交換器検査		
		2. 非破壊試験		130M	—	18回	1次系熱交換器検査		
		3. 漏えい試験		130M	—	18回	1次系熱交換器検査		
	B格納容器スプレイ冷却器	1. 開放点検	高	130M	—	17回	1次系熱交換器検査		
		2. 非破壊試験		130M	—	17回	1次系熱交換器検査		
		3. 漏えい試験		130M	—	17回	1次系熱交換器検査		
	原子炉格納容器スプレイ系主要弁	3V-CP-024A	1. 分解点検	高	78M	—	19回	原子炉格納容器安全系主要弁弁 離検査	
		3V-CP-024B	1. 分解点検		78M	—	17回	原子炉格納容器安全系主要弁弁 離検査	
		3V-CP-054A	1. 分解点検		130M	—	13回	13回は、原子炉格納容器スプレ イ系主要弁分解検査として 実施	
		3V-CP-054B	1. 分解点検		130M	—	14回	14回は、原子炉格納容器スプレ イ系主要弁分解検査として 実施	
	原子炉格納容器スプレイ系主要弁駆動部	1式	1. 分解点検	高	182M	—	17回		
			2. 簡易点検 (特性点検)		13M~182M	○	19回		
	よう素除去薬品タンク	2台	1. 開放点検	高	130M	—	18回		
			1. 分解点検		130M	—	18回	1次系真空破壊弁検査 先行実施	
	A原子炉空気浄化系	2台	1. 機能・性能試験 (ファン、電動機、弁、 弁駆動部、ダンパ、ダン パ駆動部等含む)	高	1F	○	19回	アニュウラス循環排気系機能検査	
1. 分解点検 (ファン)			B		—	8回	電動機分解時に実施		
A原子炉空気浄化ファン・電動機		2. 分解点検 (電動機)	高	CBM	—	8回	(電動機 振動診断: 1F)		
		3. 電動機取替 (電動機)		X*	—	18回	X*: 結露等の劣化兆候により 適宜実施 電動機分解時に実施		
		1. 分解点検 (ファン)		B	—	17回	電動機 振動診断: 1F)		
B原子炉空気浄化ファン・電動機		2. 分解点検 (電動機)	高	CBM	—	17回	(電動機 振動診断: 1F)		
		3. 電動機取替 (電動機)		X*	—	19回	X*: 結露等の劣化兆候により 適宜実施		
		1. 機能・性能試験 (より素フィルタ) (フィルタ取替)		1F	○	19回	A系、B系交互に実施 一部先行実施		
A原子炉空気浄化フィルタユニット		2. 開放点検 (フィルタ取替)	高	X*	○	18回	X*: 機能・性能試験結果によ り適宜実施		
		1. 機能・性能試験 (差圧確認)		1F	○	19回	1次系換気空調設備検査		
		2. 開放点検		260M	—	14回			
B原子炉空気浄化フィルタユニット		3. 微粒子フィルタ取替	高	X*	—	—	X*: フィルタ差圧により適時 実施		
		1. 機能・性能試験 (差圧確認)		1F	○	19回	1次系換気空調設備検査		
		2. 開放点検		260M	—	13回			
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—	X*: フィルタ差圧により適時 実施		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備]	可燃性ガス濃度制御系主要弁	3V-VS-102A	1. 分解点検	高	65M	—	19回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		3V-VS-102B	1. 分解点検	高	65M	—	19回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		3V-VS-103A	1. 分解点検	高	65M	—	19回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		3V-VS-103B	1. 分解点検	高	65M	—	19回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
	静的触媒式水素再結合装置	5個	1. 機能・性能試験 2. 外観点検 (触媒プレート) 3. 外観点検 (本体)	高	5F	○	—	原子炉格納容器水素再結合装置機能検査	16回施設定検時に設置
		14個	1. 外観点検	高	1F	○	19回	16回施設定検時に設置	
			2. 絶縁抵抗測定		1F	○	19回		
			3. 抵抗測定		1F	○	19回		
	静的触媒式水素再結合装置 温度監視装置	1式	4. 機能・性能試験 (シーケンス試験)	高	1F	○	19回	原子炉格納容器水素再結合装置機能検査	
			1. 特性試験	高	13M	○	19回	計測制御系監視機能検査	16回施設定検時に設置
			1. 特性試験	高	13M	○	19回	計測制御系監視機能検査	16回施設定検時に設置
			1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	1次系弁検査 1次系安全弁検査	
	原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備] その他の弁	1式	2. 分解点検		104M~195M	○	19回	1次系弁検査 1次系逆止弁検査	有効性評価 No.18の反映
			3. 簡易点検 (フロントパッキン取替)		78M~195M	○	19回		有効性評価 No.18の反映
			1. 機能・性能試験	高	B	○	19回	1次系弁検査	
			2. 分解点検		182M	—	18回		
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備] その他の弁駆動部	1式	3. 簡易点検 (特性点検)		13M~182M	○	19回			
		1. 機能・性能試験	高	10F	—	13回			
		2. 分解点検		130M	○	19回	1次系逆止弁検査	有効性評価 No.19の反映	
		1. 機能・性能試験	高	195M	—	14回			
その他AM(格納容器器内注水) 機器	1式	1. 分解点検	高	195M	—				

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保安方式又は傾度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術
原子力設備 [その他設備]	クラス1機器 (供用期間中検査対象) (重大事故等クラス2機器供用期間中検査対象含む)	1. 非破壊試験 2. 漏えい試験	高	10Y 1F	○ ○	19回 19回	クラス1機器供用期間中検査 クラス1機器供用期間中検査	ISIプログラムによる。 [別表-1]
	クラス2機器 (供用期間中検査対象) (重大事故等クラス2機器供用期間中検査対象含む)	1. 非破壊試験 2. 漏えい試験	高	10Y 10Y	○ ○	19回 19回	クラス2機器供用期間中検査 クラス2機器供用期間中検査	ISIプログラムによる。 [別表-2]
	クラス3機器 (供用期間中検査対象)	1. 非破壊試験 2. 漏えい試験	高	10Y 10Y	○ ○	19回 19回	クラス3機器供用期間中検査 クラス3機器供用期間中検査	ISIプログラムによる。 [別表-3]
	クラス1機器Ni基金使用部位 (重大事故等クラス2機器供用期間中検査対象含む)	1. 非破壊試験	高	5Y	○	17回	供用期間中特別検査のうちクラス1機器Ni基金使用部位特別検査	ISIプログラムによる。 [別表-4]
	クラス2管 (原子炉格納容器内) (重大事故等クラス2機器供用期間中検査対象含む)	1. 非破壊試験	高	25%/10Y	○	19回	供用期間中特別検査のうちクラス2管 (原子炉格納容器内) 特別検査	ISIプログラムによる。 [別表-5]
	重大事故等クラス2機器	1. 非破壊試験 2. 漏えい試験	高	5Y~10Y 10Y	○ ○	19回 19回	重大事故等クラス2機器供用期間中検査 重大事故等クラス2機器供用期間中検査	ISIプログラムによる。 [別表-8] 16回施設定検から設定
	重大事故等クラス3機器	1. 漏えい試験	高	10Y	○	○	重大事故等クラス3機器供用期間中検査	ISIプログラムによる。 [別表-9] 17回施設定検から設定
	蒸気発生器管台溶接部 (重大事故等クラス2機器供用期間中検査対象含む)	1. 非破壊試験	高	10Y	○	18回	供用期間中特別検査のうち蒸気発生器管台溶接部の健全性確認検査	ISIプログラムによる。 [別表-1]
	クラス1配管 (水平展開対象)	1. 非破壊試験	高	100%/1F	○	19回	供用期間中特別検査のうちクラス1配管特別検査	ISIプログラムによる。 [別表-10] 19回定期事業者検査時から設定 長期施設管理方針No.3
	クラス3機器・クラス4管の耐圧部及び安全上重要な設備に係る排気筒ダクト	1. 外観点検	高	100%/5Y~10Y	○	19回	構造健全性検査	排気筒については5Yで実施 クラス3機器供用期間中検査 の漏えい検査対象範囲は除く
	RCPBのベント・ドレンホースト部	1. 漏えい試験	高	1F	○	19回	構造健全性検査	
	1次冷却材管ホイップレストレイント	1. 外観点検	高	1F	○	19回	レストレイント検査	
	主蒸気配管ホイップレストレイント	1. 外観点検	高	1F	○	19回	レストレイント検査	
	10箇所	1. 外観点検	高	1F	○	19回	レストレイント検査	
	原子力設備 [その他設備] その他の弁	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替)	高・低	B 78M~260M 78M~130M	○ ○ ○	19回 19回 19回	1次系弁検査 1次系弁検査	
原子力設備 [その他設備] その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (特許点検)	高・低	B 65M~130M 13M~130M	○ ○ ○	19回 19回 19回	1次系弁検査		
原子力設備 [その他設備] その他機器	1. 分解点検他 2. 分解点検他	高	13M~130M	○	19回			
耐震クラスS、Bの支持構造物	1. 外観点検	低 高	13M~130M 100%/10Y	○ ○	19回 19回	耐震健全性検査	一部BMあり クラス1、2、3、重大事故等クラス1、2機器供用期間中検査対象範囲を除く	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)	
蒸気タービン 〔車室、円板、隔板、噴口、翼、車軸〕	高压タービン	1. 開放点検 2. 組立状況点検 3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他)	高	39M X* 13M	— — ○	18回 18回 19回	蒸気タービン開放検査 蒸気タービン開放検査 蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン取替実施 X*: 高压タービン、低圧タービン点検対象の組み合わせにより適宜実施 15回定検時に蒸気タービン取替実施 15回定検時に蒸気タービン取替実施 X*: 点検対象の組み合わせにより適宜実施	
	第1 低圧タービン	1. 開放点検	高	39M	—	19回	蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン取替実施	
		2. 外観点検		X*	○	19回	蒸気タービン開放検査	X*: 点検対象の組み合わせにより適宜実施	
		3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他)		13M	○	19回	蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン取替実施	
	第2 低圧タービン	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン取替実施	
		2. 外観点検		X*	○	19回	蒸気タービン開放検査	X*: 点検対象の組み合わせにより適宜実施	
		3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他)		13M	○	19回	蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン取替実施	
	第3 低圧タービン	1. 開放点検	高	39M	○	17回	蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン取替実施	
		2. 外観点検		X*	○	19回	蒸気タービン開放検査	X*: 点検対象の組み合わせにより適宜実施	
		3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他)		13M	○	19回	蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン取替実施	
	蒸気タービン 〔調速装置および非常調速装置並びに調速装置で制御される主要弁〕	ロータライメント	1. 組立状況点検 1. 外観点検	高	B	○	19回	蒸気タービン開放検査	
		調速装置および非常調速装置	1. 組立状況点検	高	1F	○	19回	蒸気タービン開放検査	
			1. 開放点検	高	39M	○	18回	蒸気タービン開放検査	
		1 主蒸気止め弁	1. 開放点検	高	B	○	18回	蒸気タービン開放検査	
			2. 組立状況点検		39M	—	19回	蒸気タービン開放検査	
2 主蒸気止め弁		1. 開放点検	高	B	—	18回	蒸気タービン開放検査		
		2. 組立状況点検		39M	—	19回	蒸気タービン開放検査		
3 主蒸気止め弁		1. 開放点検	高	B	—	18回	蒸気タービン開放検査		
		2. 組立状況点検		39M	—	19回	蒸気タービン開放検査		
4 主蒸気止め弁		1. 開放点検	高	B	—	18回	蒸気タービン開放検査		
		2. 組立状況点検		39M	—	19回	蒸気タービン開放検査		
1 蒸気加減弁		1. 開放点検	高	B	○	18回	蒸気タービン開放検査		
		2. 組立状況点検		39M	○	18回	蒸気タービン開放検査		
2 蒸気加減弁		1. 開放点検	高	B	○	18回	蒸気タービン開放検査		
		2. 組立状況点検		39M	—	19回	蒸気タービン開放検査		
3 蒸気加減弁	1. 開放点検	高	B	—	18回	蒸気タービン開放検査			
	2. 組立状況点検		39M	—	19回	蒸気タービン開放検査			
4 蒸気加減弁	1. 開放点検	高	B	○	18回	蒸気タービン開放検査			
	2. 組立状況点検		39M	○	18回	蒸気タービン開放検査			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)	
蒸気タービン 〔調速装置及び非常調速装置並びに 調速装置で制御される主要弁〕	A 1 再熱蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	○	17回	蒸気タービン開放検査		
	A 2 再熱蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査		
	A 3 再熱蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	19回	蒸気タービン開放検査		
	B 1 再熱蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	○	18回	蒸気タービン開放検査		
	B 2 再熱蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査		
	B 3 再熱蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	19回	蒸気タービン開放検査		
	A 1 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	○	17回	蒸気タービン開放検査		
	A 2 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査		
	A 3 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	—	19回	蒸気タービン開放検査		
	B 1 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	○	18回	蒸気タービン開放検査		
	B 2 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査		
	B 3 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	—	19回	蒸気タービン開放検査		
	蒸気タービン 〔復水器〕	復水器 1 A	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機含む) 1. 開放点検 2. 開放点検 (非破壊試験)	高	1F	○	19回	蒸気タービン附属設備機能検査	
		復水器 2 A	1. 開放点検 2. 開放点検 (非破壊試験)	高	13M	○	19回	蒸気タービン開放検査	
		復水器 3 A	1. 開放点検 2. 開放点検 (漏えい試験)	高	78M	○	16回		
		復水器 1 B	1. 開放点検 2. 開放点検 (漏えい試験)	高	78M	—	16回		
		復水器 2 B	1. 開放点検 2. 開放点検 (非破壊試験)	高	78M	—	16回		
		復水器 3 B	1. 開放点検 2. 開放点検 (漏えい試験)	高	78M	—	16回		
		復水器 1 A	1. 開放点検 2. 開放点検 (非破壊試験)	高	78M	—	17回		
		復水器 2 B	1. 開放点検 2. 開放点検 (非破壊試験)	高	78M	—	17回		
		復水器 3 B	1. 開放点検 2. 開放点検 (漏えい試験)	高	78M	—	18回		
		復水器 1 B	1. 開放点検 2. 開放点検 (非破壊試験)	高	78M	—	18回		
		復水器 2 B	1. 開放点検 2. 開放点検 (非破壊試験)	高	78M	—	19回		
		復水器 3 B	1. 開放点検 2. 開放点検 (漏えい試験)	高	78M	—	19回		
	A 循環水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	52M	—	—	18回		
		2. 分解点検 (電動機)	高	104M	—	—	19回		
		3. 簡易点検 (醤油濾入装置点検) (ポンプ)	高	26M	○	—	18回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回数)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
蒸気タービン 〔復水器〕	B 循環水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	52M	—	17回			
		2. 分解点検 (電動機)		104M	—	17回			
		3. 簡易点検 (翼油導入装置点検) (ポンプ)		26M	—	19回			
	A 復水器真空ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	52M~78M	—	17回		(振動診断: 1 2M)	
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	15回			
	B 復水器真空ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	52M~78M	—	18回		(振動診断: 1 2M)	
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	18回			
	A 復水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	78M	—	17回			
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	17回			
	B 復水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	78M	—	18回			
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	18回			
	C 復水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	78M	—	16回			
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	15回			
	蒸気タービン [復水器] その他機器	1式	1. 分解点検他	高	13M~260M	○	19回		
			2. 分解点検他		13M~130M	○	19回		一部BMあり
	蒸気タービンに付属する熱交換器	A 湿分離加熱器 (胴側)	1. 開放点検	高	26M	—	19回	蒸気タービン開放検査	
			2. 非破壊試験		130M	—	15回	蒸気タービン開放検査	
			3. 漏えい試験		130M	—	15回		
		B 湿分離加熱器 (胴側)	1. 開放点検	高	26M	○	18回	蒸気タービン開放検査	
			2. 非破壊試験		130M	—	14回	蒸気タービン開放検査	
3. 漏えい試験			130M		—	14回			
A 第1 低圧給水加熱器		1. 開放点検	高	65M	○	15回	2次系熱交換器検査		
		2. 非破壊試験		130M	—	10回			
		3. 漏えい試験		65M	○	15回			
B 第1 低圧給水加熱器		1. 開放点検	高	65M	—	16回	2次系熱交換器検査		
		2. 非破壊試験		130M	—	11回			
		3. 漏えい試験		65M	—	16回			
C 第1 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	17回	2次系熱交換器検査			
	2. 非破壊試験		130M	—	12回				
	3. 漏えい試験		65M	—	17回				
A 第2 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	○	15回	2次系熱交換器検査			
	2. 非破壊試験		130M	—	15回				
	3. 漏えい試験		65M	○	15回				

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備〕	B第2 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	16回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	16回		
		3. 漏えい試験		65M	—	16回		
	C第2 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	17回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	17回		
		3. 漏えい試験		65M	—	17回		
	A第3 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	18回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	13回		
		3. 漏えい試験		65M	—	18回		
	B第3 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	19回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	14回		
		3. 漏えい試験		65M	—	19回		
	A第4 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	18回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	18回		
		3. 漏えい試験		65M	—	18回		
	B第4 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	19回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	19回		
		3. 漏えい試験		65M	—	19回		
	A第5 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	○	15回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	○	10回		
		3. 漏えい試験		65M	○	15回		
	B第5 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	16回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	11回		
		3. 漏えい試験		65M	—	16回		
脱気器タンク	1. 開放点検	高	39M	○	17回	2次系容器検査		
	2. 非破壊試験		39M	—	19回			
	3. 漏えい試験		39M	—	19回			
A脱気器	1. 開放点検	高	39M	○	17回	2次系容器検査		
	2. 非破壊試験		39M	—	17回			
	3. 漏えい試験		130M	—	12回			
A第7 高圧給水加熱器	1. 開放点検	高	130M	—	19回	2次系熱交換器検査		
	2. 非破壊試験		130M	—	19回			
	3. 漏えい試験		130M	—	13回			
B第7 高圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	17回	2次系熱交換器検査		
	2. 非破壊試験		130M	—	17回			
	3. 漏えい試験		65M	—	17回			
グラント蒸気復水器	1. 開放点検	高	1F	○	19回	蒸気タービン付属設備機能検査		
	2. 非破壊試験		B	—	17回			
	3. 漏えい試験		52M~104M	○	17回			
給水、復水系 Aタービン動主給水ポンプ・タービン	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機含む)	高	52M	—	17回	2次系ポンプ機能検査	有効性評価 No.20の反映	
	2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	17回			
	3. 分解点検 (タービン)		52M	—	17回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は傾度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)
蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備〕	Aタービン動主給水ポンプ・スタボンプ・電動機	1. 分解点検 (ボンプ)	高	78M	○	16回		
		2. 分解点検 (電動機)		78M	○	16回		
		3. 簡易点検 (ボンプ)		13M	○	19回		
Bタービン動主給水ポンプ・タービン		1. 機能・性能試験 (タービン)	高	B	—	18回	2次系ボンプ機能検査	
		2. 分解点検 (ボンプ)		52M~104M	—	18回		有効性評価 No.20の反映
		3. 分解点検 (タービン)		52M	—	18回	2次系ボンプ分解検査	
電動主給水ポンプ・電動機	電動主給水ポンプ・スタボンプ・電動機	1. 分解点検 (ボンプ)	高	78M	—	17回		
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	17回		
		3. 簡易点検 (ボンプ)		13M	○	19回		
電動主給水ポンプ・電動機	電動主給水ポンプ・スタボンプ・電動機	1. 分解点検 (ボンプ)	高	130M	—	16回	2次系ボンプ分解検査	
		2. 分解点検 (電動機)		52M	—	18回		
		3. 簡易点検 (ボンプ)		78M	—	19回	2次系ボンプ分解検査	
A復水ブースタボンプ・電動機	A復水ブースタボンプ・電動機	1. 分解点検 (ボンプ)	高	104M	—	17回		
		2. 分解点検 (電動機)		104M	—	17回		
		3. 簡易点検 (ボンプ)		13M	○	19回		
B復水ブースタボンプ・電動機	B復水ブースタボンプ・電動機	1. 分解点検 (ボンプ)	高	104M	—	18回		
		2. 分解点検 (電動機)		104M	○	14回		
		3. 簡易点検 (ボンプ)		13M	○	19回		
C復水ブースタボンプ・電動機	C復水ブースタボンプ・電動機	1. 分解点検 (ボンプ)	高	104M	—	15回		
		2. 分解点検 (電動機)		104M	—	15回		
		3. 簡易点検 (ボンプ)		13M	○	19回		
3 A復水ろ過器	3 A復水ろ過器	1. 開放点検	高	65M	—	18回	2次系容器検査	
		1. 開放点検		65M	—	18回	2次系容器検査	
		1. 開放点検		65M	—	18回	2次系容器検査	
3 B復水ろ過器	3 B復水ろ過器	1. 開放点検	高	130M	—	16回	2次系容器検査	
		1. 開放点検		130M	—	17回	2次系容器検査	
		1. 開放点検		130M	—	18回	2次系容器検査	
3 D復水脱塩塔	3 D復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	—	19回	2次系容器検査	
		1. 開放点検		130M	—	19回	2次系容器検査	
		1. 開放点検		130M	—	15回	2次系容器検査	
3 F復水脱塩塔	3 F復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	○	10回	2次系容器検査	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備〕 その他機器	蒸気タービン [蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備] その他機器	1. 分解点検他	高	13M～156M	○	19回		
蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する管等〕	主な配管 (主蒸気系統・抽気系統・ドレン系統) 2次系配管等* (上記「蒸気タービン」以外の主蒸気系統・給水系統・抽気系統・ドレン系統・復水系統・その他の系統) *: 配管のほか、タービン、ポンプ、熱交換器、弁等を含む	1. 開放点検 2. 非破壊試験 1. 外観点検*	高	13M 肉厚管理指針による 10Y	○ ○ ○	19回 19回 19回	蒸気タービン開放検査 蒸気タービン開放検査 2次系配管検査	一部BMあり 定期事業者検査起動後
蒸気タービン 〔その他設備〕	蒸気タービン及び附属設備 蒸気タービン [その他設備] その他の弁	1. 保安装置点検 2. 負荷点検 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 分解点検 4. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替)	高 高・低 高 低 高・低	1F 1F B 13M～260M 13M～260M 52M～195M	○ ○ ○ ○ ○ ○	19回 19回 19回 19回 19回	蒸気タービン性能検査 総合負荷性能検査 2次系安全弁検査	一部定期事業者検査起動後 定期事業者検査起動後
その他蒸電用原子炉の附属施設 〔非常用発電装置〕	蒸気タービン [その他設備] その他の弁駆動部 蒸気タービン [その他設備] その他機器 その他AM (格納容器内注水) 機器 非常用ディーゼル発電機	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (特許点検) 1. 分解点検他 2. 分解点検他 1. 機能・性能試験	高・低 高 高 低 高	B 52M～182M 13M～182M 13M～130M 12M～260M 12M～182M 1F	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	19回 19回 19回 19回 19回 19回	1次系弁検査 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機定格容量検査) 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検査) 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検査)	一部BMあり プラント運転中又は定期事業者検査停止中 プラント運転中又は定期事業者検査停止中

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
その他発電用原子炉の附属施設 [非常用発電装置]	Aディーゼル発電機 Aディーゼル機関 Aディーゼル機関のピストン、ピストン 連接棒、クランク軸	1. 分解点検他	高	13M~104M	○	19回			
		1. 分解点検他	高	13M~156M	○	19回			
		No. 1, 9	1. 分解点検	高	130M	—	17回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 2, 10	1. 分解点検	高	130M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 3, 11	1. 分解点検	高	130M	—	14回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 4, 12	1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 5, 13	1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 6, 14	1. 分解点検	高	130M	—	18回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 7, 15	1. 分解点検	高	130M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 8, 16	1. 分解点検	高	130M	—	15回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 1-4, 9-12	1. 分解点検	高	26M	○	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施
		No. 5-8, 13-16	1. 分解点検	高	26M	○	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施
		No. 1-4, 9-12	1. 分解点検	高	26M	○	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施
		No. 5-8, 13-16	1. 分解点検	高	26M	○	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施
		No. 1-4, 9-12	1. 分解点検	高	26M	○	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	一部先行実施
		No. 5-8, 13-16	1. 分解点検	高	26M	○	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	一部先行実施
	No. 1-4, 9-12	1. 分解点検	高	26M	○	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施	
	No. 5-8, 13-16	1. 分解点検	高	26M	○	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施	
	Bディーゼル発電機 Bディーゼル機関 Bディーゼル機関のピストン、ピストン 連接棒、クランク軸	No. 1, 9	1. 分解点検	高	130M	—	17回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 2, 10	1. 分解点検	高	130M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 3, 11	1. 分解点検	高	130M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 4, 12	1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 5, 13	1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
		No. 6, 14	1. 分解点検	高	130M	—	18回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
No. 7, 15		1. 分解点検	高	130M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
No. 8, 16		1. 分解点検	高	130M	—	15回	非常用ディーゼル発電機分解検査		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)		
その他発電用原子炉の附属施設 〔非常用発電装置〕	Bディーゼル機関のシリンダカバー	No. 1-4, 9-12	高	26M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	一部先行実施		
	Bディーゼル機関の吸気弁	No. 5-8, 13-16	1. 分解点検	高	26M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	一部先行実施	
		No. 1-4, 9-12	1. 分解点検	高	26M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	一部先行実施	
		No. 5-8, 13-16	1. 分解点検	高	26M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	一部先行実施	
		No. 1-4, 9-12	1. 分解点検	高	26M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施	
		No. 5-8, 13-16	1. 分解点検	高	26M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施	
		No. 1-4, 9-12	1. 分解点検	高	26M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施	
		No. 5-8, 13-16	1. 分解点検	高	26M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施	
		Bディーゼル機関の燃料噴射弁	No. 1-4, 9-12	1. 分解点検	高	26M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施
			No. 5-8, 13-16	1. 分解点検	高	26M	—	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査	先行実施
		ディーゼル発電機付属設備	1式	1. 外観点検	高	1F	○	19回	非常用予備発電機付属設備検査	
	2. 分解点検				26M~130M	○	19回			
	3. 開放点検				26M~130M	○	19回			
	4. 非破壊試験				13M	○	19回	非常用予備発電機付属設備検査	一部先行実施	
	5. 漏えい試験				13M	○	19回			
	空冷式非常用発電装置	2台	6. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	非常用予備発電機付属設備検査		
			7. 特性試験		26M	○	19回	非常用予備発電機付属設備検査		
	電源車 (可搬式代替低圧注水ポンプ用)	3台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	可搬式代替電源設備検査	16回施設定検時に設置 一部先行実施	
			2. 取替他		120M	—	—			
	電源車 (緊急時対策所用)	3台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	19回	可搬式代替電源設備検査	16回施設定検時に設置 一部先行実施	
1. 機能・性能試験			高	1F	○	19回	可搬式代替電源設備検査	16回施設定検時に設置 一部先行実施		
重油タンク	2台	1. 開放点検	高	130M	—	—		プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置		
		1. 機能点検	高	1Y	○	19回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置		
その他発電用原子炉の附属施設〔非常用発電装置〕 その他の弁 その他発電用原子炉の附属施設〔非常用発電装置〕 その他機器	1式	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	19回	非常用予備発電機付属設備検査			
		2. 分解点検		26M~130M	○	19回				
		1. 分解点検他	高	13M~130M	○	19回				
		2. 分解点検他	低	13M~130M	○	19回				

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
その他発電用原子炉の附属施設 [その他の電源装置]	直流電源装置蓄電池	2組 (60個/組)	高	1F	○	19回	直流電源系機能検査	() 内は適用する設備診断技術)	
	直流電源装置蓄電池 (3系統目)	1組 (64個/組)	高	1F	○	—	直流電源系作動検査		
	計器用電源	4台	高	1F	○	19回	直流電源系作動検査		
	可搬式整流器	1式	1. 外観点検他	高	26M	○	19回		インバータ機能検査
		2個	1. 分解点検	高	1F	○	19回		
	可搬型バッテリー (加圧器逃がし弁用)	2個	1. 外観点検	高	1F	○	19回		16回施設定検時に設置
			2. 電圧測定	高	1F	○	19回		
	その他発電用原子炉の附属施設 [常用電源設備]	その他発電用原子炉の附属施設 [その他電源装置] その他機器	1式	1. 分解点検他	高	13M~39M	○		19回
				2. 分解点検他	低	13M~26M	○		19回
			1式	1. 分解点検他	高	13M~104M	○		19回
1式			1. 分解点検他	高・低	13M~156M	○	19回		
1式			1. 分解点検他	高・低	52M~216M	○	19回		
その他発電用原子炉の附属施設 [補助ボイラー]	#2 補助ボイラー本体 ドラム 火炉 管 安全弁 ボイラーに付属する給水設備 ボイラーに付属する通気設備 ボイラーに付属する燃料燃焼設備	1式	1. 分解点検他	低	13M~130M	○	19回	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 一部BMあり 先行実施 (その他の機器のうち燃料タンクを除く) ※1 補助ボイラー開放検査の実施頻度は10Yであるが、前回の点検後の運転時間及び起動回数が4000時間かつ120回に達すると見込まれる時期までに定期事業者検査を実施する。 ※2 補助ボイラー設備検査及び性能検査は、補助ボイラー開放検査に合わせて実施する。 * : 前回実施時期については、1号機での実績を記載	
			2. 分解点検	低	10Y※1	—	24回*		
			2. 性能検査	低	B	—	24回*		
			3. 簡易点検 (外観点検他)	低	1Y	○	19回		
			1. 開放点検	低	10Y※1	—	24回*		
			2. 性能試験	低	B	—	24回*		
			3. 簡易点検 (外観点検他)	低	1Y	○	19回		
			1. 開放点検	低	10Y	—	24回*		
			2. 簡易点検 (運転状態確認)	低	1Y	○	19回		
			1. 外観点検	低	10Y	—	24回*		
その他発電用原子炉の附属施設 [補助ボイラー] その他の弁	補助ボイラー系統設備	1式	1. 機能・性能試験	低	10Y	○	19回	有効性評価 No.22の反映	
			2. 簡易点検	低	1Y	○	19回		
			1. 外観点検	低	10Y	—	24回*		
その他発電用原子炉の附属施設 [補助ボイラー] その他の弁	補助ボイラー系統設備	1式	1. 機能・性能試験	低	B	○	24回*	有効性評価 No.22の反映	
			2. 分解点検	低	10Y	○	24回*		
その他発電用原子炉の附属施設 [補助ボイラー] その他の機器	その他発電用原子炉の附属施設 [補助ボイラー] その他の機器	1式	1. 分解点検他	低	1Y~20Y	○	19回	有効性評価 No.22の反映	
			2. 分解点検	低	10Y	○	24回*		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術 プラント運転中又は定期事業者検査停止中
その他発電用原子炉の附属施設 [火災防護設備]	電動消火ポンプ・電動機	1台 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 (ポンプ) 3. 分解点検 (電動機)	高	1Y 10Y 6Y	○ — —	19回 19回 15回		
	消火水バックアップポンプ	2台 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 (ポンプ) 3. 分解点検 (電動機)	低	B* 130M 130M	— — —	— — —	火災防護設備検査	B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 16回施設定検時に設置
	煙等流入防止装置 その他発電用原子炉の附属施設 [火災防護設備] その他機器	1式 1. 外観点検	高	1F	○	19回		16回施設定検時に設置
その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護設備]	浸水防止堰 堰、浸水防止堰、伝播防止堰	1式 1. 特牲試験他	低	1Y~10Y	○	19回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置
	水密扉	1式 1. 外観点検	高	1F	○	19回		16回施設定検時に設置
	潮位計	2台 1. 機能・性能試験	高・低	1F~4F	○	19回	計測制御系監視機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置
	津波監視カメラ	2台 1. 機能・性能試験	低	1F	○	19回		16回施設定検時に設置
	A.湧水サンプポンプ・電動機	2. 取替	低	B* 5Y	— —	— —	浸水防護設備検査	B*：取替にあわせて実施 プラント運転中又は施設定検停止中 ポンプ・電動機一体型ポンプ 16回施設定検から設定
	B.湧水サンプポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B* 5Y	— —	— —	浸水防護設備検査	B*：取替にあわせて実施 プラント運転中又は施設定検停止中 ポンプ・電動機一体型ポンプ 16回施設定検から設定
		2. 取替						

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定換回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設]	その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設] その他の弁	1. 機能・性能試験	高・低	B	—	—	浸水防護設備検査	浸水防護設備検査は、17回施設定検から設定
		2. 分解点検		130M	—	—		
その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設]	その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設] その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験	高・低	B	—	—	浸水防護設備検査	浸水防護設備検査は、17回施設定検から設定
		2. 分解点検		182M	—	—		
その他発電用原子炉の附属施設 [軽油ドラム缶]	その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設] その他機器	1. 外観点検他	高・低	1F~10F	○	19回		16回施設定検時に設置
		1. 外観点検		1M	○	19回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置 有効性評価 No.29の反映
その他発電用原子炉の附属施設 [非常用取水設備]	貯水堰	1. 外観点検	高	2Y	—	19回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置
		1. 外観点検		1Y	○	19回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中 16回施設定検時に設置
土木建築設備	原子炉建屋 (格納容器内壁) 原子炉建屋 (格納容器外壁、格納容器外)	1. 外観点検	高	1F	○	19回		定期事業者検査停止中
		1. 外観点検		1Y	○	19回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
プラント総合	取水口設備	1. 外観点検	高	1F	○	19回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
		1. 総合性能試験		1F	○	19回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中 定期事業者検査起動後
全般機器	原子炉及びその附属設備 (補助ボイラー及び非常用予備発電装置を除く) 諸機器	1. 分解点検他	低	6M~168M	○	19回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中

クラス1機器供用期間中検査10年計画

1. 原子炉容器 (1/2)

別表一(1/11)

項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画 (10カ年)										備考
								2018年 第一回	2019年 第一回	2020年 第一回	2021年 第一回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第一回	2025年 第一回	2026年 第一回	2027年 第一回	
B2. 111	B-B	上部胴と下部胴との周湾接継手	体積	全長の5%	1箇所	水中UT (内面)	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	維持規格 JSME S NA1-2008 (重大事故等クラス2機器)
		上部胴と下部胴との周湾接継手	体積	全長の100%	1箇所	水中UT (内面)	100%	-	-	-	-	-	100%	-	-	-	-	維持規格 JSME S NA1-2008/2013/2014 (重大事故等クラス2機器)
		下部胴とトランジヨンジングとの周湾接継手	体積	全長の5%	1箇所	水中UT (内面)	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	維持規格 JSME S NA1-2008 (重大事故等クラス2機器)
		下部胴とトランジヨンジングとの周湾接継手	体積	全長の100%	1箇所	水中UT (内面)	100%	-	-	-	-	-	-	100%	-	-	-	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014 (重大事故等クラス2機器)
B3. 105	B-C	トランジヨンジングと下部胴との周湾接継手	体積	全長の5%	1箇所	水中UT (内面)	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	維持規格 JSME S NA1-2008 (重大事故等クラス2機器)
		トランジヨンジングと下部胴との周湾接継手	体積	全長の100%	1箇所	水中UT (内面)	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	維持規格 JSME S NA1-2008 (重大事故等クラス2機器)
B3. 10	B-D	上部胴と上部胴フランジとの溶接継手	体積	全長の100%	4箇所	水中UT (内面)	各100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		冷却材入口管台と胴との溶接継手	体積	全長の100%	4箇所	水中UT (内面)	各100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B3. 20	B-D	冷却材入口管台内面の丸みの部分	体積	全長の100%	4箇所	水中UT (内面)	各100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		冷却材出口管台内面の丸みの部分	体積	全長の100%	4箇所	水中UT (内面)	各100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B5. 10	B-F	冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	全長の100%	4箇所	UT及びPT	各100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	全長の100%	4箇所	UT及びPT	各100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B6. 10	B-G-1	ネット	VT-1	全長の100%	54個	VT-1	100%	-	7	12	-	7	7	7	-	7	-	(重大事故等クラス2機器)
B6. 30	B-G-1	スタッドボルト	体積	全長の100%	54本	UT	100%	-	7	12	-	7	7	7	-	7	-	(重大事故等クラス2機器)
B6. 40	B-G-1	胴フランジネジ穴のネジ部	体積	全長の100%	54箇所	UT	可能範囲100%	-	18	-	-	-	-	18	-	-	-	ガイドスタッド近傍は検査不可能 (重大事故等クラス2機器)
B6. 50	B-G-1	上蓋用フッシャ	VT-1	全長の100%	54個	VT-1	100%	-	7	12	-	7	7	7	-	7	-	(重大事故等クラス2機器)
B7. 10	B-G-2	T/Cハウジングのマーマンクランプ用ボルト・ナット	VT-1	全長の25%	3箇所/ 1組 x 4組	VT-1	25% (1組)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)

※1. NRA文書「原子炉容器(1/2)」の付属施設における破壊を引起こす亀裂その他の欠陥の検出(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検出NRA文書改正という)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17候全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

1. 原子炉容器(2/2)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NAI-2008 ※1	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10年)										備考				
									2018年 第一回	2019年 第一回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回		2028年 第23回			
G1.10	G-P-1		原子炉容器内部	VT-3	全範囲の 7.5% 各検査時期毎	1基	VT-3 (水中TV)	可能範囲 100% 約3年毎	-	可能範囲 100%													維持規格JSME S NAI-2008 (重大事故等クラス2機器)
G1.10	G-P-1		原子炉容器内部	VT-3	全範囲の 7.5%	1基	VT-3 (水中TV)	可能範囲 100% 約3年毎															維持規格JSME S NAI- 2012/2013/2014 (重大事故等クラス2機器)
G1.40	G-P-1		内部取付け物	VT-3	全範囲の 7.5%	6箇所	VT-3 (水中TV)	可能範囲 100%															下部炉心精密物取出し時に実施 (重大事故等クラス2機器)
G1.40	G-P-1		上部炉心支持構造物	VT-3	全範囲の 7.5%	1基	VT-3 (水中TV)	可能範囲 100%															(重大事故等クラス2機器)
G1.50	G-P-2		下部炉心支持構造物	VT-3	全範囲の 7.5%	1基	VT-3 (水中TV)	可能範囲 100%															下部炉心精密物取出し時に実施 (重大事故等クラス2機器)
B14.10	B-O		制御棒駆動ハウジングの溶接継手 (上部)	体積又は 表面	最外周 25%	最外周 20箇所 (全62箇所) 最外周 24箇所 (全66箇所)	PT	最外周 可能範囲 25% (11箇所)	-	1	2	2	2	1	1								1.構造上UTは不可 2.上部は構造的に裏板困難 (重大事故等クラス2機器)
B15.10	B-P		圧力保持範囲	VT-2	滲え 検査時 100%	1式	VT-2	100%	-	●	●												(重大事故等クラス2機器)
F1.41	F-A		支持構造物	VT-3	全数の 25%	8箇所	VT-3	25% (2箇所)	-		B 出口側												但し、目視可能な範囲のみとする。 (重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破損を引き起こす電裂その他の文脈の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1908051号)の改正版(以下、電裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

※2: 過去の維持規格適用期間は以下の通り。
-維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

2. 加圧器(1/2)

別表-1(3/11)

項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大崎発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考			
								2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回		2028年 第23回		
B2. 11	B-B	上部罫板と上部胴との周継手 下部胴と下部罫板との周継手	体積	全長の5% 全長の5%	1箇所	UT	5%	-	5%									(重大事故等クラス2機器)			
					1箇所	UT	5%	-												(重大事故等クラス2機器)	
B2. 12	B-B	上部胴の長手継手 中間胴の長手継手	体積	全長の10% 全長の10%	2箇所	UT	各10%	-	B10%		A10%							(重大事故等クラス2機器)			
					2箇所	UT	各10%	-		A10%										(重大事故等クラス2機器)	
B2. 13	B-B	上部胴と中間胴との周継手 中間胴と下部胴との周継手	体積	全長の5% 全長の5%	1箇所	UT	5%	-										(重大事故等クラス2機器)			
					1箇所	UT	5%	-	5%											(重大事故等クラス2機器)	
B3. 30	B-D	安全弁用管台と容器との溶接継手 逃げし弁用管台と容器との溶接継手 スプレイ用管台と容器との溶接継手 サージ用管台と容器との溶接継手	体積	全長の25%	3箇所																
					1箇所																
					1箇所																
					1箇所																
B3. 40	B-D	安全弁用管台内面の丸み部分 逃げし弁用管台内面の丸み部分 スプレイ用管台内面の丸み部分 サージ用管台内面の丸み部分	体積	全長の25%	3箇所																
					1箇所																
					1箇所																
					1箇所																

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。.)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる答台」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)
 ・維持規格2008年追補: 2020年3月～2020年7月(新規制基準施行による維持規格2008年追補の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

2. 加圧器(2/2)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)										備考					
								2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回		2028年 第23回				
B5. 40	B-F	安全弁用管台とセーフエンドとの溶接継手 逃がし弁用管台とセーフエンドとの溶接継手 スプレイ用管台とセーフエンドとの溶接継手 サージ用管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	全数の25%	3箇所	UT及びPT	33% (2箇所)	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	(重大事故等クラス2機器)				
					1箇所			スプレイ用管台(UT,PT)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-	(重大事故等クラス2機器)	
					1箇所			サージ用管台(UT)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-		(重大事故等クラス2機器)
					1箇所			サージ用管台(PT)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-		
B7. 20	B-G-2	マンホール取付ボルト	VT-1	全数の25%	16本/ 1箇所 x1基	VT-1	25% (4本)	-	1	-	-	-	1	1	-	-	1	(重大事故等クラス2機器)					
B8. 20	B-H	支持部材の容器への取付け溶接継手(スカート溶接継手)	表面又は体積	全長の7.5%	1箇所	UT	7.5%	-	-	-	-	-	-	7.5%	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)				
B15. 20	B-P	圧力保持範囲	VT-2	漏えい検査時100%	1式	VT-2	100%	-	●	●	●	-	○	○	○	-	○	○	(重大事故等クラス2機器)				
F1. 41	F-A	支持構造物(スカート、基礎ボルト含む)	VT-3	全数の25%	1箇所/ 1基	VT-3	100%	-	-	-	-	-	-	100%	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)				

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会社「原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等」新頒布要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの「結果(2019年度中の計画変更)」を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

3. 蒸気発生器(1/1)

項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)										備考	
								2018年 第一回	2019年 第一回	2020年 第一回	2021年 第一回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回		2028年 第23回
B2. 40	B-B	管板と水室銅板との溶接継手	体積	代表1基 全長の 25%	1箇所/ 1基×4 基	UT	代表1基の 25%	-	A 9%									A 8%	(重大事故等クラス2機器)
B3. 60	B-D	冷却材入口管台の内面の丸みの部分	体積	代表1基 全長の 25%	1箇所/ 1基×4 基	UT	代表1基の 50% (1箇所 /1基)	-										B 入口側	(重大事故等クラス2機器)
B5. 70	B-F	冷却材入口管台とセーフエンドとの 溶接継手	体積及び 表面	代表1基 全長の 25%	1箇所/ 1基×4 基	UT及び PT	代表1基の 50% (1箇所 /1基)	-											*1 (重大事故等クラス2機器)
B7. 30	B-G-2	1次側マンホールボルト(入口側)	VT-1	代表1基 全長の 25%	16本/ 1基×4 基	VT-1	代表1基の 50% (16本 /1基)	-										A 入口側 4本	*1 (重大事故等クラス2機器)
B8. 30	B-H	水室銅とサポートバットとの溶接継手	表面	代表1基 全長の 7.5%	4箇所/ 1基×4 基	PT	代表1基の 25% (1箇所)	-											(重大事故等クラス2機器)
B15. 30	B-P	圧力保持範囲	VT-2	浸透 検査時 100%	1式	VT-2	100%	-										●	(重大事故等クラス2機器)
F1. 41	F-A	支持構造物	VT-3	代表1基 の25%	4箇所/ 1基×4 基	VT-3	代表1基の 100% (4箇所)	-										A4	(重大事故等クラス2機器)

*1: 検査方法のうちUTについては、NISA文書「定期事業者検査における超音波探傷試験の代替措置計画策定について」の検査対象
 ※1: NRA文書「実用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電致その他の火傷の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解群NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「原子炉圧力容器の溶接継
 手の試験程度等」新規格要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間(以下)の通り、
 ・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規格基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

クラス1 機器供用期間中検査10年計画

4. 配管(1/3)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSMES NA1-2008 ※1	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大阪発電所 第3号機 検査計画(10年)										備考										
									2018年 第一回	2019年 第一回	2020年 第一回	2021年 第一回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第一回	2025年 第一回	2026年 第一回	2027年 第一回		2028年 第一回									
B7.50	B-G-2	直径50mm以下の圧力降下用ボルト締め付け部	検査方法	VT-1	全数の25%	4組 / 1箇所 x 4箇所	VT-1	25% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
			検査範囲	VT-1	全数の25%	4組 / 1箇所 x 4箇所	VT-1	25% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
			検査方法	体積	全数の25%	48箇所	UT	25% (12箇所)	2	2	1	1	2	1	2	1	1	2	1	2	1	2	2	C, D	(重大事故等クラス2機器)				
B9.11	B-J	配管の配管の漏れ検査(FFS装置100A以上, 用継手)	検査方法	体積	全数の25%	6箇所	UT	33% (2箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)				
			検査範囲	体積	全数の25%	6箇所	UT	33% (2箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
			検査方法	体積	全数の25%	57箇所	UT	26% (15箇所)	1	2	2	3	2	1	2	1	2	4	2	1	2	4	2	1	2	1	(重大事故等クラス2機器)		
B9.21	B-J	配管の同機漏れ検査(FFS装置100A未満, 用継手)	検査方法	体積	全数の25%	32箇所	UT	25% (8箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)			
			検査範囲	体積	全数の25%	32箇所	UT	25% (8箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			検査方法	体積	全数の25%	56箇所	UT	25% (14箇所)	2	1	1	2	1	1	2	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)	
B9.21	B-J	配管の同機漏れ検査(FFS装置100A未満, 用継手)	検査方法	体積	全数の25%	20箇所	UT	25% (5箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
			検査範囲	体積	全数の25%	20箇所	UT	25% (5箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			検査方法	表面	全数の25%	12箇所	UT	25% (3箇所)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)	
B9.21	B-J	配管の同機漏れ検査(FFS装置100A未満, 用継手)	検査方法	表面	全数の25%	12箇所	PT	25% (3箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
			検査範囲	表面	全数の25%	12箇所	PT	25% (3箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			検査方法	表面	全数の25%	22箇所	PT	27% (6箇所)	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)	
B9.21	B-J	配管の同機漏れ検査(FFS装置100A未満, 用継手)	検査方法	表面	全数の25%	33箇所	PT	27% (9箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			検査範囲	表面	全数の25%	33箇所	PT	27% (9箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			検査方法	表面	全数の25%	10箇所	PT	30% (3箇所)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)
B9.21	B-J	配管の同機漏れ検査(FFS装置100A未満, 用継手)	検査方法	表面	全数の25%	1箇所	PT	100% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			検査範囲	表面	全数の25%	1箇所	PT	100% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			検査方法	表面	全数の25%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B9.21	B-J	配管の同機漏れ検査(FFS装置100A未満, 用継手)	検査方法	表面	全数の25%	11箇所	PT	27% (3箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			検査範囲	表面	全数の25%	11箇所	PT	27% (3箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			検査方法	表面	全数の25%	11箇所	PT	27% (3箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1: NPA文庫「専用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす機器の他の欠陥の発現(令和元年6月5日)既補修発注1006051号」の改正版(以下、亀裂検知NPA文庫改正という。)の発行及び公開会「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規格適用期間以下」の通り。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

4. 配管 (2/3)

別表-1(7/11)

項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)										備考
								2018年 第一回	2019年 第一回	2020年 第一回	2021年 第一回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	
B9. 21	B-U	配管の 同種金属 溶接継手 (呼び径100A 未満,周継手)	SIS高温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 25%	29箇所	PT	27% (8箇所)	-	1	1	-	1	2	-	2	(重大事故等クラス2機器)	
			SIS低温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 25%	6箇所	PT	33% (2箇所)	-	1	-	-	1	-	-	-		-
B9. 31	B-U	母管と管台 との溶接継手 (呼び径100A 以上)	1次冷却配管	体積	全数の 25%	9箇所	UT	33% (3箇所)	-	1	-	-	-	-	-	1	(重大事故等クラス2機器)	
			1次冷却配管	表面	全数の 25%	32箇所	PT	25% (8箇所)	-	1	2	1	-	1	1	-		2
B9. 32	B-U	母管と管台 との溶接継手 (呼び径100A 未満)	余熱除去ポンプ入ロライン	表面	全数の 25%	2箇所	PT	100% (2箇所)	-	-	1	-	-	1	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			SIS蓄圧注入ライン	表面	全数の 25%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	1	-	-	-	-	-		-
			SIS高温側低圧注入ライン	表面	全数の 25%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	-	1	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			SIS低温側低圧注入ライン	表面	全数の 25%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	-	1	-	-		-
B9. 40	B-U	ソケット 溶接継手	1次冷却配管	表面	全数の 25%	25箇所	PT	28% (7箇所)	-	1	1	-	1	1	-	2	(重大事故等クラス2機器)	
			加圧器補助スプレイライン	表面	全数の 25%	1箇所	PT	100% (1箇所)	-	1	-	-	-	-	-	-		-
			抽出及びドレンライン	表面	全数の 25%	6箇所	PT	33% (2箇所)	-	-	1	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			1次冷却材ポンプ封水 注入ライン	表面	全数の 25%	62箇所	PT	25% (16箇所)	-	2	2	2	-	2	3	-		2
B10. 20	B-K	配管部分への 支持部材の取 付け溶接継手	SIS高温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 25%	30箇所	PT	26% (8箇所)	-	2	1	-	1	1	-	1	(重大事故等クラス2機器)	
			SIS低温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 25%	16箇所	PT	25% (4箇所)	-	-	1	-	-	1	1	-		1
B15. 50	B-P	配管部分への 支持部材の取 付け溶接継手	余熱除去ポンプ入ロライン	表面	全数の 25%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	1	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			圧力保持範囲	VT-2	VT-2	100% 漏えい 検査時	1式	VT-2	100%	-	●	●	-	○	○	-		○

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす種族その他の欠陥の発現」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、発現種族NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規格要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規格基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

4. 配管(3/3)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1										大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)										備考
		検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2018年 第一回	2019年 第一回	2020年 第一回	2021年 第一回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回			
F1.10	F-A	支持構造物 1次冷却材ポンプ封水 注入ライン	加圧器サージライン	VT-3	全数の 25%	7箇所	VT-3	28% (2箇所)	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)			
			加圧器迷がし弁ライン	VT-3	全数の 25%	10箇所	VT-3	30% (3箇所)	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1	(重大事故等クラス2機器)		
			加圧器スプレイレイン	VT-3	全数の 25%	61箇所	VT-3	26% (16箇所)	-	2	1	-	-	2	-	1	-	-	7			
			加圧器補助スプレイレイン	VT-3	全数の 25%	30箇所	VT-3	26% (8箇所)	-	2	1	-	-	1	-	1	-	-	-	2		
			抽出及びドレンライン	VT-3	全数の 25%	23箇所	VT-3	26% (6箇所)	-	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	1		
			CVCS充てんライン	VT-3	全数の 25%	5箇所	VT-3	40% (2箇所)	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			1次冷却材ポンプ封水 注入ライン	VT-3	全数の 25%	27箇所	VT-3	25% (7箇所)	-	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	2		
			余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	全数の 25%	24箇所	VT-3	25% (6箇所)	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			SIS蓄圧注入ライン	VT-3	全数の 25%	30箇所	VT-3	26% (8箇所)	-	-	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	2	(重大事故等クラス2機器)
			SIS高温側低圧注入ライン	VT-3	全数の 25%	12箇所	VT-3	25% (3箇所)	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
			SIS低温側低圧注入ライン	VT-3	全数の 25%	10箇所	VT-3	30% (3箇所)	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	(重大事故等クラス2機器)
			SIS高温側高圧補助 注入ライン	VT-3	全数の 25%	46箇所	VT-3	26% (12箇所)	-	-	1	2	2	3	-	-	1	2	-	-	2	
			SIS低温側高圧補助 注入ライン	VT-3	全数の 25%	11箇所	VT-3	27% (3箇所)	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	(重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる答台」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

5. 1次冷却材ポンプ(1/1)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
									2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	
B6. 180			主フランジボルト	体積	代表1台の 25%	24本/ 1台×4台	UT	代表1台の 25% (6本/1台)	-	A 6									(重大事故等クラス2機器)
B6. 190	B-G-1		主フランジ表面	VT-1	代表1台の 25%	24箇所/ 1台×4台	VT-1	代表1台の 25% (6箇所/1台)	-	A 6									ポンプ分解点検時に実施 (重大事故等クラス2機器)
B6. 200			主フランジナット・ワッシャ	VT-1	代表1台の 25%	24組/ 1台×4台	VT-1	代表1台の 25% (6組/1台)	-	A 6									(重大事故等クラス2機器)
B12. 20	B-L-2		ケーシングの内表面	VT-3	代表1台の 100%	4台	VT-3	代表1台の 100% (1台)	-	A									ポンプ分解点検時に実施 (重大事故等クラス2機器)
B15. 60	B-P		圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%	1式	VT-2	100%	-	●	●								(重大事故等クラス2機器)
F1. 41	F-A		支持構造物	VT-3	代表1台の 25%	3箇所/ 1台×4台	VT-3	代表1台の 100% (3箇所/1台)	-			A 3							(重大事故等クラス2機器)

※1. NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

6. 弁(1/2)

別表-1(10/11)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)										備考	
									2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回		2028年 第23回
B7. 70	B-G-2	直径50mm 以下の 圧力保持用 ボルト 締付け部	加圧器安全弁ライン	VT-1	代表1台 の25%	3台	VT-1	代表1台 の100% (1台)	-	3V-RC-056	-	-	-	-	-	-	-	3V-RC-056 3V-RC-057 (重大事故等クラス2機器)		
			加圧器遮断し弁ライン	VT-1	代表1台 の25%	2台	VT-1	代表1台 の100% (1台)	-	3V-RC-054A	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-RC-054A-B (重大事故等クラス2機器)	
			加圧器スプレイレイン	VT-1	代表1台 の25%	2台	VT-1	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	3PCV-452B	-	-	-	-	-	-	3PCV-452A-B (重大事故等クラス2機器)	
			加圧器補助スプレイレイン	VT-1	代表1台 の25%	1台	VT-1	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3PCV-451A-B
			抽出及びドレンライン	VT-1	代表1台 の25%	1台	VT-1	代表1台 の100% (1台)	-	3V-RC-017	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-RC-169
			CVC5赤てんライン	VT-1	代表1台 の25%	2台	VT-1	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	-	-	3LCV-451	-	-	-	-	-	3LCV-451 3LCV-452
			余熱除去ポンプ入口ライン	VT-1	代表1台 の25%	4台	VT-1	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-CS-164 3V-CS-166 (重大事故等クラス2機器)
			SIS蓄圧注入ライン	VT-1	代表1台 の25%	8台	VT-1	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3PCV-420 3V-RH-002A-B (重大事故等クラス2機器)
			SIS高温側低圧注入ライン	VT-1	代表1台 の25%	4台	VT-1	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-SI-134A-B-C-D 3V-SI-136A-B-C-D (重大事故等クラス2機器)
			SIS低温側低圧注入ライン	VT-1	代表1台 の25%	4台	VT-1	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-RH-051A-B 3V-SI-082B-C
B12. 50	B-M-2	呼び径 100mmを 超える弁	加圧器安全弁ライン	VT-3	代表1台 の100%	3台	VT-3	代表1台 の100% (1台)	-	3V-RC-055	-	-	-	-	-	-	-	3V-RC-055 3V-RC-057 (重大事故等クラス2機器)		
			余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	代表1台 の100%	4台	VT-3	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	3V-RC-055	-	-	-	-	-	-	3PCV-420 3V-RH-002A-B (重大事故等クラス2機器)	
			SIS蓄圧注入ライン	VT-3	代表1台 の100%	8台	VT-3	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-SI-134A-B-C-D 3V-SI-136A-B-C-D (重大事故等クラス2機器)	
			SIS高温側低圧注入ライン	VT-3	代表1台 の100%	4台	VT-3	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-RH-051A-B 3V-SI-082B-C
			SIS低温側低圧注入ライン	VT-3	代表1台 の100%	4台	VT-3	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-RH-050A-B-C-D 3V-RH-050D (重大事故等クラス2機器)
			加圧器安全弁ライン	VT-3	代表1台 の100%	3台	VT-3	代表1台 の100% (1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-RC-055 3V-RC-057 (重大事故等クラス2機器)
B15. 70	B-P	圧力保持範囲	漏えい 検査時 検査時間 100%	VT-2	100%	1式	VT-2	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-RH-050C (重大事故等クラス2機器)		
			圧力保持範囲	VT-2	100%	1式	VT-2	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-RH-051A (重大事故等クラス2機器)	

※1: NRA文書「原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす製鋼その他の父館の製鋼」(令和元年6月5日原簿技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂線形NRA文書改正という。)の施行及び公開会台「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規規格適用期間にかかる会台」(令和元年9月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版)を2013年追補/2014年追補/2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

6. 弁(2/2)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)										備考				
		検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	2018年 第一回	2019年 第一回	2020年 第一回	2021年 第一回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第一回	2025年 第一回	2026年 第一回		2027年 第一回	2028年 第一回		
F1.41	F-A	支持構造物	加圧器安全弁ライン	検査方法	VT-3	代表1台 の25%	1箇所/ 1台 x3台	VT-3	代表1台 の100% (1箇所)	-	3V-RC- 055 1	-	-	-	-	3V-RC-055,3V-RC-056 3V-RC-057 (重大事故等クラス2機器)		
				検査方法	VT-3	代表1台 の25%	2箇所/ 1台 x2台	VT-3	代表1台 の100% (2箇所)	-	3V-RC- 054B 2	-	-	-	-	-	3V-RC-054A,B (重大事故等クラス2機器)	
				検査方法	VT-3	代表1台 の25%	2箇所/ 1台 x2台	VT-3	代表1台 の100% (2箇所)	-	3PCV- 452A 2	-	-	-	-	-	-	3PCV-452A,B (重大事故等クラス2機器)
				検査方法	VT-3	代表1台 の25%	2箇所/ 1台 x2台	VT-3	代表1台 の100% (2箇所)	-	3PCV- 451B 2	-	-	-	-	-	-	3PCV-451A,B
			加圧器補助スプレイライン	検査方法	VT-3	代表1台 の25%	1箇所/ 1台 x1台	VT-3	代表1台 の100% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	3V-CS- 169 1	3V-CS-169	
			抽出及びびドレンライン	検査方法	VT-3	代表1台 の25%	2箇所/ 1台 x2台	VT-3	代表1台 の100% (2箇所)	-	-	-	-	-	-	-	3LCV- 451 3LCV-452	3LCV-451 3LCV-452
			余熱除去ポンプ入口ライン	検査方法	VT-3	代表1台 の25%	1箇所/ 1台 x4台	VT-3	代表1台 の100% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	3PCV- 420 1	3PCV-420,3PCV-430 3V-RH-002A,B (重大事故等クラス2機器)	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂規程NRA文書改正という。)」の施行及び公開会台「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件」に関する事業者意見の聴取にかかる会台「(令和元年9月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間には以下の通り。
-維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014	検査の対象箇所	大飯発電所 第3号機 検査計画(10力年)										備考			
				2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回				
C1. 10	C-A		中間胴と下部胴の周溶接継手	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積	1箇所/ 1基×4基	検査方法 UT	検査範囲 代表1基の 7.5%	UT	-	-	B 7.5%	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)	
			円錐胴と中間胴の周溶接継手	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積	1箇所/ 1基×4基	検査方法 UT	代表1基の 7.5%	UT	-	-	B 7.5%	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			上部胴と円錐胴の周溶接継手	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積	1箇所/ 1基×4基	検査方法 UT	代表1基の 7.5%	UT	-	-	-	B 7.5%	-	-	-	-
C1. 20	C-A		上部鏡板と上部胴の周溶接継手	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積	1箇所/ 1基×4基	検査方法 UT	代表1基の 7.5%	UT	-	-	-	B 7.5%	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)	
			下部胴と管板の周溶接継手	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積	1箇所/ 1基×4基	検査方法 UT	代表1基の 7.5%	UT	-	-	-	B 7.5%	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
C2. 21	C-B		給水入口管台と容器との溶接継手	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積及び 表面	1箇所/ 1基×4基	検査方法 UT及び PT	代表1基の 50% (1箇所/1基)	UT及び PT	-	-	B 出口側	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			蒸気出口管台と容器との溶接継手	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積	1箇所/ 1基×4基	検査方法 UT	代表1基の 50% (1箇所/1基)	UT	-	-	-	B 出口側	-	-	-	-
C2. 22	C-B		給水入口管台内面の丸みの部分	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積	1箇所/ 1基×4基	検査方法 UT	代表1基の 50% (1箇所/1基)	UT	-	-	-	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			蒸気出口管台内面の丸みの部分	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積	1箇所/ 1基×4基	検査方法 UT	代表1基の 50% (1箇所/1基)	UT	-	-	-	-	-	-	-	-

別表-2(1/14)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014	検査の対象箇所	大飯発電所 第3号機 検査計画(10力年)										備考			
				2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回				
C1. 10	C-A		管側胴と管側フランジとの周溶接継手	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積	1箇所/ 1基×2基	検査方法 UT	代表1基の 7.5%	UT	-	-	A 7.5%	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
			管側鏡板と管側胴との溶接継手	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積	1箇所/ 1基×2基	検査方法 UT	代表1基の 7.5%	UT	-	-	-	A 7.5%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
			管側入口管台と管側胴との溶接継手	検査範囲 代表1基 全長の 7.5%	体積及び 表面	1箇所/ 1基×2基	検査方法 UT及び PT	代表1基の 50% (1箇所/1基)	UT及び PT	-	-	-	A 入口側	-	-	-	-
C4. 10	C-D		全ねじボルト	検査範囲 代表1基 全数の 7.5%	体積	48本/ 1基×2基	検査方法 UT	代表1基の 100% (48本/1基)	UT	-	-	A 16本	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)

2. 余熱除去冷却器

クラス2機器供用期間中検査10年計画

大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)

項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2023年 第1回										備考	
								2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第1回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第1回		
C1.10	C-A	管側胴と管側フランジとの周溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	1箇所/ 1基×2基	UT	代表1基の 7.5%	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
C1.20	C-A	管側鏡板と管側胴との溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	1箇所/ 1基×2基	UT	代表1基の 7.5%	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
C4.10	C-D	全ねじボルト	体積	代表1基 全数の 7.5%	48本/ 1基×2基	UT	代表1基の 100% (48本/1基)	/	-	-	-	-	A 16本	-	-	A 16本	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)

3. 格線容器スプレイ冷却器 維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014

別表-2(2/14)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考	
									2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回		
C3.20	C-C	支持部材取付け溶接継手	高圧注入ポンプ出口ロライン(1)	表面	全数の 7.5%	7箇所	PT	14% (1箇所)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
			高圧注入ポンプ出口連絡ライン	表面	全数の 7.5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			余熱除去ポンプ入口ロライン	表面	全数の 7.5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			余熱除去冷却器出口ロライン	表面	全数の 7.5%	1箇所	PT	100% (1箇所)	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			SIS高温側低圧注入ライン	表面	全数の 7.5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			SIS低温側低圧注入ライン	表面	全数の 7.5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
			格納容器再循環サブ 出口ロライン	表面	全数の 7.5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	(重大事故等クラス2機器)
			主給水ライン	表面	全数の 7.5%	12箇所	PT	8% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			主蒸気ライン	表面	全数の 7.5%	8箇所	PT	12% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			高圧注入ポンプ出口ロライン(2)	表面	全数の 7.5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
燃料取替用水ピット入口ロライン	表面	全数の 7.5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所			

4. 配管(1/5)

別表-2(3/14)

クラス2機器 供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014 検査の対象箇所	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考						
			2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回								
C5. 11	C-F	呼び径100Aを 超える管で公 称厚さが 9.5mmを超える 溶接継手	充てんポンプ出口ライン	4箇所	検査範囲 25% (1箇所)	検査方法 UT及び PT	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
			余熱除去ポンプ入口ライン	67箇所	検査範囲 8% (6箇所)	検査方法 PT	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)	
			余熱除去ポンプ出口ライン	2箇所	検査範囲 50% (1箇所)	検査方法 PT	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
			余熱除去冷却器出口ライン	44箇所	検査範囲 9% (4箇所)	検査方法 UT及び PT	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)
			SIS高温側低圧注入ライン	16箇所	検査範囲 12% (2箇所)	検査方法 UT及び PT	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)
			SIS低温側低圧注入ライン	38箇所	検査範囲 7.8% (3箇所)	検査方法 UT及び PT	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)
			高圧注入ポンプ出口ライン(1)	41箇所	検査範囲 9% (4箇所)	検査方法 UT及び PT	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)
			格納容器再循環サブ 出口ライン	2箇所	検査範囲 全数の 7.5%	検査方法 体積又は 表面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全箇所 格納容器貫通部の ため検査不可 (重大事故等クラス2機器)
			燃料取替用水ピット出口ライン	6箇所	検査範囲 全数の 7.5%	検査方法 体積又は 表面	PT	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
			主給水ライン	46箇所	検査範囲 全数の 7.5%	検査方法 体積及び 表面	UT及び PT	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
C/V漏えい試験空気出口 配管貫通部ライン	1箇所	検査範囲 全数の 7.5%	検査方法 体積又は 表面	PT	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所			
主蒸気ライン	72箇所	検査範囲 全数の 7.5%	検査方法 体積及び 表面	UT及び PT	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)			
タービン動補給水ポンプ 蒸気供給ライン	14箇所	検査範囲 全数の 7.5%	検査方法 体積又は 表面	PT	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所			
高圧注入ポンプ出口ライン(2)	12箇所	検査範囲 全数の 7.5%	検査方法 体積及び 表面	UT及び PT	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)			
燃料取替用水ピット入口ライン	8箇所	検査範囲 全数の 7.5%	検査方法 体積及び 表面	UT及び PT	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所			
格納容器給気ダクトライン	2箇所	検査範囲 全数の 7.5%	検査方法 体積及び 表面	UT及び PT	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所			
格納容器排気ダクトライン	2箇所	検査範囲 全数の 7.5%	検査方法 体積及び 表面	UT及び PT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	免除規定適用除外箇所			

4. 配管(2/5)

別表-2(4/14)

クラス2機器 供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)											備考					
			検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回		2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回
C5. 12	C-F	呼び径100Aを 超える管で公 称厚さが 9.5mmを超える 溶接継手	余熱除去ポンプ入口ライン	体積又は 表面	全数の 7.5%	6箇所	PT	16% (1箇所)	-	1	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
			燃料取替用水ピット出口ライン	体積又は 表面	全数の 7.5%	4箇所	PT	25% (1箇所)	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
C5. 21	C-F	呼び径50A以 上100A以下の 管で公称厚さ が5mmを超え る溶接継手	主蒸気ライン	体積及び 表面	全数の 7.5%	64箇所	UT及び PT	7.8% (5箇所)	-	1	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)	
			高圧注入ポンプ出口ライン(1)	表面	全数の 7.5%	91箇所	PT	7.6% (7箇所)	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
C5. 30	C-F	ソケット 溶接継手	封水注入ライン	表面	全数の 7.5%	12箇所	PT	8% (1箇所)	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
			高圧注入ポンプ出口連絡ライン	表面	全数の 7.5%	17箇所	PT	11% (2箇所)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
C5. 41	C-F	呼び径50Aを 超える母管と 管台及び母管 と管台との溶 接継手	SIS低温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 7.5%	40箇所	PT	10% (4箇所)	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
			SIS高温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 7.5%	36箇所	PT	8% (3箇所)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
C5. 30	C-F	ソケット 溶接継手	高圧注入ポンプ ミニマムフローライン	表面	全数の 7.5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所
			封水注入ライン	表面	全数の 7.5%	19箇所	PT	10% (2箇所)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
C5. 30	C-F	ソケット 溶接継手	SIS低温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 7.5%	20箇所	PT	10% (2箇所)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
			SIS高温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 7.5%	20箇所	PT	10% (2箇所)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
C5. 41	C-F	呼び径50Aを 超える母管と 管台及び母管 と管台との溶 接継手	高圧注入ポンプ ミニマムフローライン	表面	全数の 7.5%	14箇所	PT	14% (2箇所)	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所
			高圧注入ポンプ出口ライン(1)	表面	全数の 7.5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)

4. 配管(3/5)

別表-2(5/14)

クラス2機器 供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考								
			検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回		2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回		
F1.21	F-A	支持構造物	充てんポンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	1箇所	VT-3	100% (1箇所)	1	-								(重大事故等クラス2機器)			
			余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	全数の 7.5%	47箇所	VT-3	8% (4箇所)	1	-	1					1			(重大事故等クラス2機器)		
			余熱除去ポンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	15箇所	VT-3	13% (2箇所)	1	-			1							(重大事故等クラス2機器)	
			余熱除去冷却器出入口ライン	VT-3	全数の 7.5%	20箇所	VT-3	10% (2箇所)	1	-								1		(重大事故等クラス2機器)	
			余熱除去冷却器出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	43箇所	VT-3	9% (4箇所)	1	-	1						1			(重大事故等クラス2機器)	
			余熱除去冷却器バイパスライン	VT-3	全数の 7.5%	4箇所	VT-3	25% (1箇所)		-	1										
			SIS高温側低圧注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	2箇所	VT-3	50% (1箇所)		-		1									
			SIS低温側低圧注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	8箇所	VT-3	12% (1箇所)		-							1			(重大事故等クラス2機器)	
			高圧注入ポンプ出口ライン(1)	VT-3	全数の 7.5%	63箇所	VT-3	7.5% (5箇所)	1	-		1	1				1	1		(重大事故等クラス2機器)	
			封水注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	23箇所	VT-3	8% (2箇所)	1	-						1					
			高圧注入ポンプ出口連絡ライン	VT-3	全数の 7.5%	11箇所	VT-3	9% (1箇所)		-			1								(重大事故等クラス2機器)
			SIS高温側高圧補助注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	14箇所	VT-3	14% (2箇所)	1	-							1				
			SIS低温側高圧補助注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	44箇所	VT-3	9% (4箇所)	1	-			1						1		(重大事故等クラス2機器)
			格納容器再循環サンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	16箇所	VT-3	12% (2箇所)	1	-							1				(重大事故等クラス2機器)
燃料取替用水ピット出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	8箇所	VT-3	12% (1箇所)	1	-											(重大事故等クラス2機器)			

4. 配管(4/5)

別表-2(6/14)

クラス2機器 供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考								
			2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回										
F1.21	F-A	支持構造物	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	備考		
			1次冷却材ポンプ戻り母管ライン	VT-3	全数の 7.5%	1箇所	VT-3	100% (1箇所)	/	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所	
			格納容器スプレイポンプ 入ロライン	VT-3	全数の 7.5%	14箇所	VT-3	14% (2箇所)	/	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			格納容器スプレイポンプ フルフローライン	VT-3	全数の 7.5%	2箇所	VT-3	50% (1箇所)	/	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所
			格納容器スプレイポンプ 出ロライン	VT-3	全数の 7.5%	4箇所	VT-3	25% (1箇所)	/	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			格納容器スプレイ冷却器 入ロライン	VT-3	全数の 7.5%	2箇所	VT-3	50% (1箇所)	/	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			格納容器スプレイ冷却器 出ロライン	VT-3	全数の 7.5%	22箇所	VT-3	9% (2箇所)	/	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			格納容器減圧パーズライン	VT-3	全数の 7.5%	1箇所	VT-3	100% (1箇所)	/	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所
			主給水ライン	VT-3	全数の 7.5%	74箇所	VT-3	8% (6箇所)	/	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			主蒸気ライン	VT-3	全数の 7.5%	50箇所	VT-3	8% (4箇所)	/	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			タービン動補給水ポンプ 蒸気供給ライン	VT-3	全数の 7.5%	7箇所	VT-3	14% (1箇所)	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	免除規定適用除外箇所
			燃料取替用水ピット連絡ライン	VT-3	全数の 7.5%	1箇所	VT-3	100% (1箇所)	/	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所
			高圧注入ポンプ入ロライン	VT-3	全数の 7.5%	27箇所	VT-3	11% (3箇所)	/	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
			高圧注入ポンプ出ロライン(2)	VT-3	全数の 7.5%	10箇所	VT-3	10% (1箇所)	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
燃料取替用水ピット入ロライン	VT-3	全数の 7.5%	4箇所	VT-3	25% (1箇所)	/	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所			
高圧注入ポンプ ミニマムフローライン	VT-3	全数の 7.5%	12箇所	VT-3	8% (1箇所)	/	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	免除規定適用除外箇所			

4. 配管(5/5)

別表-2(7/14)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014 検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
								2023年 第1回	2024年 第2回	2025年 第2回	2026年 第2回	2027年 第1回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第1回		
C3. 30	C-C	ポンプ支持部材取付け溶接継手	表面	全数の7.5%	16箇所/1台×2台	PT	全数の9% (3箇所)	-	-	A 1箇所	-	-	-	-	-	A 1箇所	-	(重大事故等クラス2機器)
C4. 30	C-D	ケーシングボルト	体積	代表1台の7.5%	16本/1台×1台	UT	代表1台の12% (2本/1台)	-	-	A 1本	-	-	-	-	-	A 1本	-	(重大事故等クラス2機器)
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台の7.5%	1箇所/1台×2台	PT	代表1台の100% (1箇所/1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	A 100%	-	(重大事故等クラス2機器)
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/1台×2台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	A 100%	-	(重大事故等クラス2機器)

別表-2(8/14)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014 検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
								2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第1回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第1回		
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	全数の7.5%	1箇所/1台	VT-3	100% (1箇所/1台)	-	-	100%	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014 検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
								2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第1回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第1回		
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台の7.5%	2箇所/1台×2台	PT	代表1台の50% (1箇所/1台)	-	-	B 1箇所	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/1台×2台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	B 100%	-	(重大事故等クラス2機器)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表-2(9/14)

項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014										備考				
			検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回		2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回
C3. 30	C-C	ポンプ支持部材取付け溶接継手	表面	全数の7.5%	16箇所/ 1台×2台	PT	全数の9% (3箇所)	/	-		B 1箇所	-		B 1箇所			免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
C4. 30	C-D	ケーシングボルト	体積	代表1台 の7.5%	16本/ 1台×2台	UT	代表1台の 12% (2本/1台)	/	-			-		B 1本			免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
C5. 30	C-F	バランスフランジ及びバランスタングの 耐圧部分の溶接継手	表面	全数の7.5%	2箇所/ 1台×2台	PT	全数の25% (1箇所)	/	-			-		B 1箇所			免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
C6. 10	C-G	外部ケーシング、ケーシングカバー及び バランス管の溶接継手	表面	代表1台 の7.5%	4箇所/ 1台×2台	PT	代表1台の 25% (1箇所/1台)	/	-			-		B 1箇所			免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所/1台)	/	-			-			B 100%		免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)

項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014										備考				
			検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回		2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台 の7.5%	2箇所/ 1台×2台	PT	代表1台の 50% (1箇所/1台)	/	-					A 1箇所			免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所/1台)	/	-			-			A 100%		免除規定適用除外箇所 (重大事故等クラス2機器)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考						
			検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回		2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	
C6.20	C-G	本体の溶接継手	検査の対象箇所	表面	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×4台	PT	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	-	3V-SI-015B	-	-	-	-	3V-SI-015A・B	3V-SI-016A・B		
				表面	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×2台	PT	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	-	3V-SI-014B	-	-	-	-	-	3V-SI-014A・B	免除規定適用除外箇所	
				VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)	/	3HCV-603 2	-	-	-	-	-	-	-	3HCV-603.3HCV-613 (重大事故等クラス2機器)	免除規定適用除外箇所
				VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)	/	-	-	-	-	-	3V-RH-043A 2	-	-	3V-RH-043A・B (重大事故等クラス2機器)	免除規定適用除外箇所
				VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)	/	3FCV-614 2	-	-	-	-	-	-	-	3FCV-604.3FCV-614	免除規定適用除外箇所
				VT-3	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	3V-SI-026A 1	-	-	-	-	-	-	-	3V-SI-026A・B	免除規定適用除外箇所
				VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)	/	-	-	-	-	-	-	3V-SI-093A 2	-	3V-SI-093A・B (重大事故等クラス2機器)	免除規定適用除外箇所
				VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)	/	/	-	-	-	-	-	3V-ES-164B 2	-	3V-ES-164A・B	免除規定適用除外箇所
				VT-3	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	3V-CC-198D 1	-	-	-	3V-CC-198D 1	-	-	-	3V-CG-198C・D	免除規定適用除外箇所
				VT-3	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×1台	VT-3	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	3V-CC-427 1	-	-	-	3V-CC-427 1	-	-	-	3V-CC-427	免除規定適用除外箇所
F1.43	F-A	支持構造物	検査の対象箇所	VT-3	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	-	3V-CP-024A 1	-	-	-	-	3V-CP-024A・B	免除規定適用除外箇所		
				VT-3	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×4台	VT-3	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	-	-	-	-	3V-FW-520B 1	-	3V-FW-520A・B・C・D	免除規定適用除外箇所		
				VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/ 1台×4台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)	/	-	-	-	-	-	3V-MS-523B 2	-	3V-MS-523A・B・C・D	免除規定適用除外箇所	
				VT-3	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	-	-	-	-	-	3V-MS-575B 1	-	3V-MS-575A・B	免除規定適用除外箇所	
				VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)	/	-	-	-	-	-	-	3V-SI-002A 2	-	3V-SI-002A・B	免除規定適用除外箇所
				VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)	/	-	-	-	-	-	-	3V-SI-002B 2	-	3V-SI-002A・B (重大事故等クラス2機器)	免除規定適用除外箇所
				VT-3	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×4台	VT-3	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-SI-015B 1	3V-SI-015A・B
				VT-3	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×4台	VT-3	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-SI-016A・B
				VT-3	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×4台	VT-3	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3V-SI-016A・B
				VT-3	代表1台の7.5%	1箇所/ 1台×4台	VT-3	代表1台の100% (1箇所/1台)	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	免除規定適用除外箇所

10. クラス2弁

別表-2(10/14)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

11. クラス2機器漏えい検査(1/4)		維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014		検査の対象箇所		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考	
項目番号	カテゴリ	系統名	ライン名	運転圧力又は最高使用圧力(MPa)	検査圧力(MPa)	検査方法	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第1回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第1回	備考
C7.30 C7.70	C-H	1次冷却材系統	加圧器逃がしタンクPMW供給ライン	0.98	0.98	VT-2	-	-	○			-				-	
			抽出ライン(1)	15.41	15.41	VT-2	●	-				-				-	RCS漏えい検査時実施
			抽出ライン(2)	2.06	2.06	VT-2	●	-				-				-	
			抽出ライン(3)	0.34	0.34	VT-2	-	-	○			-				-	
			体積制御タンク入ロライン	0.27	0.27	VT-2	●	-				-				-	
			体積制御タンク及び出入ロライン	0.11	0.11	VT-2	-	-	○			-				-	一部気圧検査
			A充てんポンプ出口ライン及び密封水注入ライン	18.0	18.0	VT-2	-	-	○			-				-	
			B充てんポンプ出口ライン	18.0	18.0	VT-2	●	-				-				-	
			C充てんポンプ出口ライン	17.36	17.36	VT-2	-	-	○			-				-	
			ほう酸混合器及び出入ロライン	0.11	0.11	VT-2	-	-	○			-				-	
			ほう酸ポンプ及び充てんポンプ連絡ライン	0.11	0.11	VT-2	-	-	○			-				-	
			Aほう酸ポンプ入ロライン	水張り	水張り	VT-2	●	-				-				-	一部気圧検査
			Bほう酸ポンプ入ロライン	水張り	水張り	VT-2	●	-				-				-	一部気圧検査
			Aほう酸ポンプ出口ライン	0.87	0.87	VT-2	●	-				-				-	
			Bほう酸ポンプ出口ライン	0.87	0.87	VT-2	●	-				-				-	
			A、B高圧注入ポンプ入ロライン	0.19	0.19	VT-2	-	-	○			-				-	
			A高圧注入ポンプ出口ライン(1)	10.01	10.01	VT-2	-	-	○			-				-	
			A高圧注入ポンプ出口ライン(2)	10.01	10.01	VT-2	-	-				-	○			-	RCS漏えい検査時実施

別表-2(11/14)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

11. クラス2機器漏えい検査(2/4)		維持規格 JSME S N A1-2012/2013/2014		大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考				
項目番号	カテゴリ	系統名	検査の対象箇所 ライン名	運転圧力又は 最高使用 圧力(MPa)	検査圧力 (MPa)	検査方法	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2028年	2030年	2031年				
							第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回	第24回		第25回	第一回	
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	安全注入系統	B 高圧注入ポンプ出口ライン(1)	10. 01	10. 01	VT-2	●	-	-	-	-	-	-	-	-			
			B 高圧注入ポンプ出口ライン(2)	10. 01	10. 01	VT-2	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	RCS漏えい検査時実施	
			格納容器再循環サブ出口ライン	水張り	水張り	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	ガードベンプ内包部分は 検査不可
			蓄圧タンク及びび出入ロライン	4. 42	4. 42	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	一部気圧検査
			燃料取替用水ピット出入ロライン	水張り	水張り	VT-2	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			蓄圧タンク窒素充てんライン	4. 42	4. 42	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	
			蓄圧タンク注入ライン	10. 01	10. 01	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	余熱除去系統	A 余熱除去ポンプ入口ロライン	2. 75	2. 75	VT-2	-	-	○	-	-	-	-	-	-			
			B 余熱除去ポンプ入口ロライン	2. 75	2. 75	VT-2	-	-	○	-	-	-	-	-	-			
			A 余熱除去ポンプ出口ロライン	3. 78	3. 78	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-		
			B 余熱除去ポンプ出口ロライン	3. 78	3. 78	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-		
			A 格納容器スプレイポンプ入口ロライン	0. 19	0. 19	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	気圧検査
			B 格納容器スプレイポンプ入口ロライン	0. 19	0. 19	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	格納容器スプレイ系 統	A 格納容器スプレイポンプ出口ロライン(1)	1. 97	1. 97	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-			
			A 格納容器スプレイポンプ出口ロライン(2)	1. 97	1. 97	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-		
			B 格納容器スプレイポンプ出口ロライン(1)	1. 97	1. 97	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-		
			B 格納容器スプレイポンプ出口ロライン(2)	1. 97	1. 97	VT-2	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	気圧検査	
			よう素除去薬品タンク及びび出入ロライン	0. 03	0. 03	VT-2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	一部気圧検査
			A よう素除去薬品タンク出口ロライン	水張り	水張り	VT-2	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	
B よう素除去薬品タンク出口ロライン	水張り	水張り	VT-2	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-				

別表-2(12/14)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

11. クラス2機器漏えい検査(3/4)		維持規程 JSME S NA1-2012/2013/2014		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考														
項目番号	カテゴリ	系統名	検査の対象箇所 ライン名	運転圧力は 最高使用 圧力(MPa)	検査圧力 (MPa)	検査方法	2022年		2023年		2024年		2025年		2026年		2027年		2028年		2029年		2030年		備考			
							第19回	第1回	第19回	第1回	第20回	第1回	第20回	第21回	第1回	第21回	第22回	第1回	第22回	第23回	第1回	第23回	第24回	第1回		第24回	第25回	第1回
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	C-H	格納容器スプレイス 統	PH調整剤タンク及び出入ロライン	0.03	0.03	VT-2																			一部気圧検査			
C7.10 C7.30 C7.70	C-H	主蒸気系統	A蒸気発生器蒸気出口ロライン	4.62	4.62	VT-2										○									RCS漏えい検査時実施			
			B蒸気発生器蒸気出口ロライン	4.62	4.62	VT-2											○									RCS漏えい検査時実施		
			C蒸気発生器蒸気出口ロライン	4.62	4.62	VT-2												○									RCS漏えい検査時実施	
			D蒸気発生器蒸気出口ロライン	4.62	4.62	VT-2												○									RCS漏えい検査時実施	
C7.30 C7.70	C-H	主給水系統	A蒸気発生器給水入口ロライン	4.62	4.62	VT-2										○										RCS漏えい検査時実施		
			B蒸気発生器給水入口ロライン	4.62	4.62	VT-2											○									RCS漏えい検査時実施		
			C蒸気発生器給水入口ロライン	4.62	4.62	VT-2												○									RCS漏えい検査時実施	
			D蒸気発生器給水入口ロライン	4.62	4.62	VT-2												○									RCS漏えい検査時実施	
C7.30 C7.70	C-H	蒸気発生器ブローダ ウン系統	A蒸気発生器ブローダウンロライン	4.62	4.62	VT-2																				RCS漏えい検査時実施		
			B蒸気発生器ブローダウンロライン	4.62	4.62	VT-2																					RCS漏えい検査時実施	
			C蒸気発生器ブローダウンロライン	4.62	4.62	VT-2																						RCS漏えい検査時実施
			D蒸気発生器ブローダウンロライン	4.62	4.62	VT-2																						RCS漏えい検査時実施
C7.30 C7.70	C-H	制御用空気系統	A制御用空気ライン	0.74	0.74	VT-2																						
			B制御用空気ライン	0.74	0.74	VT-2																						
C7.30 C7.70	C-H	所内用空気系統	所内用空気ライン	0.7	0.7	VT-2																						

別表-2(13/14)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	系統名	検査の対象箇所		運転圧力又は最高使用圧力(MPa)	検査圧力(MPa)	検査方法	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考						
			ライン名	ライン名				2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回							
C7.30 C7.70	C-H	試料採取系統	加圧器液相部、気相部サンプル及び1次冷却料サンプルライン		15.41	15.41	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	燃料取替用水系統	原子炉キャビティ浄化ライン(1)		水張り	水張り	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	廃棄物処理系統	原子炉キャビティ浄化ライン(2)		水張り	水張り	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	1次系洗浄水系統	格納容器冷却材ドレンポンプ出口ライン		0.6	0.6	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	原子炉補機冷却水系統	格納容器サンプルポンプ出口ライン		0.2	0.2	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	1次系洗浄水系統	1次系洗浄水ライン		0.7	0.7	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	原子炉補機冷却水系統	CRDM冷却ユニット他冷却水入口ライン		0.2	0.2	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	原子炉補機冷却水系統	CRDM冷却ユニット他冷却水出口ライン		0.2	0.2	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	化学体積制御系統	RCP冷却水入口ライン		0.7	0.7	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	化学体積制御系統	RCP冷却水出口ライン		0.2	0.2	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	消防水系統	封水戻りライン		0.20	0.20	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C7.30 C7.70	C-H	消防水系統	消防水ライン		0.6	0.6	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

別表-2(14/14)

クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-3(1/7)

1. 余熱除去冷却器(胴側)		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考							
項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回		2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回
D1. 10	D-A		胴と当板との溶接継手	VT-1	代表1基の 7.5%	2箇所 /1基 x 2基	VT-1	代表1基の 100% (2箇所)	A	-				-					-
F1. 44	F-A		支持脚	VT-3	代表1基の 7.5%	2箇所 /1基 x 2基	VT-3	代表1基の 100% (2箇所)	A	-				-					-

2. 格納容器スプレイ冷却器(胴側)		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考							
項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回		2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回
D1. 10	D-A		胴と当板との溶接継手	VT-1	代表1基の 7.5%	2箇所 /1基 x 2基	VT-1	代表1基の 100% (2箇所)		-		A			-				-
F1. 44	F-A		支持脚	VT-3	代表1基の 7.5%	2箇所 /1基 x 2基	VT-3	代表1基の 100% (2箇所)		-		A			-				-

クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-3(2/7)

3. 配管

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014	検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考		
			配管の支持部材 取付け溶接継手	原子炉補機冷却 水系統						2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回			
D1.20	D-A				VT-1	全数の 7.5%	58箇所	VT-1	8% (5箇所)	1	-			2	-		1		1			-
F1.31	F-A				VT-3	全数の 7.5%	401箇所	VT-3	7.7% (31箇所)	6	-			5	-		5		5			-

4. 弁

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014	検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考		
			支持構造物	原子炉補機冷却 水系統						2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回			
F1.31	F-A				VT-3	全数の 7.5%	1箇所/ 1台×2台 2箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の 100% (1箇所) 代表1台の 100% (2箇所)		-				-		1					-

クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-3(3/7)

5. クラス3機器漏えい検査

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014		大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)												備考		
		検査の対象箇所		運転圧力 又は 最高使用 圧力 (MPa)	検査圧力 (MPa)	検査方法	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年		2031年	
		系統名	ライン名				第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回	第24回	第25回		第一回	
D2. 10 D2. 30	D-B	原子炉補機冷却水系	A, B原子炉補機冷却水ポンプ 入ロライン	0.34	0.34	VT-2		-	○		-				-			
			C, D原子炉補機冷却水ポンプ 入ロライン	0.34	0.34	VT-2		-		○		-				-		
D2. 10 D2. 30	D-B	燃料ピット冷却浄化系	原子炉補機冷却水サージタンク 及び出入ロライン	0.02	0.02	VT-2	●	-				-				-	一部気圧検査	
			A, B原子炉補機冷却水ポンプ 出ロライン	0.96	0.96	VT-2		-			○					-		
			C, D原子炉補機冷却水ポンプ 出ロライン	0.96	0.96	VT-2		-			○						-	
			使用済燃料ピットポンプ入ロライ ン	0.18	0.18	VT-2	●	-									-	
D2. 10 D2. 30	D-B	燃料ピット冷却浄化系	A使用済燃料ピットポンプ出ロラ イン	0.76	0.76	VT-2		-	○		-					-		
			B使用済燃料ピットポンプ出ロラ イン	0.76	0.76	VT-2		-		○		-					-	
D2. 30	D-B	制御用空気系統	A制御用空気出ロライン	0.64	0.64	VT-2		-									-	気圧検査
			B制御用空気出ロライン	0.64	0.64	VT-2		-			○							-

クラス3機器供用期間中検査10年計画

6. 原子炉補機冷却水冷却器

別表-3(4/7)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大阪発電所 第3号機 検査計画(10分年)										備考	
									2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回		
D1.10	D-A		胴と当板との溶接継手	VT-1	代表1基の7.5% (3箇所)	3箇所/1基 ×2基	VT-1	代表1基の100% (3箇所)	-	-				A					-	
F1.44	F-A		支持脚	VT-3	代表1基の7.5% (3箇所)	3箇所/1基 ×2基	VT-3	代表1基の100% (3箇所)	-	-				A					-	

7. 海水ストレーナ

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大阪発電所 第3号機 検査計画(10分年)										備考	
									2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回		
D1.10	D-A		鍍板とスカートとの溶接継手	VT-1	代表1基の7.5% (1箇所)	1箇所/1基 ×4基	VT-1	代表1基の100% (1箇所)	-	-			A						-	
F1.44	F-A		支持構造物(スカート)	VT-3	代表1基の7.5% (1箇所)	1箇所/1基 ×4基	VT-3	代表1基の100% (1箇所)	-	-			A						-	

8. 非常用ディーゼル発電機渣水冷却器

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大阪発電所 第3号機 検査計画(10分年)										備考		
									2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回			
D1.10	D-A		胴と当板脚との溶接継手	VT-1	代表1基の7.5% (2箇所)	2箇所/1基 ×2基	VT-1	代表1基の100% (2箇所)	-	-									A		
F1.44	F-A		支持脚	VT-3	代表1基の7.5% (2箇所)	2箇所/1基 ×2基	VT-3	代表1基の100% (2箇所)	-	-									A		

クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-3(5/7)

9. 非常用ディーゼル発電機潤滑油冷却器

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)												備考			
		検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回		2030年 第25回	2031年 第一回	
D1.10	D-A	胴と当板との溶接継手	VT-1	代表1基 の7.5%	2箇所/1基 ×2基	VT-1	代表1基 の100% (2箇所)		-				-					A	-
F1.44	F-A	支持脚	VT-3	代表1基 の7.5%	2箇所/1基 ×2基	VT-3	代表1基 の100% (2箇所)		-				-					A	-

10. 配管

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)												備考			
		検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回		2030年 第25回	2031年 第一回	
D1.20	D-A	配管の支持 部材取付け 溶接継手	VT-1	全数 の7.5%	78箇所	VT-1	7.6% (6箇所)		-	2		1		-		1		1	-
F1.31	F-A	支持構造物	VT-3	全数 の7.5%	434 箇所	VT-3	7.8% (34箇所)		-	3		3		-		2		3	-
										6		6		-		2		6	-

クラス3機器供用期間中検査10年計画

11. 弁

別表-3(6/7)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10年間)										備考		
									2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回			
F1.31	F-A		支持構造物	VT-3	全数の7.5%	3箇所	RH: 3	VT-3	33% (1箇所)		-						1 (V- PMPW- 501)			-	

12. 原子炉補機冷却水ポンプ

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10年間)										備考				
									2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回					
F1.31	F-A		ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%	4箇所/1台 ×4台	VT-3	代表1台の100% (4箇所)		-												A	-

クラス3機器供用期間中検査10年計画

13. クラス3機器漏えい検査

別表-3(7/7)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014		検査の対象箇所	検査方法	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	備考
		系統名	ライン名													
D2.10 D2.30	D-B	原子炉補機 冷却海水系	A/B原子炉補機冷却海水ポンプ出口ライン C原子炉補機冷却海水ポンプ出口ライン	0.44 0.44	VT-2 VT-2	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- ○	- -	- -	- -
D2.10 D2.30	D-B	非常用ディーゼル発電機 系統	A-非常用ディーゼル発電機 冷却水ライン B-非常用ディーゼル発電機 冷却水ライン	0.44 0.44	VT-2 VT-2	- -	- -	- -	- -	- ○	- -	- -	- ○	- -	- -	- -
D2.10 D2.30	D-B	非常用ディーゼル発電機 系統	A-非常用ディーゼル発電機 起動空気ライン B-非常用ディーゼル発電機 起動空気ライン	2.501 2.501	VT-2 VT-2	- -	- -	- -	○ ○	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

クラス1機器Ni基合金使用部位特別検査10年計画

別表-4(1/1)

機器名	NRA文書(原規技発第1408063号) ※1※2		大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考		
	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	検査頻度	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第19回	2024年 第20回	2025年 第21回		2026年 第22回	2027年 第23回
原子炉 容器	原子炉容器底部の表面	-	-	100%/5年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	計装用貫通部溶接継手	BMV	58箇所		-	●						○			

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、令和元年亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開台「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、令和元年亀裂解釈NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。

※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月6日)及び原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日): 2020年4月1日(第18保全サイクル)~2021年7月20日

ま、令和3年亀裂解釈NRA文書改正を2021年7月21日より適用する。

※3: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和3年7月21日原規技発第2107219号)の改正版(以下、令和3年亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行を踏まえ、令和3年亀裂解釈NRA文書改正を2021年7月21日(第19保全サイクル)~

クラス2管（原子炉格納容器内）特別検査10年計画

別表-5(1/1)

項目番号	カテゴリ	NRA文書 原規技発第1408063号 ※1 ※2										大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考				
		検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2010年 第一回	2011年 第15回	2012年 第15回	2013年	2014年	2015年 第16回	2016年	2017年	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第18回	2022年 第19回	2023年 第一回		2024年 第20回			
-	-	配管	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		抽出水ライン(3B)	体積	25%	19箇所	UT	5	1				2														1
		充てんライン(3B)	体積	25%	35箇所	UT	9	2				3														2
		再生熱交換器連絡管	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		抽出水ライン連絡管(3B)	体積	25%	12箇所	UT	3	-				1														
		充てんライン連絡管(3B)	体積	25%	12箇所	UT	3	-			1															1

※1: NRA文書「美用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」(令和元年6月5日原規技発第0906051号)の改正版(以下、令和元年亀裂検出NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業意見の聴取にかかわる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、令和元年亀裂検出NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。

*亀裂検出NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日); 2020年4月1日(第18回至サイクル); 2021年7月20日

※2: NRA文書「美用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」(令和3年7月21日原規技発第2107219号)の改正版(以下、令和3年亀裂検出NRA文書改正という。)の施行を踏まえ、令和3年亀裂検出NRA文書改正を2021年7月21日より適用する。

*亀裂検出NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び原規技発第2107219号(改正 令和3年7月21日); 2021年7月21日(第19回至サイクル)～

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

1. 配管(1/2)		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考										
項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年 2018年 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年 2024年 2025年 2026年													
									第16回	第17回	第18回	第19回	第1回	第1回	第20回	第21回	第22回					
C3. 20	C-C	支持部材取付け溶接継手	原子炉補機冷却水ポンプ入口ライン	表面	全数の7.5%	1箇所	PT	100% (1箇所)		1												
			原子炉補機冷却水ポンプ出口ライン	表面	全数の7.5%	1箇所	PT	100% (1箇所)			1											
			主蒸気大気放出ライン	表面	全数の7.5%	4箇所	PT	25% (1箇所)							1							
			タービン動補給水ポンプ出口ライン	表面	全数の7.5%	1箇所	PT	100% (1箇所)														1
			タービン動補給水ポンプ蒸気供給ライン	表面	全数の7.5%	1箇所	PT	100% (1箇所)														1
C5. 11	C-F	呼び径100Aを超える管で公称厚さが9.5mmを超える溶接継手	原子炉補機冷却水戻り母管入口ライン	体積又は表面	全数の7.5%	11箇所	PT	9% (1箇所)				1										
			原子炉補機冷却水戻り母管	体積又は表面	全数の7.5%	14箇所	PT	14% (2箇所)														
			主蒸気大気放出ライン	体積及び表面	全数の7.5%	8箇所	UT及びPT	12% (1箇所)													1	
			電動補給水ポンプ出口ライン	体積又は表面	全数の7.5%	34箇所	PT	8% (3箇所)														1
			タービン動補給水ポンプ出口ライン	体積及び表面	全数の7.5%	16箇所	UT及びPT	12% (2箇所)														1
C5. 12	C-F		補助給水ポンプバルブエリア入口ライン	体積又は表面	全数の7.5%	10箇所	PT	10% (1箇所)													1	
			タービン動補給水ポンプ蒸気供給ライン	体積又は表面	全数の7.5%	16箇所	PT	12% (2箇所)														1
			原子炉補機冷却水ポンプ入口ライン	体積又は表面	全数の7.5%	16箇所	PT	12% (2箇所)														1
			原子炉補機冷却水ポンプ出口ライン	体積又は表面	全数の7.5%	16箇所	PT	12% (2箇所)														1
			原子炉補機冷却水戻り母管	体積又は表面	全数の7.5%	18箇所	PT	11% (2箇所)														1

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の発見(以下、亀裂検出NRA文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)」の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

1. 配管(2/2)		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考						
項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1																
検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回		
F1.21	F-A 支持構造物	原子炉補機冷却水ポンプ 入口ライン	VT-3	全数の 7.5%	19箇所	VT-3	10% (2箇所)	-	1		1		-					
		原子炉補機冷却水ポンプ 出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	10箇所	VT-3	10% (1箇所)			1			-					
		格納容器再循環ユニット 入口ライン	VT-3	全数の 7.5%	54箇所	VT-3	9% (5箇所)			1		1		-	1			
		格納容器再循環ユニット 出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	82箇所	VT-3	8% (7箇所)			2	1		1		1			
		RHR-CSS連絡ライン	VT-3	全数の 7.5%	3箇所	VT-3	14% (1箇所)					1		-				
		恒設代替低圧注水ポンプ 出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	35箇所	VT-3	7.5% (3箇所)			1		1		-	1			
		可搬式代替低圧海水注入 ライン	VT-3	全数の 7.5%	2箇所	VT-3	50% (1箇所)							-	1			
		主蒸気大気放出口	VT-3	全数の 7.5%	4箇所	VT-3	25% (1箇所)				1			-				
		電動補助給水ポンプ 出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	20箇所	VT-3	10% (2箇所)							-			1	免除規定適用除外箇所
		タービン動補助給水ポンプ 出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	12箇所	VT-3	8% (1箇所)							-			1	免除規定適用除外箇所
補助給水ポンプバルブエリア 入口ライン	VT-3	全数の 7.5%	4箇所	VT-3	25% (1箇所)							-			1	免除規定適用除外箇所		
格納容器再循環ユニット 海水放出口	VT-3	全数の 7.5%	38箇所	VT-3	7.8% (3箇所)							-			1	免除規定適用除外箇所		
タービン動補助給水ポンプ 蒸気供給ライン	VT-3	全数の 7.5%	3箇所	VT-3	33% (1箇所)							-			1	免除規定適用除外箇所		

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす鳥裂その他の脆裂(以下、亀裂解NRA文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2014年追補/2013年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表-8(3/35)

2. 恒設代替低圧注水ポンプ		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考					
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年 第16回	2018年 第17回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第18回	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%	2箇所/ 1台×1台	VT-3	代表1台の100% (2箇所/1台)		-					-		100%	

3. 電動補助給水ポンプ		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考					
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年 第16回	2018年 第17回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第18回	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台の7.5%	2箇所/ 1台×2台	PT	代表1台の50% (1箇所/1台)							-			A 1箇所
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%	4箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の100% (4箇所/1台)							-			A 100%

4. タービン動補助給水ポンプ		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考					
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年 第16回	2018年 第17回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第18回	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台の7.5%	4箇所/ 1台×1台	PT	代表1台の25% (1箇所/1台)							-			1箇所
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%	4箇所/ 1台×1台	VT-3	代表1台の100% (4箇所/1台)							-			100%

※1: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検出NRA文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

-維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表-8(4/35)

5. 弁

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考	
									2017年 第16回	2018年 第17回	2019年 第18回	2020年 第19回	2021年 第20回	2022年 第21回	2023年 第22回	2024年 第23回	2025年 第24回	2026年 第25回		
F1.43	F-A	支持構造物	格納容器再循環ユニット 出口ライン	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/ 1台×1台 1箇所/ 1台×1台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所/1台)	-	3TCV- 2392A 2									3TCV-2392A	
				VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/ 1台×1台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所/1台)	-											3V-RH-061
				VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/ 1台×4台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所/1台)	-								3PCV- 3610 2			3PCV- 3610.3620. 3630.3640.
				VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/ 1台×2台	VT-3	代表1台の 100% (1箇所/1台)	-											

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原相持株券第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	系統名	検査の対象箇所 ライン名	SA時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値)	検査圧力 (MPa)	検査方法	大飯発電所 第3号機 検査計画(10年)										備考			
							2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第1回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回				
C7.30 C7.70	C-H	制御用空気系統	A制御用空気ライン	0.98	0.98	VT-2												○	気圧検査	
			B制御用空気ライン	0.98	0.98	VT-2													○	気圧検査
C7.30 C7.50 C7.70	C-H	低圧注水系統	恒設代替低圧注水ポンプ入口ライン	0	0	VT-2												○		
			恒設代替低圧注水ポンプ出口ライン	2.1	2.1	VT-2					●									
			低圧注水ラインとのAMライン	4.5	4.5	VT-2													○	
			可搬式代替低圧注水ポンプ出口ライン	1.55	1.55	VT-2						●								
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	C-H	原子炉補機冷却水系統	A. B原子炉補機冷却水ポンプ入口ライン	1.4	1.4	VT-2												○		
			C. D原子炉補機冷却水ポンプ入口ライン	1.4	1.4	VT-2												○		
			原子炉補機冷却水サージタンク及び出入ライン	0.34	0.34	VT-2												●		
			原子炉補機冷却水サージタンク窒素供給ライン	0.34	0.34	VT-2														○
			A. D格納容器再循環ユニット冷却ライン	1.4	1.4	VT-2														○
			A. D格納容器再循環ユニット冷却水放出ライン	1.4	1.4	VT-2														○
			格納容器水素ガス試料冷却ライン	1.4	1.4	VT-2														○
			A. B原子炉補機冷却水ポンプ出口ライン	1.4	1.4	VT-2														○
C. D原子炉補機冷却水ポンプ出口ライン	1.4	1.4	VT-2														○			

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の発現」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規要件に関する事業者章目の購取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表-8(6/35)

6. 重大事故等クラス2機器漏えい検査(2/4) 維持規格 JSME S NA1-2008 ※2

項目番号	カテゴリ	系統名	検査の対象箇所 ライン名	SAR時最高使用圧力 (正認記載)	検査圧力 (MPa)	検査方法	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
							2017年 第16回	2018年 第17回	2019年 第18回	2020年 第19回	2021年 第20回	2022年 第21回	2023年 第22回	2024年 第23回	2025年 第24回	2026年 第25回	
C7. 30 C7. 70	C-H	換気空調系統	Aアニュラス空気浄化ファン出口ライン	0.0048	0.0048	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	気圧検査
			Bアニュラス空気浄化ファン出口ライン	0.0048	0.0048	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
			中央制御室空調設備入口ライン	-0.00392	-	※1	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	
			中央制御室空調設備出口ライン	0.00392	-	※1	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	
			緊急時対策所指揮所ライン	0.005	0.005	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	気圧検査
			緊急時対策所待機所ライン	0.005	0.005	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	気圧検査
			緊急時対策所空気浄化ライン	0.0041	0.0041	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	気圧検査
			体積制御タンク出口ライン	0.98	0.98	VT-2	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	一部気圧検査
			A充てんポンプ出口ライン	20.0	20.0	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	○		
			B充てんポンプ出口ライン	20.0	20.0	VT-2	-	-	●	-	-	-	-	-	-		
			C充てんポンプ出口ライン	20.0	20.0	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	○		
			B充てんポンプ自己冷却ライン (充てんポンプ出口側)	20.0	20.0	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	○		
			B充てんポンプ自己冷却ライン (充てんポンプ入口側)	0.98	0.98	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	○		
			ほう酸ポンプ及び充てんポンプ連絡ライン	0.98	0.98	VT-2	-	-	-	-	-	-	-	-	○		
			Aほう酸ポンプ入口ライン	1.4	1.4	VT-2	-	-	●	-	-	-	-	-	-	一部気圧検査	
			Bほう酸ポンプ入口ライン	1.4	1.4	VT-2	-	-	●	-	-	-	-	-	-	一部気圧検査	
			Aほう酸ポンプ出口ライン	1.4	1.4	VT-2	-	-	-	-	-	●	-	-	-		
			Bほう酸ポンプ出口ライン	1.4	1.4	VT-2	-	-	-	-	-	-	●	-	-		

※1: 技術基準第58条第2項の記載の「他の方法」により外観点検を実施
 ※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の弊害(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂弊害NRA文書改正という。)」の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規
 制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	系統名	検査の対象箇所 ライン名	SA時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値)	検査圧力 (MPa)	検査方法	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考		
							2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第1回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回			
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	C-H	安全注入系統	A, B高圧注入ポンプ入ロライン	0.39	0.39	VT-2		-					-	○					
			A高圧注入ポンプ出ロライン(1)	16.7	16.7	VT-2		-	●										
			A高圧注入ポンプ出ロライン(2)	16.7	16.7	VT-2		-		●									RCS漏えい検査時実施
			B高圧注入ポンプ出ロライン(1)	16.7	16.7	VT-2		-				●							
			B高圧注入ポンプ出ロライン(2)	16.7	16.7	VT-2		-							-	○			RCS漏えい検査時実施
			格納容器再循環サブ出ロライン	0.43	0.43	VT-2		-							-		○		ガードパイプ内包部分は検査不可
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	C-H	余熱除去系統	蓄圧タンク及び出ロライン	4.9	4.9	VT-2		-					-			○		一部気圧検査	
			燃料取替用水ピット出ロライン	0	0	VT-2		-						-					
			A余熱除去ポンプ入ロライン	4.5	4.5	VT-2		-						-		○			
			B余熱除去ポンプ入ロライン	4.5	4.5	VT-2		-						-			○		
			A余熱除去ポンプ出ロライン	4.5	4.5	VT-2		-						-				○	
			B余熱除去ポンプ出ロライン	4.5	4.5	VT-2		-						-				○	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技委第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表-8(8/35)

項目番号	カテゴリ	系統名	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 検査の対象箇所		SA標準使用圧力 (MPa) (上記記載)	検査圧力 (MPa)	検査方法	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考				
			ライン名	ライン名				2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第1回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回					
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	格納容器スプレイシステム	A格納容器スプレイポンプ入ロライン		0.39	0.39	VT-2			●												
			B格納容器スプレイポンプ入ロライン		0.39	0.39	VT-2			●												
			A格納容器スプレイポンプ出ロライン(1)		2.7	2.7	VT-2										○					
			A格納容器スプレイポンプ出ロライン(2)		2.7	2.7	VT-2										○			気圧検査		
C7. 10 C7. 30 C7. 70	C-H	主蒸気系統	B格納容器スプレイポンプ出ロライン(1)		2.7	2.7	VT-2															
			B格納容器スプレイポンプ出ロライン(2)		2.7	2.7	VT-2													気圧検査		
			A蒸気発生器蒸気出ロライン		8.8	8.8	VT-2										○			プラント起動時実施		
			B蒸気発生器蒸気出ロライン		8.8	8.8	VT-2										○			プラント起動時実施		
C7. 30 C7. 70	C-H	主給水系統	C蒸気発生器蒸気出ロライン		8.8	8.8	VT-2													プラント起動時実施		
			D蒸気発生器蒸気出ロライン		8.8	8.8	VT-2										○			プラント起動時実施		
			A蒸気発生器給水入ロライン		8.8	8.8	VT-2										○			プラント起動時実施		
			B蒸気発生器給水入ロライン		8.8	8.8	VT-2										○			プラント起動時実施		
C7. 10 C7. 30 C7. 70	C-H	試料採取系統	C蒸気発生器給水入ロライン		8.8	8.8	VT-2														プラント起動時実施	
			D蒸気発生器給水入ロライン		8.8	8.8	VT-2										○			プラント起動時実施		
			格納容器水素ガス試料採取系統 入ロライン		0.98	0.98	VT-2														○	気圧検査
			格納容器水素ガス試料採取系統 出ロライン		0.98	0.98	VT-2															○

※1: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原燃技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA 文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
-維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

1. 原子炉容器(1/2)

別表-8(9/35)

維持規格 JSME SNA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	
B2. 111	B-B	上部胴と下部胴との周溶接継手	体積	クラス1機器供用期間中検査で管理
		下部胴とトランジションリングとの周溶接継手	体積	
		トランジションリングと下部鉄板との周溶接継手	体積	
B3. 105	B-C	上部胴と上部胴フランジとの溶接継手	体積	
		冷却材入口管台と胴との溶接継手	体積	
B3. 10	B-D	冷却材出口管台と胴との溶接継手	体積	
		冷却材入口管台内面の丸み部分	体積	
B3. 20	B-D	冷却材出口管台内面の丸み部分	体積	
		冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	
B5. 10	B-F	冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	
B6. 10	B-G-1	ナット	VT-1	
B6. 30	B-G-1	スタッドボルト	体積	
B6. 40	B-G-1	胴フランジネジ穴のネジ部	体積	
B6. 50	B-G-1	上蓋用ワッシャ	VT-1	
B7. 10	B-G-2	T/Cハウジングのマーマンクランプ用ボルト・ナット	VT-1	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

1. 原子炉容器(2/2)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲
G1. 10	G-P-1	原子炉容器内部	VT-3	全範囲の 7.5%
G1. 40	G-P-1	内部取付け物	VT-3	全範囲の 7.5%
G1. 40	G-P-1	上部炉心支持構造物	VT-3	全範囲の 7.5%
G1. 50	G-P-2	下部炉心支持構造物	VT-3	全範囲の 7.5%
B14. 10	B-O	制御棒駆動ハウジングの溶接継手 (上部)	体積又は 表面	最外周 25%
		制御棒駆動ハウジングの溶接継手 (下部)		
B15. 10	B-P	圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%
F1. 41	F-A	支持構造物	VT-3	全数の 25%

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会台を2020年4月1日より適用する。
 (原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会台「(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

2. 加圧器(1/2)

別表-8(11/35)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	
B2. 11	B-B	上部鏡板と上部胴との周継手	体積	全長の5%
		下部胴と下部鏡板との周継手	体積	全長の5%
		上部胴の長手継手	体積	全長の10%
B2. 12	B-B	中間胴の長手継手	体積	全長の10%
		下部胴の長手継手	体積	全長の10%
		上部胴と中間胴との周継手	体積	全長の5%
B2. 13	B-B	中間胴と下部胴との周継手	体積	全長の5%
		安全弁用管台と容器との溶接継手	体積	全数の25%
逃がし弁用管台と容器との溶接継手				
B3. 30	B-D	スプレイ用管台と容器との溶接継手		
		サージ用管台と容器との溶接継手		
B3. 40	B-D	安全弁用管台内面の丸みの部分	体積	全数の25%
		逃がし弁用管台内面の丸みの部分		
		スプレイ用管台内面の丸みの部分		
		サージ用管台内面の丸みの部分		

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 容台(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる容台(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版)2013年追補/201
 4年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

2. 加圧器 (2/2)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考
B5. 40	B-F	安全弁用管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	全数の25%	
		逃がし弁用管台とセーフエンドとの溶接継手			
		スプレイ用管台とセーフエンドとの溶接継手			
		サージ用管台とセーフエンドとの溶接継手			
B7. 20	B-G-2	マンホール取付ボルト	VT-1	全数の25%	クラス1機器供用期間中検査で管理
B8. 20	B-H	支持部材の容器への取付け溶接継手(スカート溶接継手)	表面又は体積	全長の7.5%	
B15. 20	B-P	圧力保持範囲	VT-2	漏えい検査時100%	
F1. 41	F-A	支持構造物(スカート、基礎ボルト含む)	VT-3	全数の25%	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

*維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

3. 蒸気発生器(1/1)

項目番号		カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考
B2. 40	B-B	管板と水室鏡板との溶接継手	管板と水室鏡板との溶接継手	体積	代表1基 全長の 25%	
B3. 60	B-D	冷却材入口管台の内面の丸みの部分	冷却材入口管台の内面の丸みの部分	体積	代表1基 全長の 25%	
		冷却材出口管台の内面の丸みの部分	冷却材出口管台の内面の丸みの部分			
B5. 70	B-F	冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手	冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	代表1基 全長の 25%	
		冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手	冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手			
B7. 30	B-G-2	1次側マンホールボルト(入口側)	1次側マンホールボルト(入口側)	VT-1	代表1基 全長の 25%	
		1次側マンホールボルト(出口側)	1次側マンホールボルト(出口側)			
B8. 30	B-H	水室鏡とサポートパッドとの溶接継手	水室鏡とサポートパッドとの溶接継手	表面	代表1基 全長の 7.5%	
B15. 30	B-P	圧力保持範囲	圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%	
F1. 41	F-A	支持構造物	支持構造物	VT-3	代表1基 の25%	

※1. NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/201
 4年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(1/3)

別表-8(14/35)

維持規格 JSME SNA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)			
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考
B9. 11	B-J	配管の 同種金属 溶接継手 (呼び径100A 以上:周継手)	1次冷却材管 加圧器サージライン 加圧器安全弁ライン 加圧器逃がし弁ライン 余熱除去ポンプ入口ライン SIS蓄圧注入ライン SIS低温側低圧注入ライン	体積 体積 体積 体積 体積 体積 体積	
B9. 21	B-J	配管の 同種金属 溶接継手 未滿:周継手)	加圧器逃がし弁ライン CVCS充てんライン 余熱除去ポンプ入口ライン SIS低温側高圧補助 注入ライン	表面 表面 表面 表面	全数の 25% 全数の 25% 全数の 25% 全数の 25%

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「専用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/201
 4年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(2/3)

項目番号		カテゴリ	維持規格 JSME SNA1-2008 ※1		検査方法	検査範囲	備考
			検査の対象箇所				
B9. 31	B-J	母管と管台との溶接継手(呼び径100A以上)	1次冷却材管	体積	全数の25%	クラス1機器供用期間中検査で管理	
		1次冷却材管	表面	表面	全数の25%		
		母管と管台との溶接継手(呼び径100A未満)	余熱除去ポンプ入口ライン	表面	全数の25%		
B9. 32	B-J		SIS蓄圧注入ライン	表面	全数の25%		
			SIS低温側低圧注入ライン	表面	全数の25%		
B9. 40	B-J	ソケット溶接継手	SIS低温側高圧補助注入ライン	表面	全数の25%		
B10. 20	B-K	耐圧部分への支持部材の取付け溶接継手	余熱除去ポンプ入口ライン	表面	全数の7.5%		
B15. 50	B-P	圧力保持範囲		VT-2	漏えい検査時100%		

※1: NRA文書「専用発電炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第17保全サイクルまで)

4. 配管(3/3)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

別表-8(16/35)

維持規格 JSME SNA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法		
F1. 10	F-A	支持構造物	加圧器サージライン	VT-3	全数の25%
			加圧器逃がし弁ライン	VT-3	全数の25%
			CVCS充てんライン	VT-3	全数の25%
			余熱除去ポンプ投入ライン	VT-3	全数の25%
			SIS蓄圧投入ライン	VT-3	全数の25%
			SIS低温側低圧投入ライン	VT-3	全数の25%
			SIS低温側高圧補助投入ライン	VT-3	全数の25%
			クラス1機器供用期間中検査で管理		

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

- ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

5. 1次冷却材ポンプ(1/1)

項目番号		カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考
B6. 180				主フランジボルト	体積	代表1台の 25%	
B6. 190	B-G-1			主フランジ表面	VT-1	代表1台の 25%	
B6. 200				主フランジナット・ワッシャ	VT-1	代表1台の 25%	
B12. 20	B-L-2			ケーシングの内表面	VT-3	代表1台の 100%	
B15. 60	B-P			圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%	
F1. 41	F-A			支持構造物	VT-3	代表1台の 25%	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/201
 4年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

6. 弁(1/2)

別表-8(18/35)

項目番号		カテゴリ	維持規格 JSME SNA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
		検査の対象箇所	検査方法	検査範囲			
B7. 70	B-G-2	直径50mm以下の圧力保持用ボルト締付部	加圧器安全弁ライン	VT-1	代表1台の25%	クラス1機器供用期間中検査で管理	3V-RC-055
			加圧器逃がし弁ライン	VT-1	代表1台の25%		3V-RC-056
			CVCS充てんライン	VT-1	代表1台の25%		3V-RC-057
B12. 50	B-M-2	呼び径100Aを超える弁箱	余熱除去ポンプ入口ライン	VT-1	代表1台の25%	クラス1機器供用期間中検査で管理	3V-RC-054A・B
			SIS蓄圧注入ライン	VT-1	代表1台の25%		3PCV-452A・B
			SIS低温側低圧注入ライン	VT-1	代表1台の25%		3V-CS-164
B15. 70	B-P	圧力保持範囲	加圧器安全弁ライン	VT-3	代表1台の100%	クラス1機器供用期間中検査で管理	3V-CS-166
			余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	代表1台の100%		3PCV-420.3PCV-430
			SIS蓄圧注入ライン	VT-3	代表1台の100%		3V-RH-002A・B
B15. 70	B-P	圧力保持範囲	SIS低温側低圧注入ライン	VT-3	代表1台の100%	クラス1機器供用期間中検査で管理	3V-SI-134A・B・C・D
			加圧器安全弁ライン	VT-3	代表1台の100%		3V-SI-136A・B・C・D
			余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	代表1台の100%		3V-RH-050A・B・C・D
B15. 70	B-P	圧力保持範囲	加圧器安全弁ライン	VT-2	漏えい検査時100%	クラス1機器供用期間中検査で管理	3V-RC-055
			余熱除去ポンプ入口ライン	VT-2	漏えい検査時100%		3V-RC-056
			SIS蓄圧注入ライン	VT-2	漏えい検査時100%		3V-RC-057

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

6. 弁(2/2)

項目番号		カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
		検査の対象箇所	検査方法	検査範囲			
F1.41	F-A	加圧器安全弁ライン	VT-3	代表1台の25%	クラス1機器供用期間中検査で管理	3V-RC-055	
			VT-3	代表1台の25%		3V-RC-056	
		支持構造物 加圧器逃がし弁ライン	VT-3	代表1台の25%		3V-RC-057	
			VT-3	代表1台の25%		3V-RC-054A・B	
		余熱除去ポンプ入ロライン	VT-3	代表1台の25%		3PCV-420,3PCV-430 3V-RH-002A・B	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会社「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器Ni基金使用部位特別検査範囲)

別表-8(20/35)

機器名		NRA文書(原規技発第1408063号) ※1※2			大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	検査頻度	クラス1機器Ni基金使用部位特別検査で管理		
原子炉容器	原子炉容器底部の表面	—	—	100%/5年			
	計装用貫通部溶接継手	BMV	58箇所				

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、令和元年亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会社「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、令和元年亀裂解釈NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。
 ・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日)：2020年4月1日(第18保全サイクル)～2021年7月20日
 ※2：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和3年7月21日原規技発第2107219号)の改正版(以下、令和3年亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行を踏まえ、令和3年亀裂解釈NRA文書改正を2021年7月21日より適用する。
 ・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第2107219号(改正 令和3年7月21日(第19保全サイクル)～

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2管(原子炉格納容器内)特別検査範囲)

別表-8(21/35)

項目番号	カテゴリ	NRA文書(原規技発第1408063号) ※1※2			検査計画(10カ年)	備考
		検査の対象箇所	検査方法	検査範囲		
-	-	配管	-	-	クラス2管(原子炉格納容器内)特別検査で管理	
		充てんライン(3B)	体積	25%		
		再生熱交換器連絡管	-	-		
		充てんライン連絡管(3B)	体積	25%		

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、令和元年亀裂解釈NRA文書改正という。)
 の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規要件に関する
 事業者意見の聴取にかかると合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、令和元年亀裂解釈NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。
 ・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日): 2020年4月1日(第18保全サイクル)~2021年7月20日
 ※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和3年7月21日原規技発第2107219号)の改正版(以下、令和3年亀裂解釈NRA文書改正という。)
 の施行を踏まえ、令和3年亀裂解釈NRA文書改正を2021年7月21日より適用する。
 ・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第2107219号(改正 令和3年7月21日): 2021年7月21日(第19保全サイクル)~

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

項目番号		カテゴリ	維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014	検査方法	検査範囲	備考
			検査の対象箇所			
C1. 10	C-A		中間胴と下部胴の周溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)
			円錐胴と中間胴の周溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	
			上部胴と円錐胴の周溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	
			上部鉄板と上部胴の周溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	
C1. 20	C-A		下部胴と管板の周溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	
			給水入口管台と容器との溶接継手	体積及び 表面	代表1基 全長の 7.5%	
C2. 21	C-B		蒸気出口管台と容器との溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	
			給水入口管台内面の丸みの部分	体積	代表1基 全長の 7.5%	
C2. 22	C-B		蒸気出口管台内面の丸みの部分	体積	代表1基 全長の 7.5%	

クラス2機器供用期間中検査で管理

項目番号		カテゴリ	維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014	検査方法	検査範囲	備考
			検査の対象箇所			
C1. 10	C-A		管側胴と管側フランジとの周溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)
			管側鏡板と管側胴との溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	
C2. 21	C-B		管側入口管台と管側胴との溶接継手	体積及び 表面	代表1基 全長の 7.5%	
			管側出口管台と管側胴との溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	
C4. 10	C-D		全ねじボルト	体積	代表1基 全長の 7.5%	

クラス2機器供用期間中検査で管理

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

3. 格納容器スプレイ冷却器 維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014		大飯発電所 第3号機 検査計画(10年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	
C1. 10	C-A	管側胴と管側フランジとの周溶接継手	体積	クラス2機器供用期間中検査で管理
C1. 20	C-A	管側鏡板と管側胴との溶接継手	体積	
C4. 10	C-D	全ねじボルト	体積	
			検査範囲	
			代表1基 全長の 7.5%	
			代表1基 全長の 7.5%	
			代表1基 全長の 7.5%	

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(1/5)		維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014		大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		別表-8(24/35)	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考		
C3. 20	C-C	高圧注入ポンプ出口ロライン (1)	表面	全数の 7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理		
		高圧注入ポンプ出口連絡ライ ン	表面	全数の 7.5%			
		余熱除去ポンプ入ロライン	表面	全数の 7.5%			
		余熱除去冷却器出口ロライン	表面	全数の 7.5%			
		SIS低温側低圧注入ライン	表面	全数の 7.5%			
		格納容器再循環サンプ 出口ロライン	表面	全数の 7.5%			
		主給水ライン	表面	全数の 7.5%			
		主蒸気ライン	表面	全数の 7.5%			
		高圧注入ポンプ出口ロライン (2)	表面	全数の 7.5%			
				支持部材取 付け溶接継 手			

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(2/5)		維持規格 USME S NAI- 2012/2013/2014		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		別表-8(25/35)	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考		
C5. 11	C-F	充てんポンプ出口ライン	体積及び表面	全数の7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理		
		余熱除去ポンプ入口ライン	体積又は表面	全数の7.5%			
		余熱除去ポンプ出口ライン	体積又は表面	全数の7.5%			
		余熱除去冷却器出口ライン	体積及び表面	全数の7.5%			
		SIS低温側低圧注入ライン	体積及び表面	全数の7.5%			
		呼び径100Aを超える管で公称厚さが9.5mmを超える溶接継手	体積及び表面	全数の7.5%			
		高圧注入ポンプ出口ライン(1)	体積及び表面	全数の7.5%			
		格納容器再循環サンプ出口ライン	体積又は表面	全数の7.5%			
		燃料取替用水ピット出口ライン	体積又は表面	全数の7.5%			
		主給水ライン	表面	全数の7.5%			
主蒸気ライン	表面	全数の7.5%					
高圧注入ポンプ出口ライン(2)	表面	全数の7.5%					

重事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(3/5)		維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	
C5. 12	C-F	呼び径100Aを超える管で公称厚さが9.5mmを超える溶接継手		体積又は表面	全数の7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理
		燃料取替用水ピット出口ライン		体積又は表面	全数の7.5%	
		主蒸気ライン		体積及び表面	全数の7.5%	
C5. 21	C-F	高圧注入ポンプ出口ライン(1)		表面	全数の7.5%	
		高圧注入ポンプ出口連絡ライン		表面	全数の7.5%	
		SIS低温側高圧補助注入ライン		表面	全数の7.5%	
C5. 30	C-F	ソケット溶接継手		表面	全数の7.5%	
C5. 41	C-F	呼び径50Aを超える母管と管台及び母管と枝管との溶接継手		表面	全数の7.5%	

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(4/5)		維持規格 JSME S-NA1-2012/2013/2014		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		別表-8(27/35)	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考		
F1.21	F-A	充てんポンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理		
		余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	全数の 7.5%			
		余熱除去ポンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%			
		余熱除去冷却器出入口ライン	VT-3	全数の 7.5%			
		余熱除去冷却器出口ライン	VT-3	全数の 7.5%			
		SIS低温側低圧注入ライン	VT-3	全数の 7.5%			
		高圧注入ポンプ出口ライン(1)	VT-3	全数の 7.5%			
		高圧注入ポンプ出口連絡ライン	VT-3	全数の 7.5%			
		SIS低温側高圧補助注入ライン	VT-3	全数の 7.5%			
		格納容器再循環サブ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%			
		燃料取替用水ピット出口ライン	VT-3	全数の 7.5%			

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(5/5)		維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		別表-8(28/35)	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考		
F1. 21	F-A	格納容器スプレイポンプ 入ロライン	VT-3	全数の 7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理		
		格納容器スプレイポンプ 出ロライン	VT-3	全数の 7.5%			
		格納容器スプレイ冷却器 入ロライン	VT-3	全数の 7.5%			
		格納容器スプレイ冷却器 出ロライン	VT-3	全数の 7.5%			
		主給水ライン	VT-3	全数の 7.5%			
		主蒸気ライン	VT-3	全数の 7.5%			
		高圧注入ポンプ入ロライン	VT-3	全数の 7.5%			
		高圧注入ポンプ出ロライン(2)	VT-3	全数の 7.5%			
		支持構造物					

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

別表-8(29/35)

5. 充てんポンプ		維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	クラス2機器供用期間中検査で管理		
C3. 30	C-C	ポンプ支持部材取付け溶接継手	表面	全数の7.5%			
C4. 30	C-D	ケーシングボルト	体積	代表1台の7.5%			
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台の7.5%			
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%			

6. 充てんポンプ(往復動式)		維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	クラス2機器供用期間中検査で管理		
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	全数の7.5%			

7. 余熱除去ポンプ		維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	クラス2機器供用期間中検査で管理		
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台の7.5%			
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%			

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

別表-8(30/35)

8. 高圧注入ポンプ		維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲			
C3. 30	C-C	ポンプ支持部材取付け溶接継手	表面	全数の7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理		
C4. 30	C-D	ケーシングボルト	体積	代表1台の7.5%			
C5. 30	C-F	バランスフランジ及びバランス管の耐圧部分の溶接継手	表面	全数の7.5%			
C6. 10	C-G	外部ケーシング、ケーシングカバー及びバランス管台の溶接継手	表面	代表1台の7.5%			
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%			

9. 格納容器スプレイポンプ		維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲			
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台の7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理		
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7.5%			

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

10. クラス2弁		維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014		大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		別表-8(31/35)	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考		
F1. 43	F-A	余熱除去冷却器出入ロライン	VT-3	代表1台の7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理		3HCV-603
		余熱除去冷却器出口ロライン	VT-3	代表1台の7.5%			3HCV-613
		格納容器再循環サンプ出ロライン	VT-3	代表1台の7.5%			3V-RH-043A・B
		主蒸気ライン	VT-3	代表1台の7.5%			3V-SI-093A・B
		タービン動補助給水ポンプ蒸気供給ライン	VT-3	代表1台の7.5%			3V-MS-523A・B・C・D
		高圧注入ポンプ入ロライン	VT-3	代表1台の7.5%			3V-MS-575A・B

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

3.重大事故等クラス2機器漏えい検査

別表-8(34/35)

項目 番号	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1		検査 方法	検査 圧力 (MPa)	SAI時最高使用 圧力 (MPa) (工認記載値)	検査 圧力 (MPa)	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考		
	カテゴリ	系統名					検査の対象箇所	ライン名	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		2025年	2026年
									第16回	第一回	第17回	第18回	第19回	第一回	第20回	第21回		第22回	
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	C-H	原子炉補機 冷却海水系統		A 海水ポンプライン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
				B 海水ポンプライン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
				C 海水ポンプライン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
				A 海水ヘッド出口ライン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
C7.30 C7.50 C7.70	C-H	補助給水系統		A, B 電動補助給水ポンプ ライン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
				タービン 電動補助給水ポンプ ライン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
				A 電動補助給水ポンプ出口 ライン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
				B 電動補助給水ポンプ出口 ライン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
C7.10	C-H	非常用ディーゼル発電機 系統		A-非常用ディーゼル発電機 起動空気ライン	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
				B-非常用ディーゼル発電機 機起動空気ライン	-	-	-	-	-	-	-	-	-						

※1: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈 NRA 文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年版/2014年追補/2020年4月1日より適用する。
なお、本サイクル内の過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格 2008 年版: 2013 年 7 月 ~ 2020 年 3 月 (新規制基準施行による維持規格 2008 年版の即時適用 ~ 第 17 保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

1. プレストレストコンクリート格納容器

検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	頻度	大飯発電所 第3号機 検査計画(10年間)										備考			
				2017年 第16回	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第20回	2023年 第一回	2024年 第21回	2025年 第22回	2026年 第23回				
コンクリート部	目視検査	PCCV基面選定部位 検査テンドン定着部周辺	PCCV-ISIの 頻度による	●※	-		●					-		○			
ライナプレート部	目視検査	ライナプレート表面選定部位	PCCV-ISIの 頻度による	●※	-		●					-		○			
緊張材定着部	目視検査	検査テンドンの緊張材定着部表面	PCCV-ISIの 頻度による	●※	-		●					-		○			
テンドン	緊張力確認検査	テンドン 4本 逆リテンドン 3本	PCCV-ISIの 頻度による	●※	-		●					-		○			
防錆材	防錆材検査	検査テンドンの端部から採取	PCCV-ISIの 頻度による	●※	-		●					-		○			

※平成27年度実施のプレストレストコンクリート格納容器供用期間中検査自主検査の記録確認

クラス1配管特別検査4年計画

別表-10(1/1)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S.NA1-2012/2013/2014	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数※	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(4カ年)				備考
									2022年 第19回	2023年	2024年 第20回	2025年 第21回	
-	-		配管の耐圧部分の溶接継手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
				体積	100%	1箇所	UT	100% (1箇所) 毎定検	●	-	○	○	
				体積	100%	2箇所	UT	100% (1箇所) 毎定検	●	-	○	○	第18回定検にて、過大な入熱を低減する対策を実施済みであるため、1箇所については検査対象外。
				体積	100%	6箇所	UT	100% (6箇所) 毎定検	●	-	○	○	
				体積	100%	5箇所	UT	100% (5箇所) 毎定検	●	-	○	○	

※試験カテゴリB-J、項目番号B9.11のうち、「運転温度200℃以上」、「応力改善の実施の有無」、「全層TIG溶接の適用の有無」、「過大な溶接入熱の可能性の有無」及び「形状による影響」より抽出される箇所

別図

定期事業者検査時の安全管理の計画

定期事業者検査時の安全管理の計画

項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	関連設備	主要工程															
					▽解列 RCS 降温	R/V開放	燃料取出	燃料装荷	起動試験	起動前点検	▽並列	起動試験	調整運転							
RCS 水位		モード3 (P-1 以上)	<p>の3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをバイパスできる。][原子炉保護計装]</p> <p>・(非常用炉心冷却系) 原子炉圧力低: 4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをバイパスできる)</p> <p>・(非常用炉心冷却系・主蒸気ライン隔離) 主蒸気ライン圧力低: 各主蒸気ライン毎に4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをバイパスできる)</p> <p>・P-11 (加圧器圧力): 4チャンネル</p>	<p>・左配信号検出、伝送ライン</p>	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モード外	6-2	6-1	5-2	5-1	4	5-1	4	4	3
			モード3 (P-1 未満)	<p>・(主蒸気ライン隔離) 主蒸気ライン圧力減少率高: 各主蒸気ライン毎に4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをバイパスできる)</p>	<p>・左配信号検出、伝送ライン</p>	△														
安全上特に重要な関連機能(電源供給)	第34条 計測および制御設備(ディーゼル発電機起動計装)	モード3、4	<p>・ディーゼル発電機起動論理回路: 2系統</p> <p>・(ディーゼル発電機起動) 非常用炉心冷却系作動</p>	<p>・ディーゼル発電機起動計装</p> <p>・左配信号検出、伝送ライン</p>	×	×													×	
			モード5、6および照射済燃料移動中	<p>・ディーゼル発電機起動論理回路: 1系統</p>	<p>・ディーゼル発電機起動計装</p> <p>・左配信号検出、伝送ライン</p>															
第78条の3 外部電源		モード3、4、5、6および照射済燃料移動中	<p>・(ディーゼル発電機起動) 非常用高圧母線低電圧: 所要の母線あたり3チャンネル</p> <p>(1) 外部電源3回路(当該原子炉に対する個々の非常用高圧母線全てに対して電力供給することができる発電所からの送電線の回線数) 以上が動作可能(送電線事故の発生時は適用しない)</p> <p>(1) 外部電源のうち1回線以上は他の回線に対して独立性を有していること。(独立性を有するとは、「送電線の上流において1つの変電所または開閉所のみに関連しないこと」をいう。1つの変電所または開閉所のルートにより供給または受電している場合であっても、設備構成として、別ルートで連系が可能な状態であれば独立性を有しているとみなすことができる。)</p>	<p>・外部電源</p> <p>・予備変圧器</p>	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	
			モード3、4	<p>・ディーゼル発電機2番が動作可能(予備潤滑油証(タ一二二、エアラン)を行う場合適用しない)(ディーゼル発電機が動作不能時は、第90条(表90-15)の運転上の制限も確認する。)</p> <p>・燃料油サービスタタンク貯油量(保油量): 0.95m³以上(ディーゼル発電機が運転中および運転終了後の24</p>	<p>・ディーゼル発電機</p> <p>・燃料油サービスタタンク</p>	×	×													×

